

第2次京都市生活安全基本計画
中間見直しに向けたアンケート調査
【結果報告書】

平成 28 年3月

京 都 市

目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査概要	1
3. 比較対象	1
4. 報告書の見方.....	1
5. 回答者の属性.....	2
6. サンプルング誤差	4
II. 調査結果	5
1. 犯罪や迷惑行為に関する安心・安全について	5
2. 事故に関する安心・安全について	24
3. 犯罪・事故の被害者支援について	33
4. 地域による防犯・事故防止について	39
5. 安心・安全を実現するための総合的な取組について	53

I. 調査の概要

1. 調査の目的

「第2次京都市生活安全（防犯・事故防止）基本計画」の中間見直しに向けた基礎資料とすることを目的として、市民の皆様が日々安心して安全な暮らしを実感しているかどうか、地域による防犯・事故防止への考え方など、市民の皆様の意識やニーズを探るためにアンケート調査を実施しました。

2. 調査概要

- 調査対象者：20歳以上の京都市民3,000人
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査期間：平成28年1月20日（水）～2月3日（水）
- 調査方法：郵送配布，回収
- 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000	1,401	46.7%

3. 比較対象

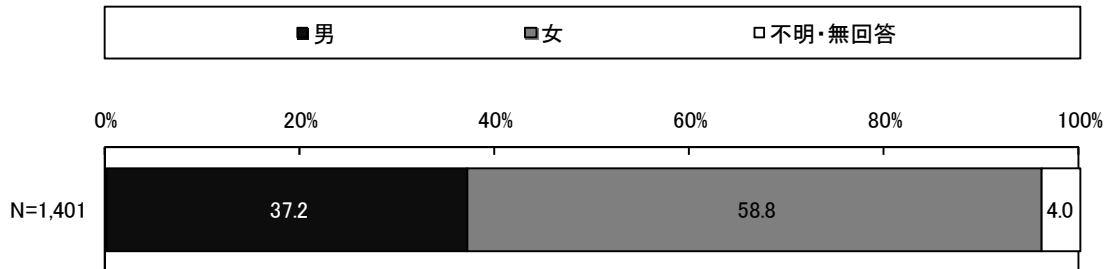
	調査名	実施時期	対象	回収数 (回収率)
全国調査 (内閣府)	治安に関する特別世論調査	平成24年 7月	20歳以上の日本国籍 を有する者	1,956/3,000 (65.2%)
前回調査 (京都市)	次期京都市生活安全基本計画 策定のためのアンケート調査	平成21年 11月	20歳以上の京都市民	1,489/3,000 (49.6%)

4. 報告書の見方

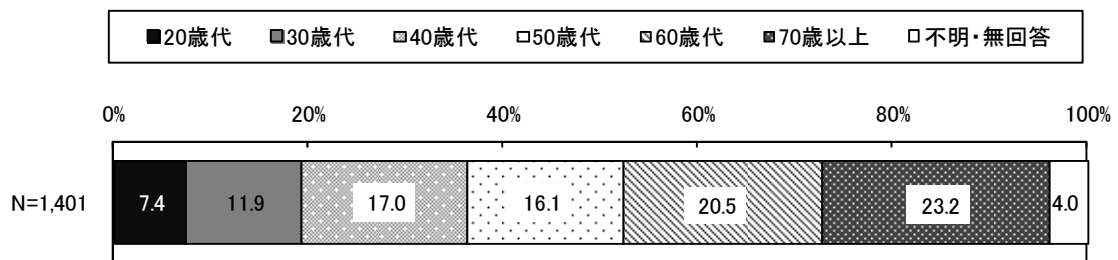
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 図表中において、割合が0.0%の場合は、省略している場合があります。

5. 回答者の属性

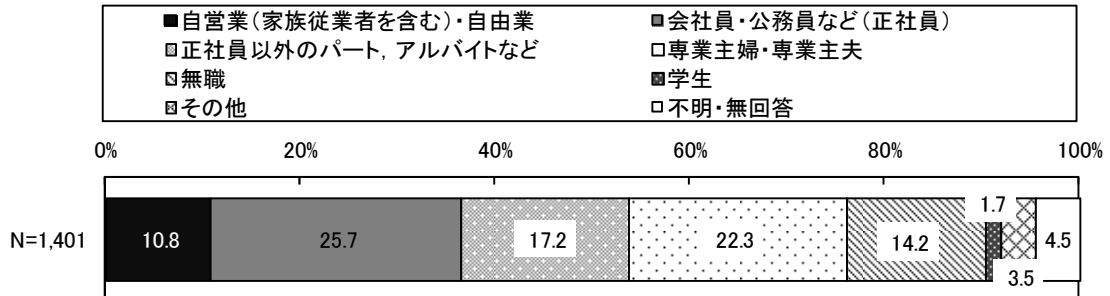
●性別



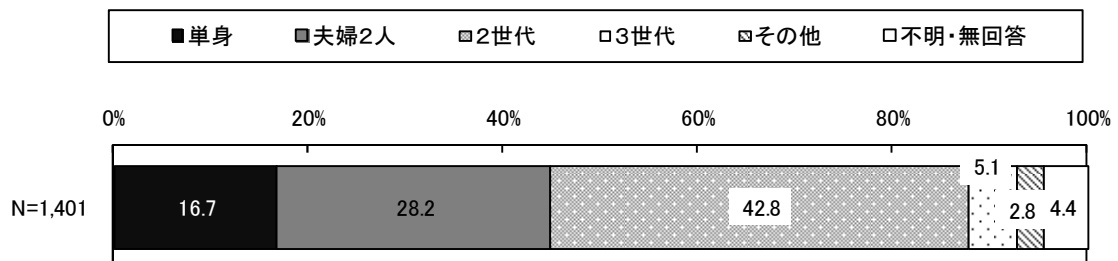
●年齢



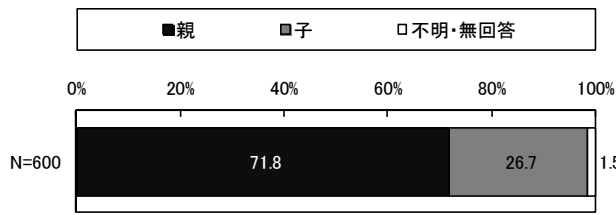
●職業



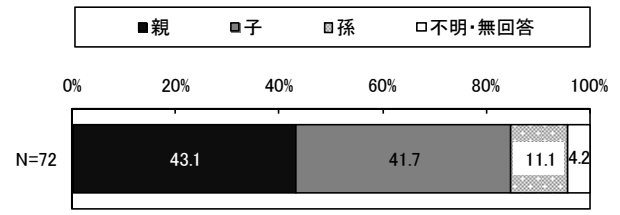
●家族構成



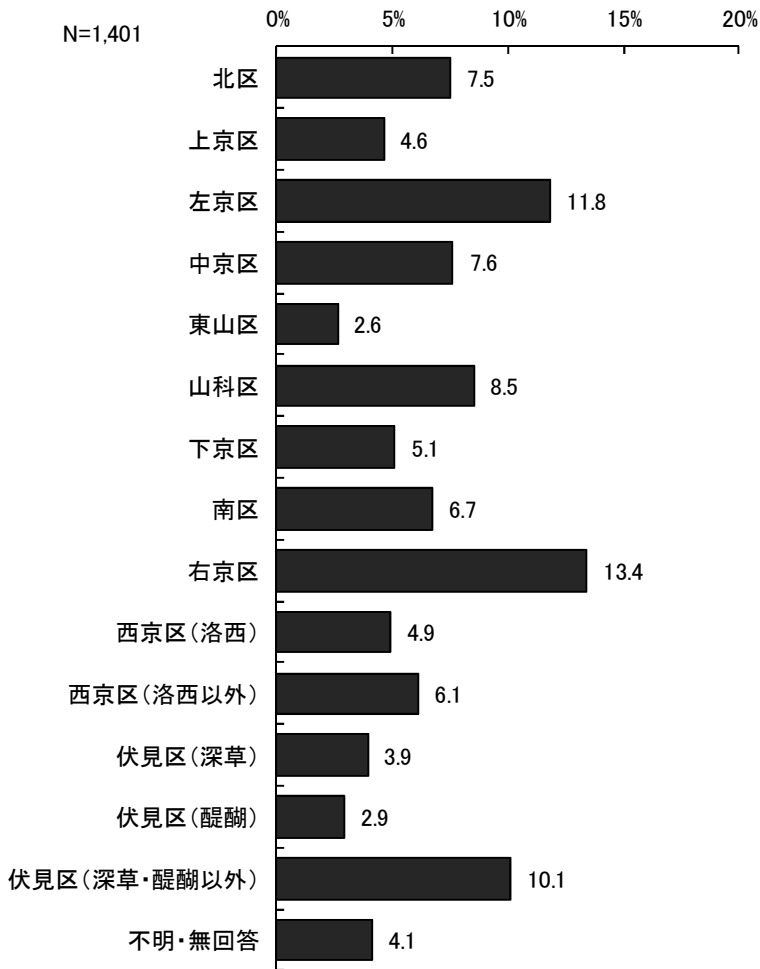
●家族構成で「2世代」と答えた方



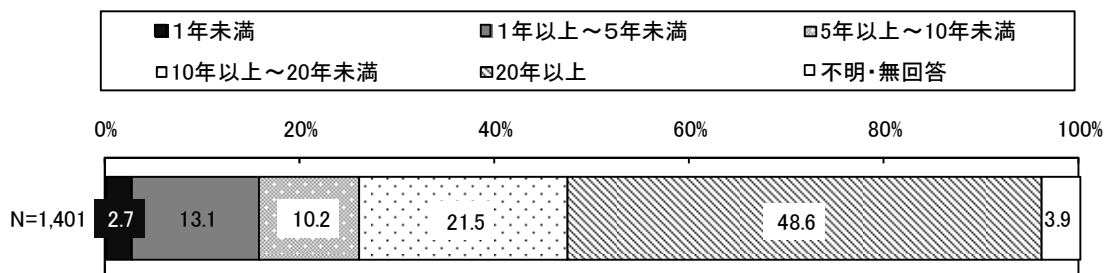
●家族構成で「3世代」と答えた方



●地域



●居住年数



6. サンプル誤差

アンケート調査においては、回収されたサンプル数の回答分布と、母集団（本調査においては20歳以上の京都市民全体）の回答分布との間には、一定の誤差（サンプリング誤差）が生じます。誤差の範囲は、母集団の大きさ、サンプル数、回答率、信頼度（算出された範囲に誤差が収まる確率）から、統計学的に求めることができます。

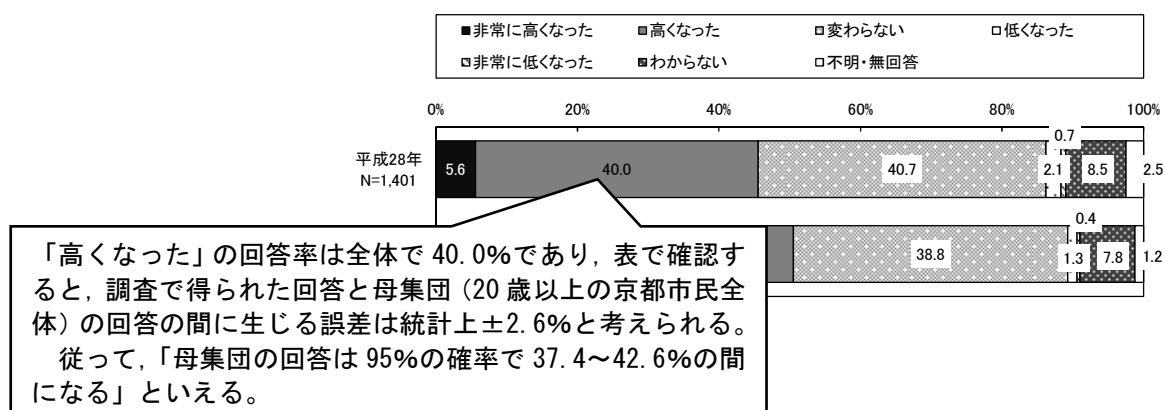
信頼度を、社会調査で一般的な95%としたとき、本調査におけるサンプリング誤差を算出すると、下表のとおりとなります。

全体集計については、誤差が±2.6%の範囲に収まっており、社会調査としてはおおむね妥当な回答が得られていると考えられますが、年齢別集計等で回答者数が少なくなると、それだけ誤差の範囲が大きくなるため、結果の解釈には慎重になる必要があります。

●信頼度 95%における主要な回答率の属性別サンプリング誤差

属性 (サンプル数)	回答率	10.0%	20.0%	30.0%	40.0%	50.0%
		90.0%	80.0%	70.0%	60.0%	50.0%
全体 (N=1,401)		±1.6%	±2.1%	±2.4%	±2.6%	±2.6%
男性 (N=521)		±2.6%	±3.4%	±3.9%	±4.2%	±4.3%
女性 (N=824)		±2.0%	±2.7%	±3.1%	±3.3%	±3.4%
20歳代 (N=103)		±5.8%	±7.7%	±8.8%	±9.5%	±9.7%
30歳代 (N=167)		±4.5%	±6.1%	±6.9%	±7.4%	±7.6%
40歳代 (N=238)		±3.8%	±5.1%	±5.8%	±6.2%	±6.4%
50歳代 (N=225)		±3.9%	±5.2%	±6.0%	±6.4%	±6.5%
60歳代 (N=287)		±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
70歳以上 (N=325)		±3.3%	±4.3%	±5.0%	±5.3%	±5.4%

(例)「問1 あなたやあなたの家族が犯罪にあう可能性について、どのようにお感じですか。」について、「高くなった」の母集団とのサンプリング誤差



Ⅱ. 調査結果

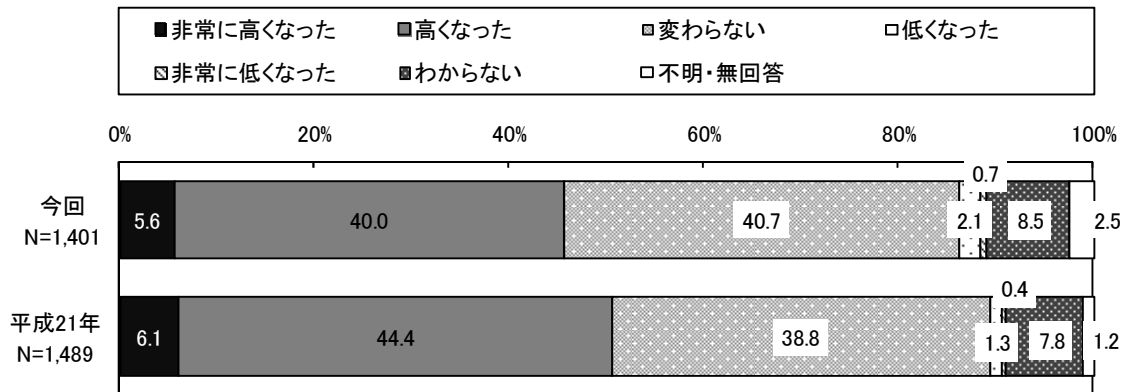
1. 犯罪や迷惑行為に関する安心・安全について

問 1 あなたやあなたの家族が犯罪にあう可能性について、どのようにお感じですか。
 日常の行動範囲内（自宅周辺、市内の通勤・通学、買物等で行く地域）で当てはまるものをお答えください。（〇は1つだけ）

【全体傾向】

『高くなった』（「非常に高くなった」「高くなった」の計）は 45.6%，『低くなった』（「非常に低くなった」「低くなった」の計）は 2.8%となっている。

平成 21 年と比較すると、今回は『高くなった』が 4.9 ポイント低い。

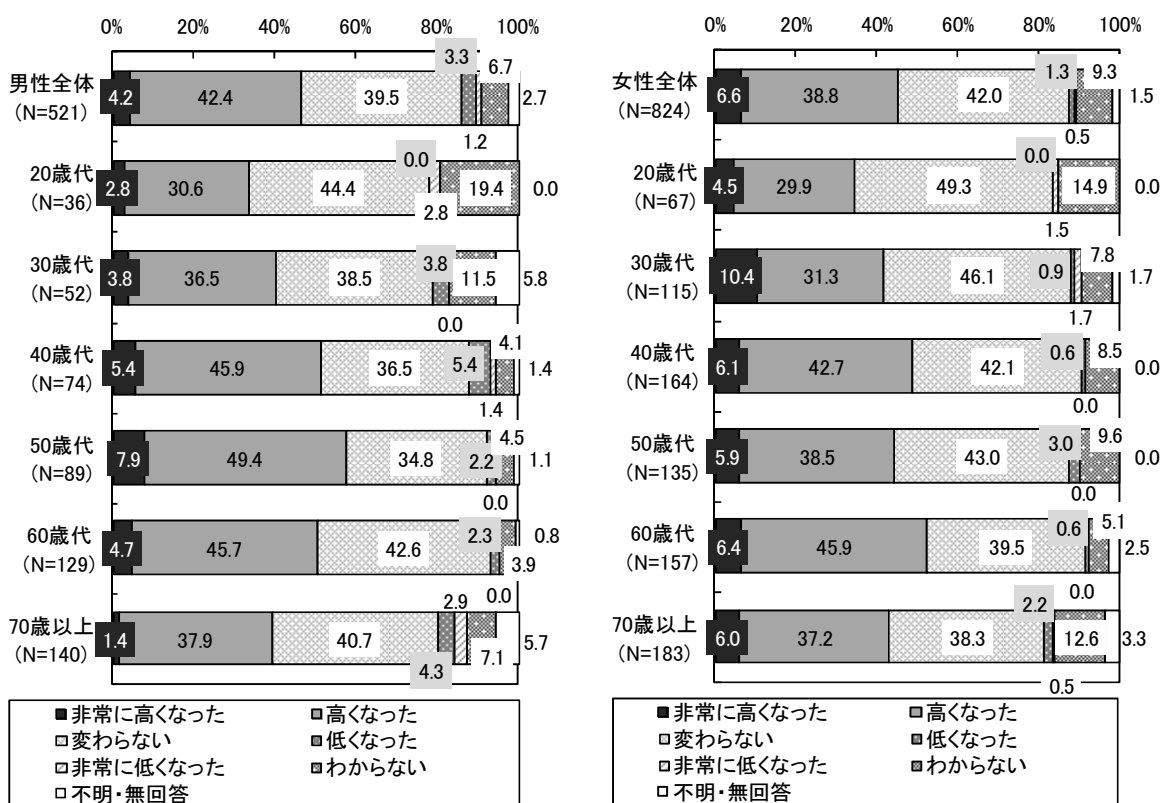


【男女年齢別】

男性全体、女性全体では、『高くなった』は男性で46.6%、女性で45.4%となっており、大きな差はみられない。

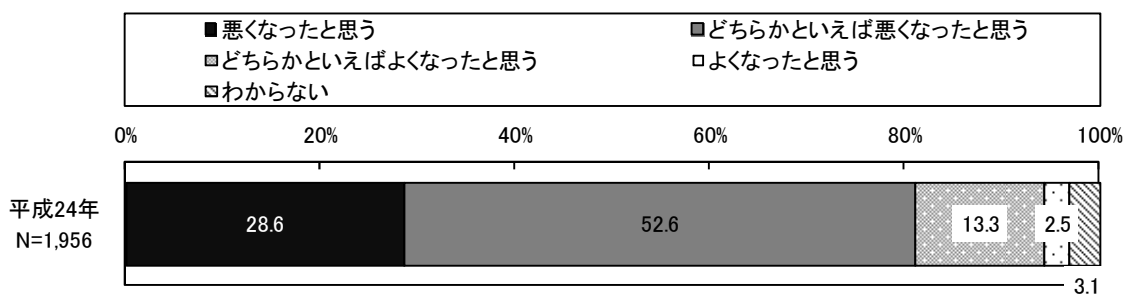
男女年齢別では、『高くなった』は男性の20歳代～50歳代で、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。

<男女年齢別>



【参考：全国調査】

全国調査「Q2 あなたは、ここ10年間で日本の治安はよくなったと思いますか。それとも、悪くなったと思いますか。(ひとつだけ〇)」では、『悪くなったと思う』(「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」の計)は81.2%、『よくなったと思う』(「よくなったと思う」「どちらかといえばよくなったと思う」の計)は15.8%となっている。



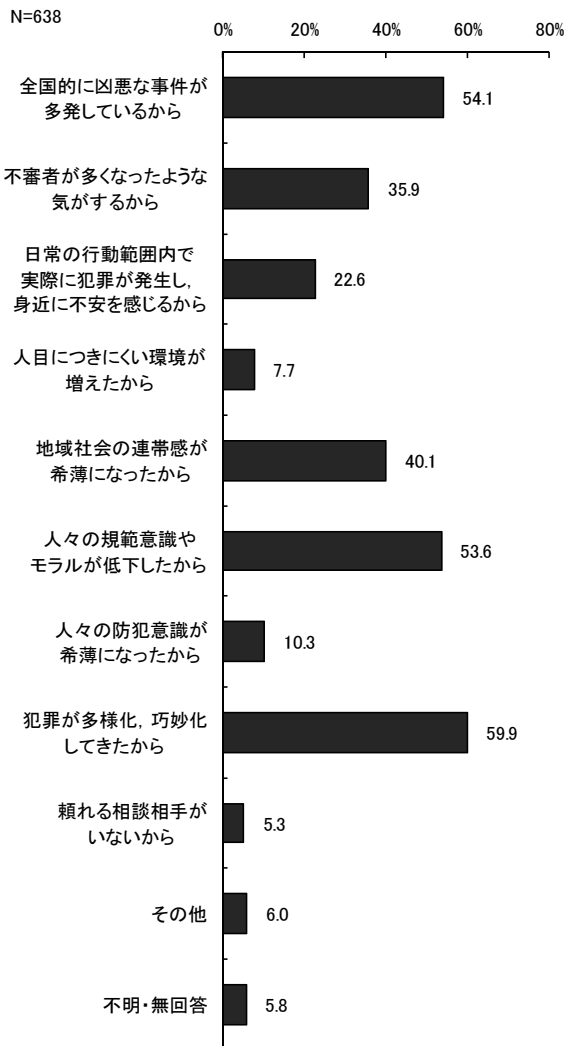
問2 問1で「非常に高くなった」「高くなった」と答えた方へおたずねします。犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【全体傾向】

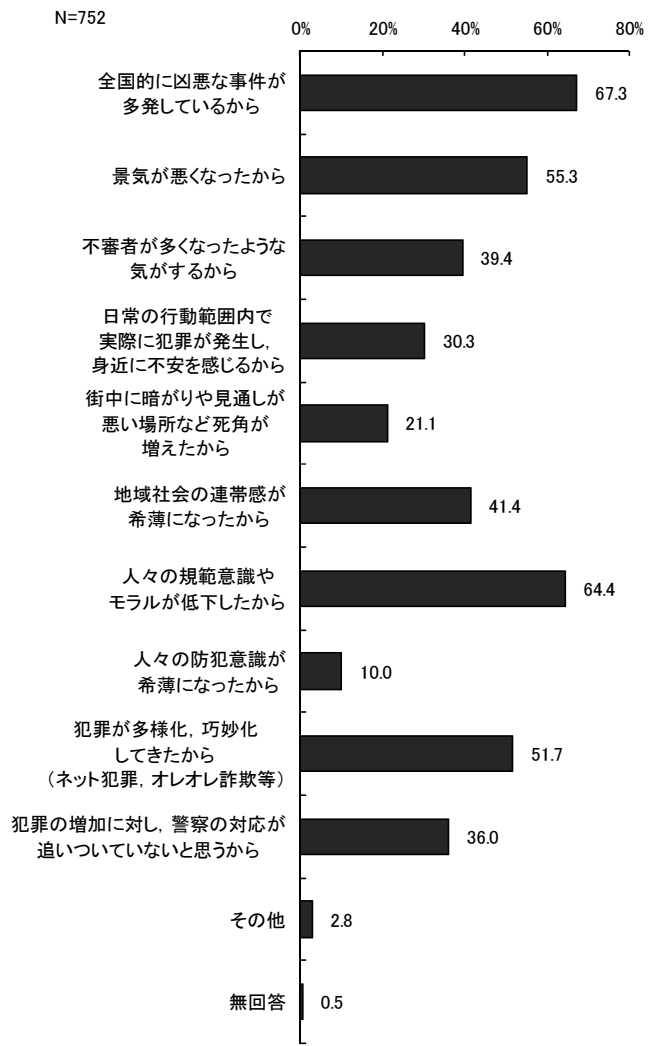
「犯罪が多様化、巧妙化してきたから」が59.9%と最も高い。次いで、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」が54.1%、「人々の規範意識やモラルが低下したから」が53.6%と続いている。

平成21年と比較すると、今回は「全国的に凶悪な事件が多発しているから」が13.2ポイント、「人々の規範意識やモラルが低下したから」が10.8ポイント低い。また、「犯罪が多様化、巧妙化してきたから」は平成21年より8.2ポイント高い。

<今回>



<参考：平成21年>

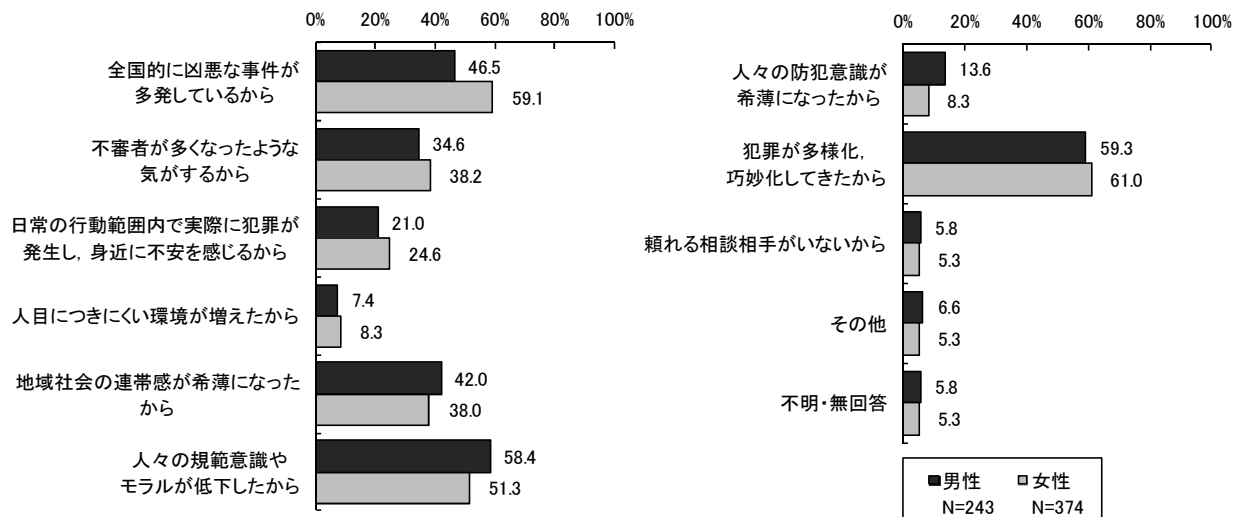


【男女別・年齢別】

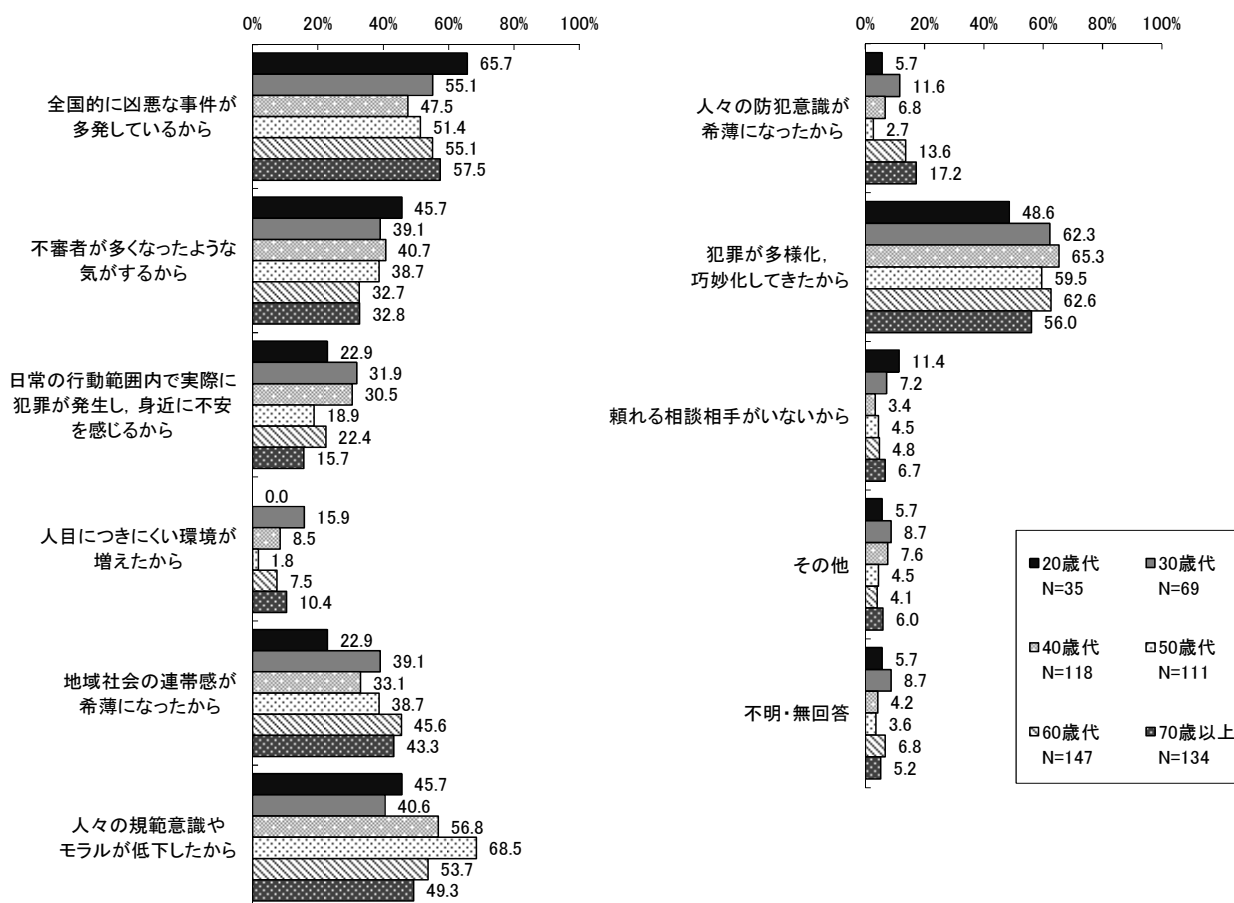
男女別では、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」は女性で高く、「人々の規範意識やモラルが低下したから」は男性で高い。

年齢別では、「地域社会の連帯感が希薄になったから」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。また、「人々の規範意識やモラルが低下したから」は、他の年齢に比べて50歳代で高い。

<男女別>



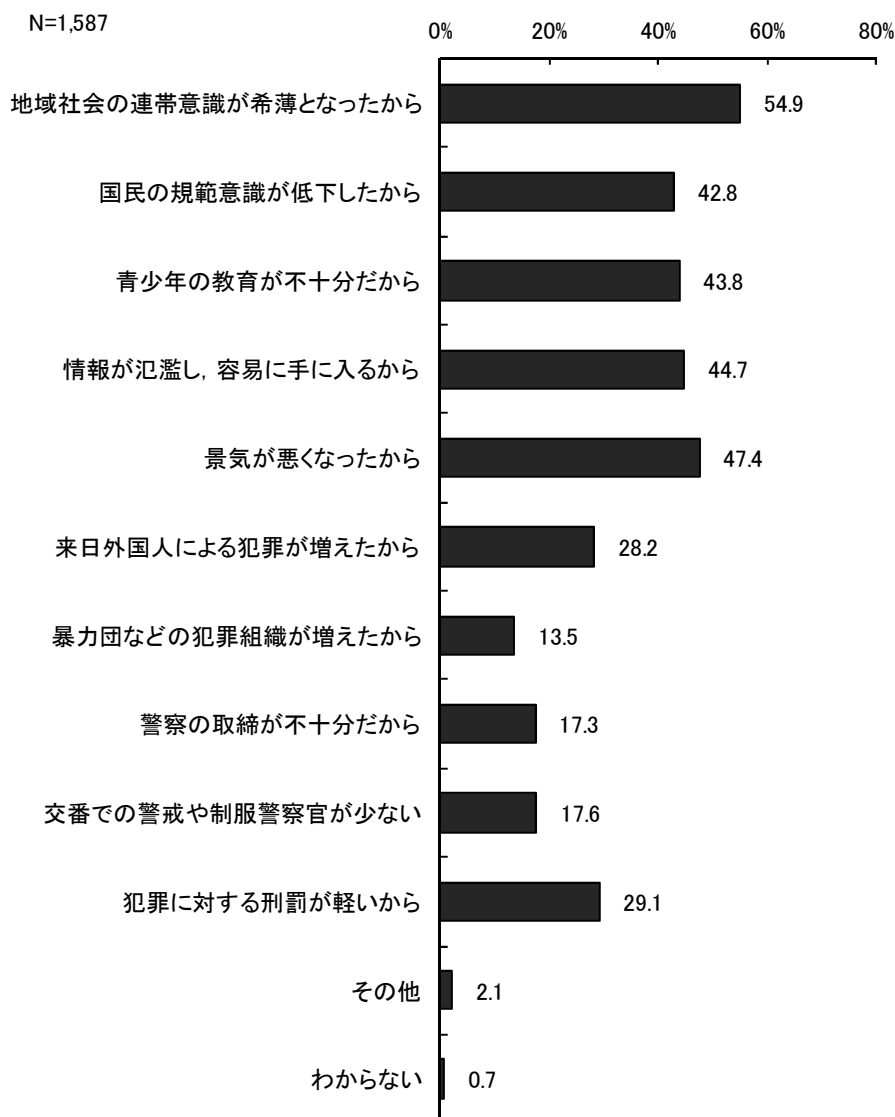
<年齢別>



【参考：全国調査】

全国調査「(Q2で「どちらかといえば悪くなったと思う」「悪くなったと思う」と答えた方に)治安が悪くなった原因は何だと思えますか。(〇はいくつでも)」では、「地域社会の連帯意識が希薄となったから」が54.9%と最も高い。次いで、「景気が悪くなったから」が47.4%、「情報が氾濫し、容易に手に入るから」が44.7%と続いている。

<平成 24 年>



問 3 犯罪や犯罪行為に関して、あなたが日頃、特に不安に思われていることは何ですか。(〇はいくつでも)

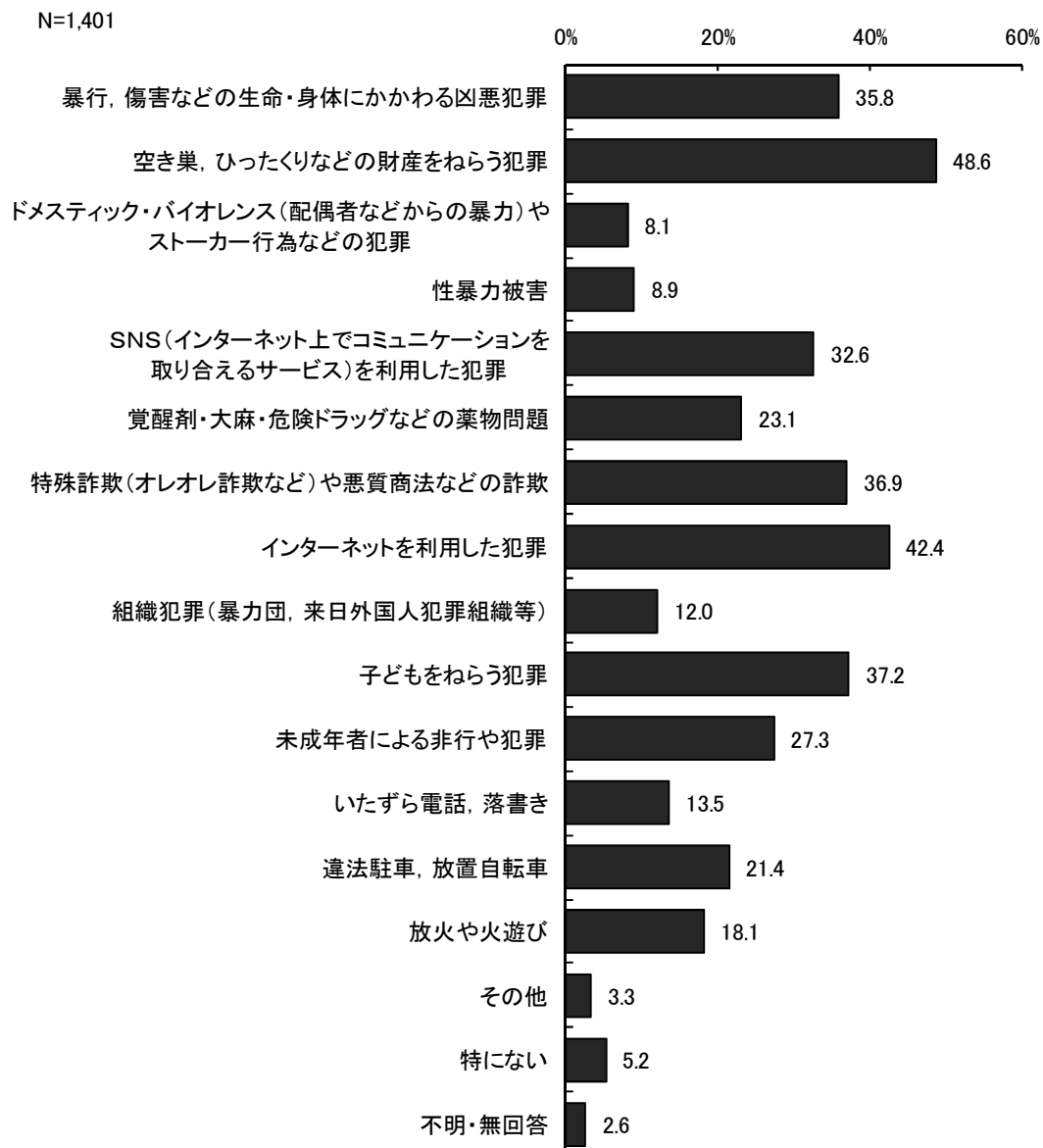
【全体傾向】

「空き巣、ひったくりなどの財産をねらう犯罪」が48.6%と最も高い。次いで、「インターネットを利用した犯罪」が42.4%、「子どもをねらう犯罪」が37.2%と続いている。

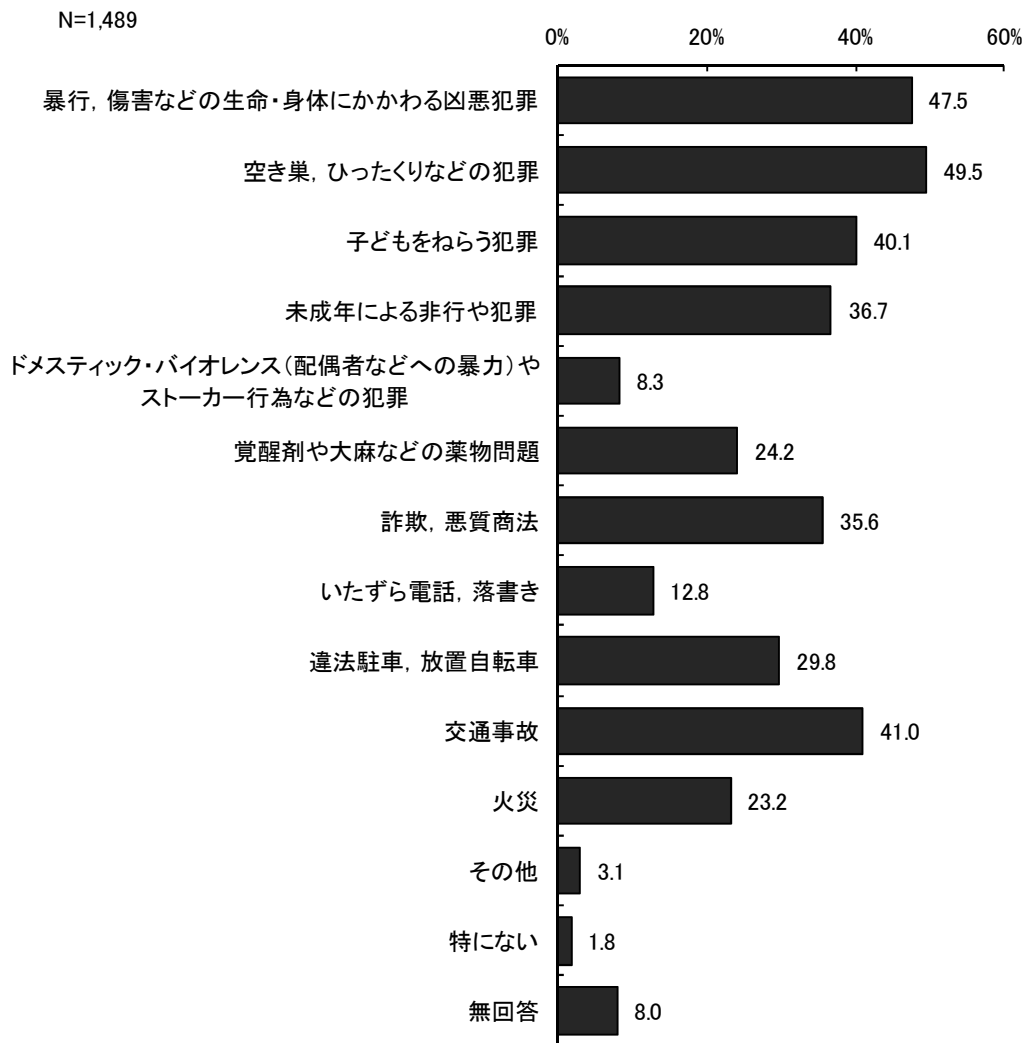
平成21年と比較すると、今回は「暴行、傷害などの生命・身体にかかわる凶悪犯罪」が11.7ポイント、「未成年者による非行や犯罪」が9.4ポイント低い。

また、今回の新たな選択肢である「SNS（インターネット上でコミュニケーションを取り合えるサービス）を利用した犯罪」や「インターネットを利用した犯罪」は3割以上と、比較的高い。

<今回>



<参考：平成 21 年>

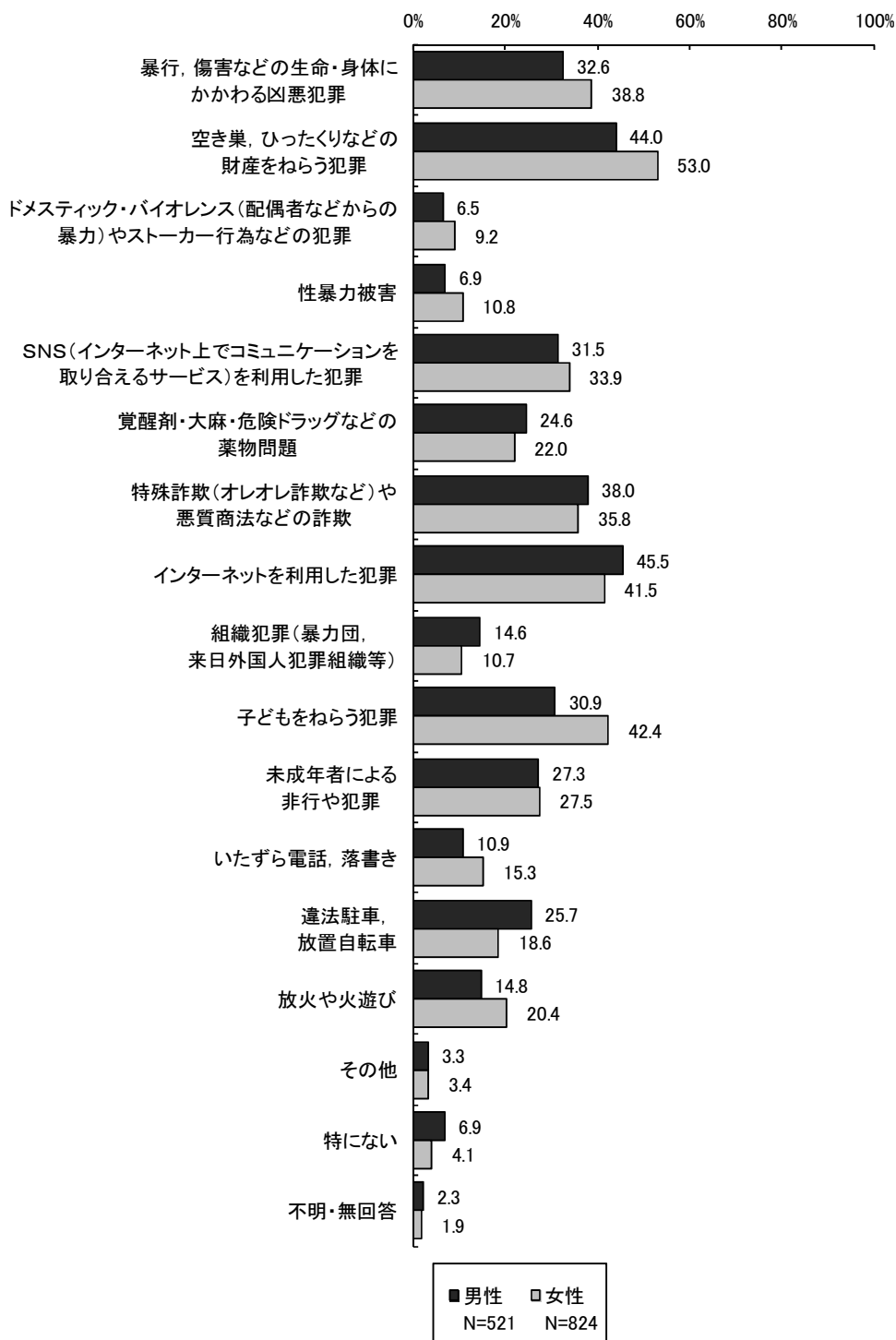


【男女別・年齢別】

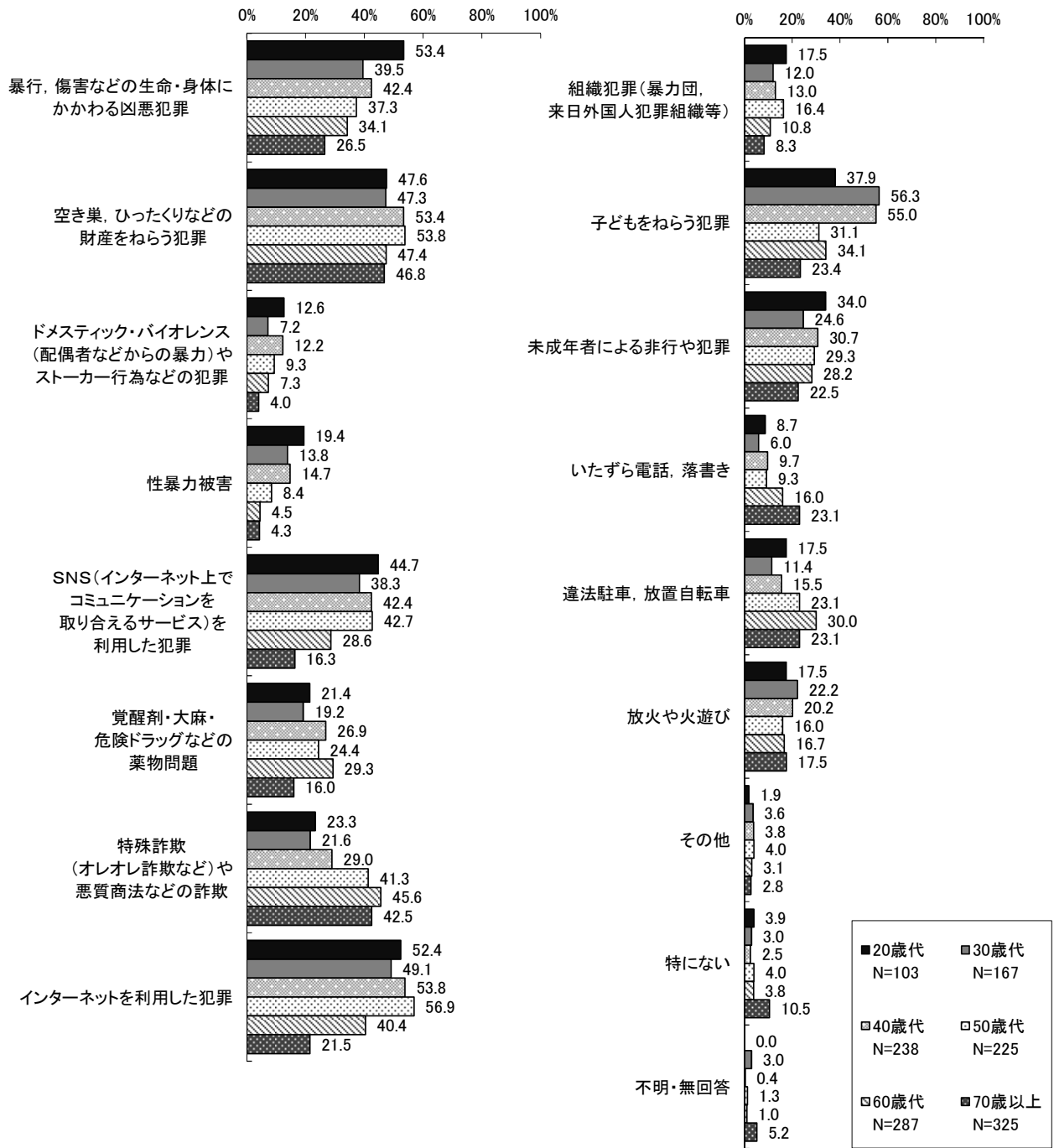
男女別では、「空き巣、ひったくりなどの財産をねらう犯罪」「子どもをねらう犯罪」は、女性が男性よりも高く、「違法駐車、放置自転車」は、男性が女性よりも高い。

年齢別では、「子どもをねらう犯罪」は、30歳代、40歳代で他の年齢よりも高い。「性暴力被害」は若い年代ほど、比率が上がる傾向にある。また、「特殊詐欺（オレオレ詐欺など）や悪質商法などの詐欺」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。

<男女別>



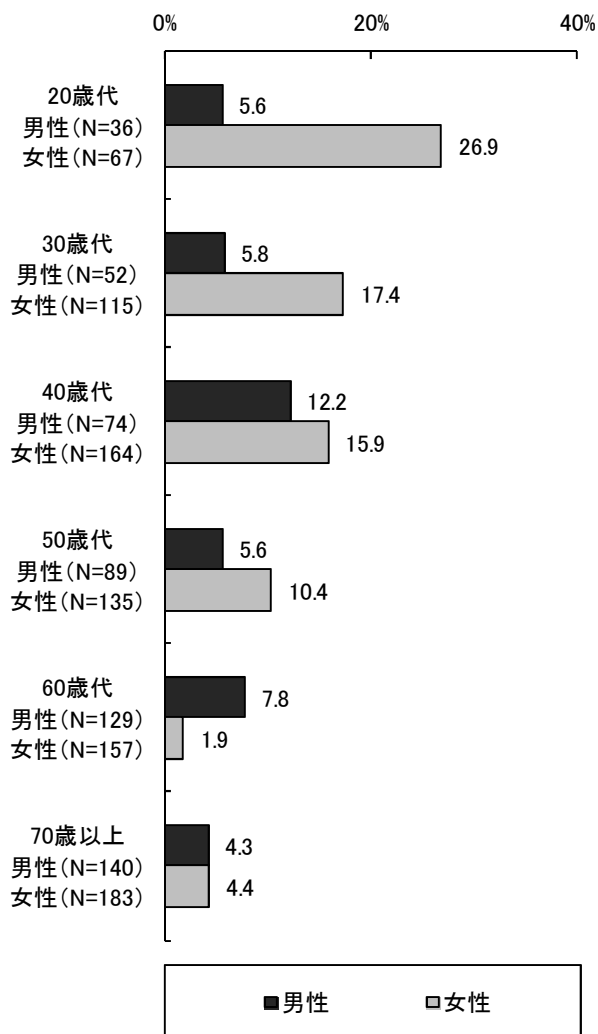
<年齢別>



【「性暴力被害」の男女年齢別】

「性暴力被害」について男女年齢別にみると、女性では、20歳代で26.9%と最も高く、次いで、30歳代で17.4%、40歳代で15.9%と続いている。男性では、40歳代で12.2%となっている。

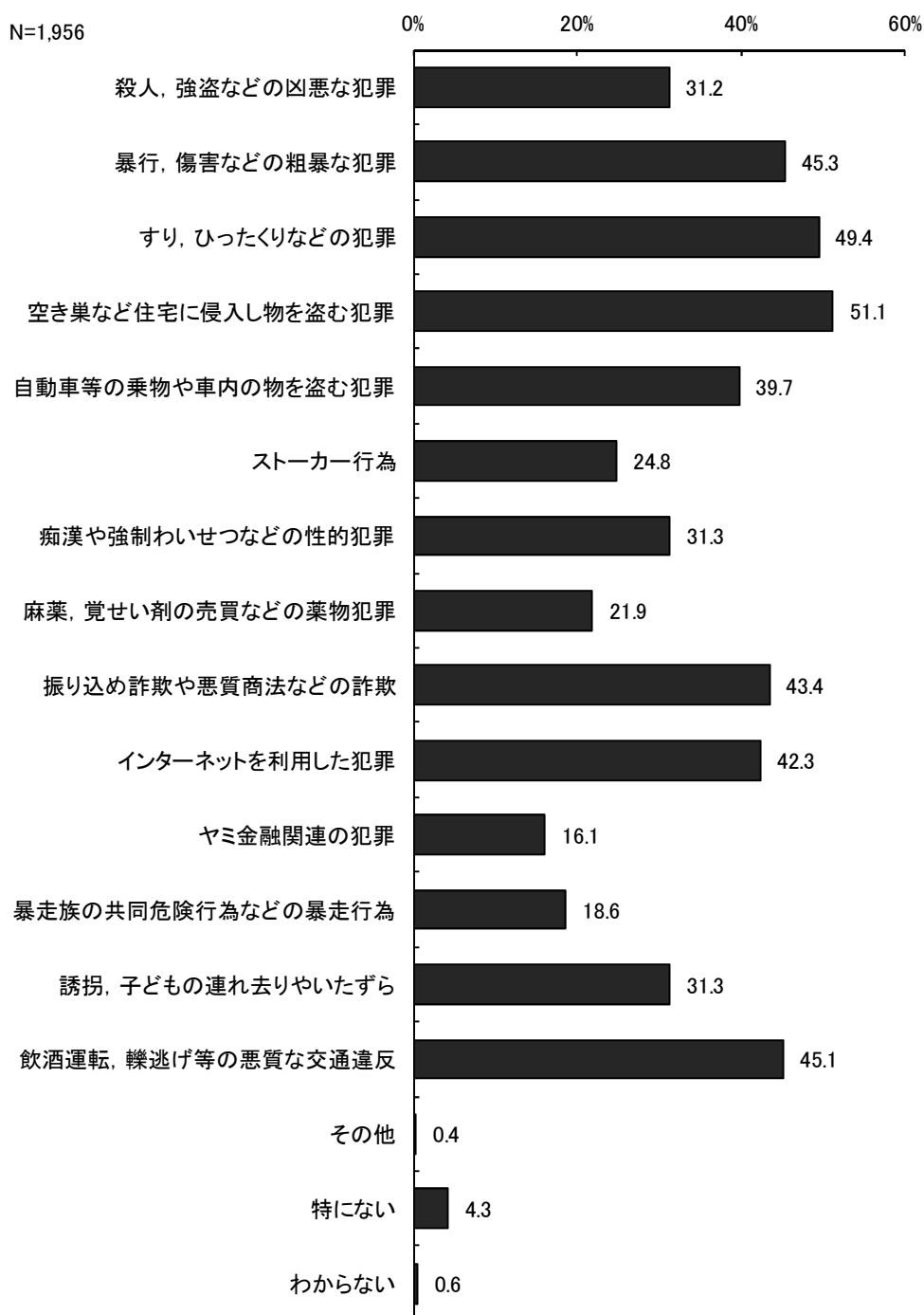
<性暴力被害>



【参考：全国調査】

全国調査「Q4 あなたが、自分や身近な人が被害にあうかもしれないと不安になる犯罪は何ですか。(〇はいくつでも)」では、「空き巣など住宅に侵入し物を盗む犯罪」が51.1%で最も高い。次いで、「すり、ひったくりなどの犯罪」が49.4%、「暴行、傷害などの粗暴な犯罪」が45.3%、「飲酒運転、轢逃げ等の悪質な交通違反」が45.1%と続いている。

<平成 24 年>



問 4 あなたや周りの人が犯罪にあうかもしれないと不安を感じる場所はどこですか。
(〇はいくつでも)

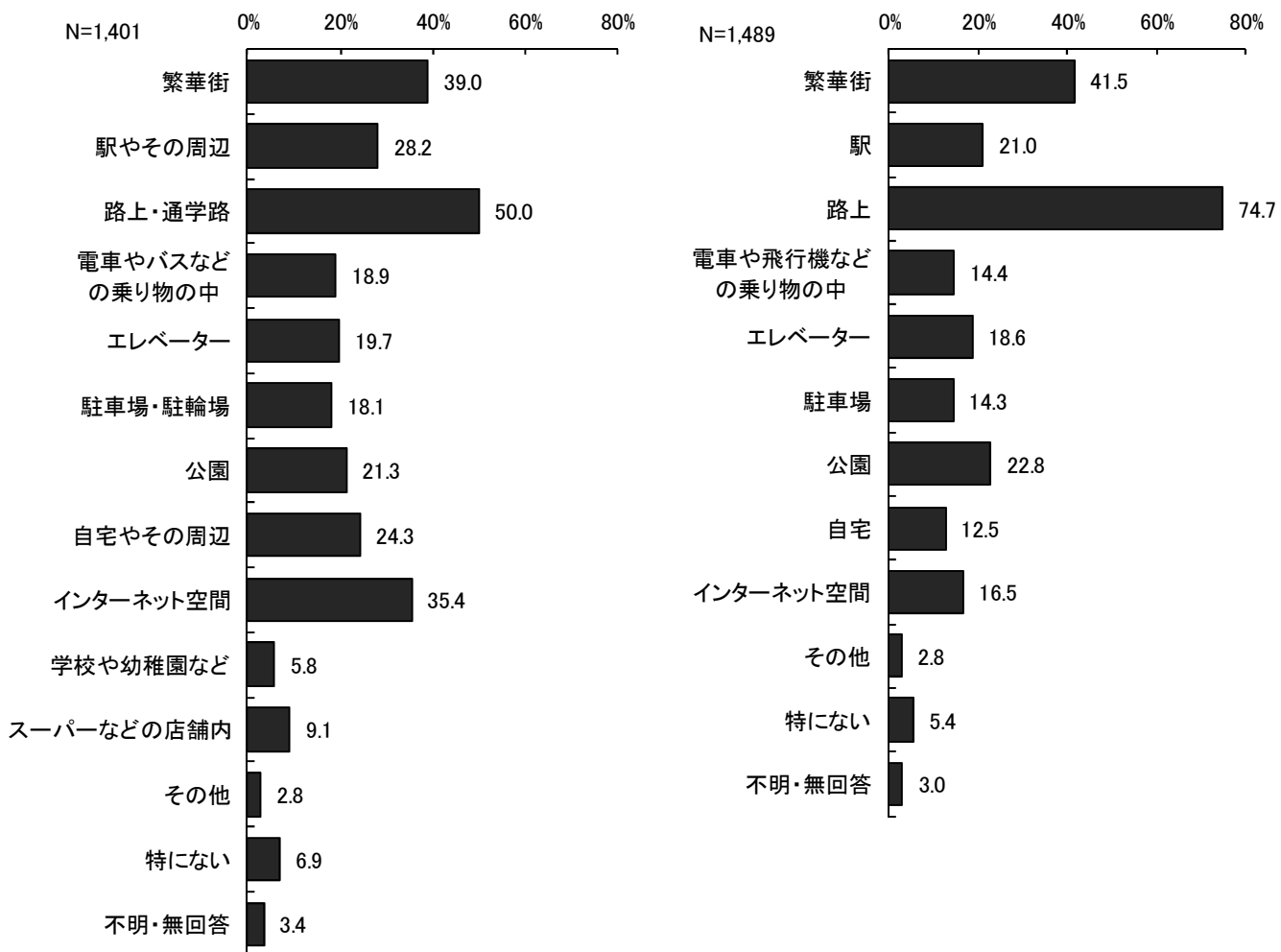
【全体傾向】

「路上・通学路」が 50.0%と最も高い。次いで、「繁華街」が 39.0%、「インターネット空間」が 35.4%と続いている。

平成 21 年と比較すると、今回は「インターネット空間」が 18.9 ポイント高く、「路上・通学路」が 24.7 ポイント低い。

<今回>

<参考：平成 21 年>

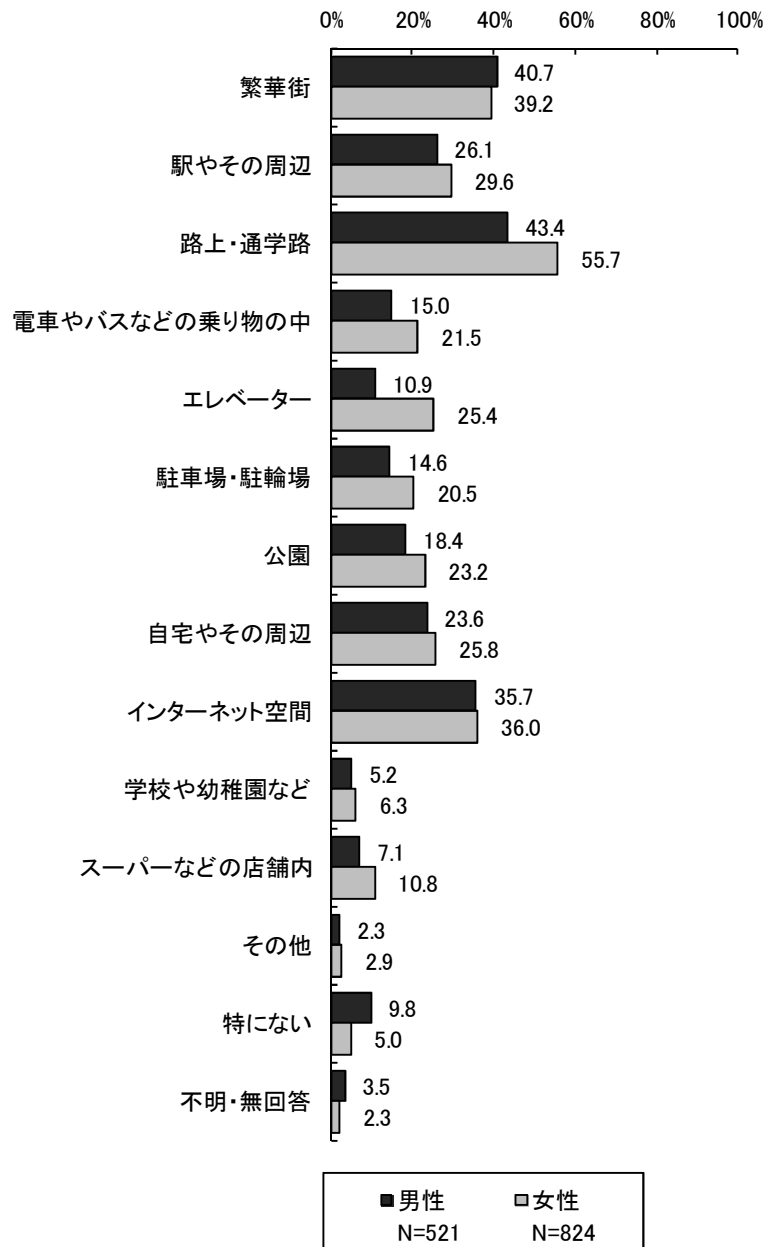


【男女別・年齢別】

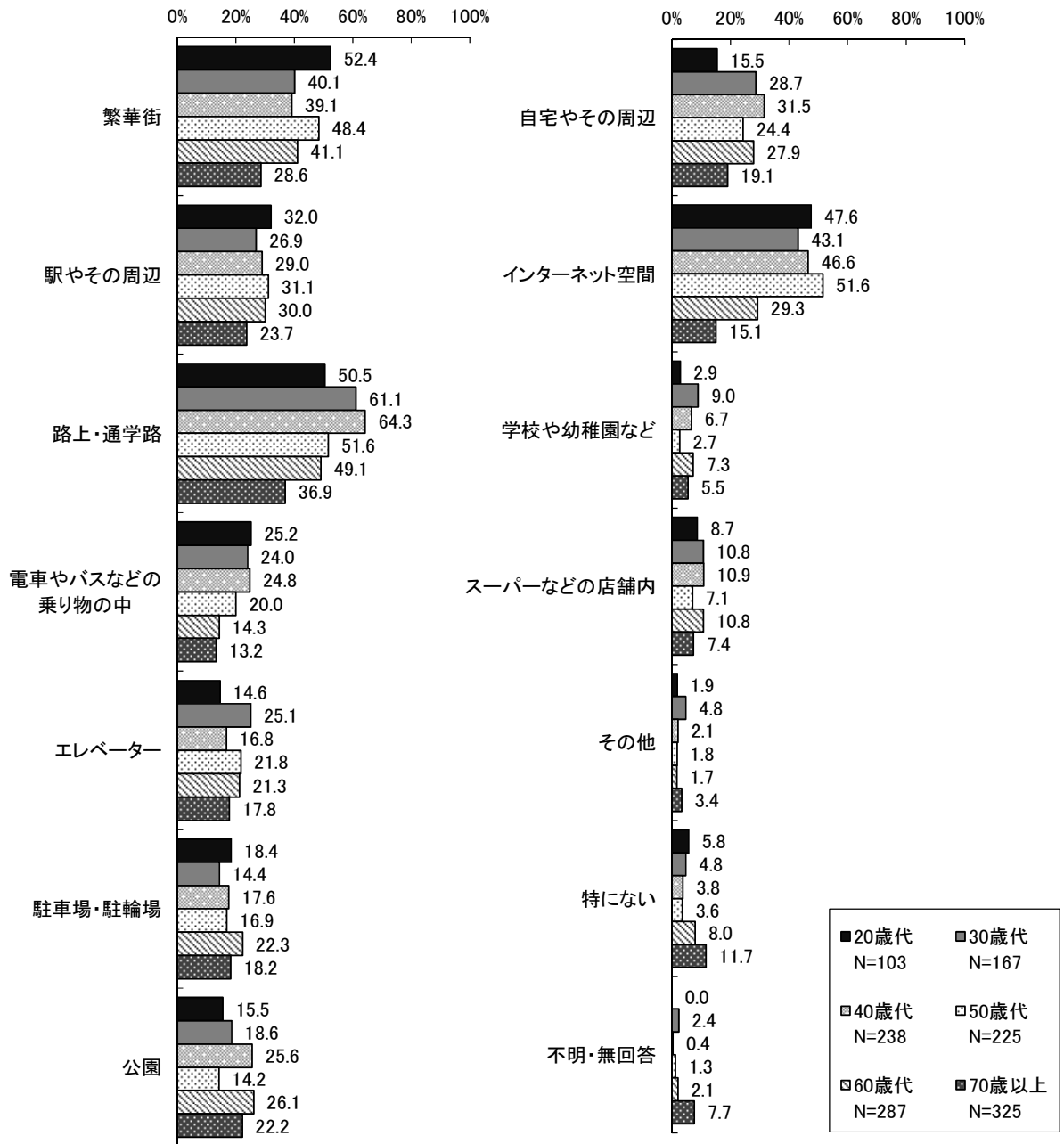
男女別では、「路上・通学路」「エレベーター」は女性が男性よりも高い。

年齢別では、「路上・通学路」は、年齢が上がるほど比率が下がる傾向にある。

<男女別>



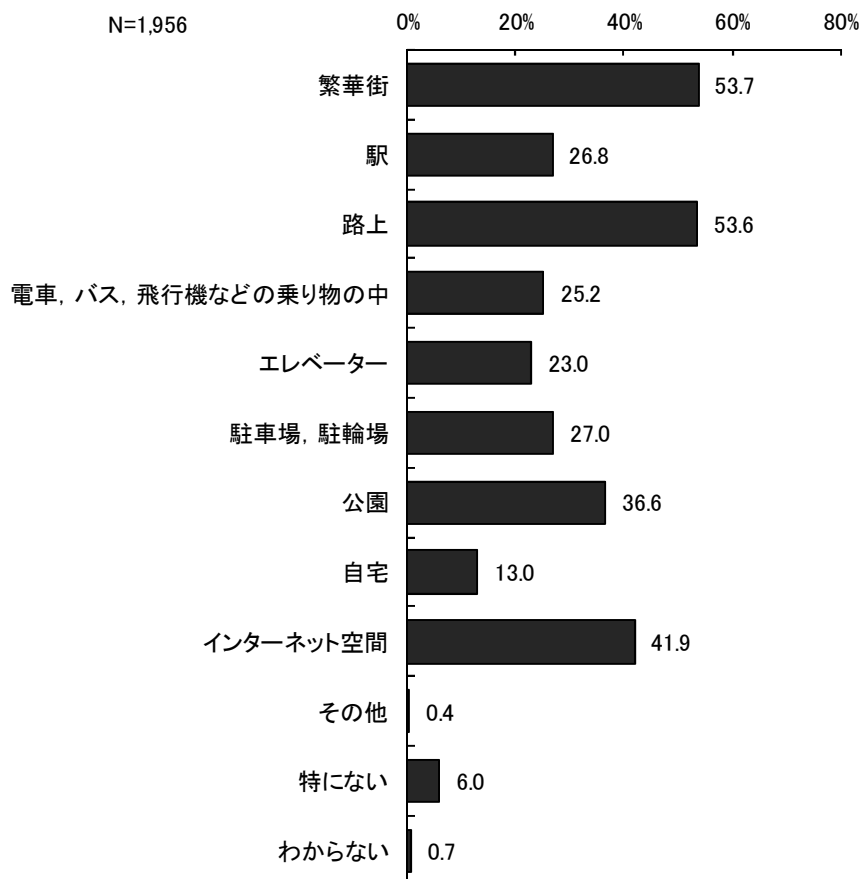
<年齢別>



【参考：全国調査】

全国調査「Q3 あなたが、自分や身近な人が犯罪にあうかもしれないと不安になる場所はどこですか。（〇はいくつでも）」では、「繁華街」が 53.7%と最も高い。次いで、「路上」が 53.6%、「インターネット空間」が 41.9%と続いている。

<平成 24 年>



問 5 あなたや周りの人が犯罪にあわないために、日頃心がけていること、取り組んでいることは何でしょうか。(〇はいくつでも)

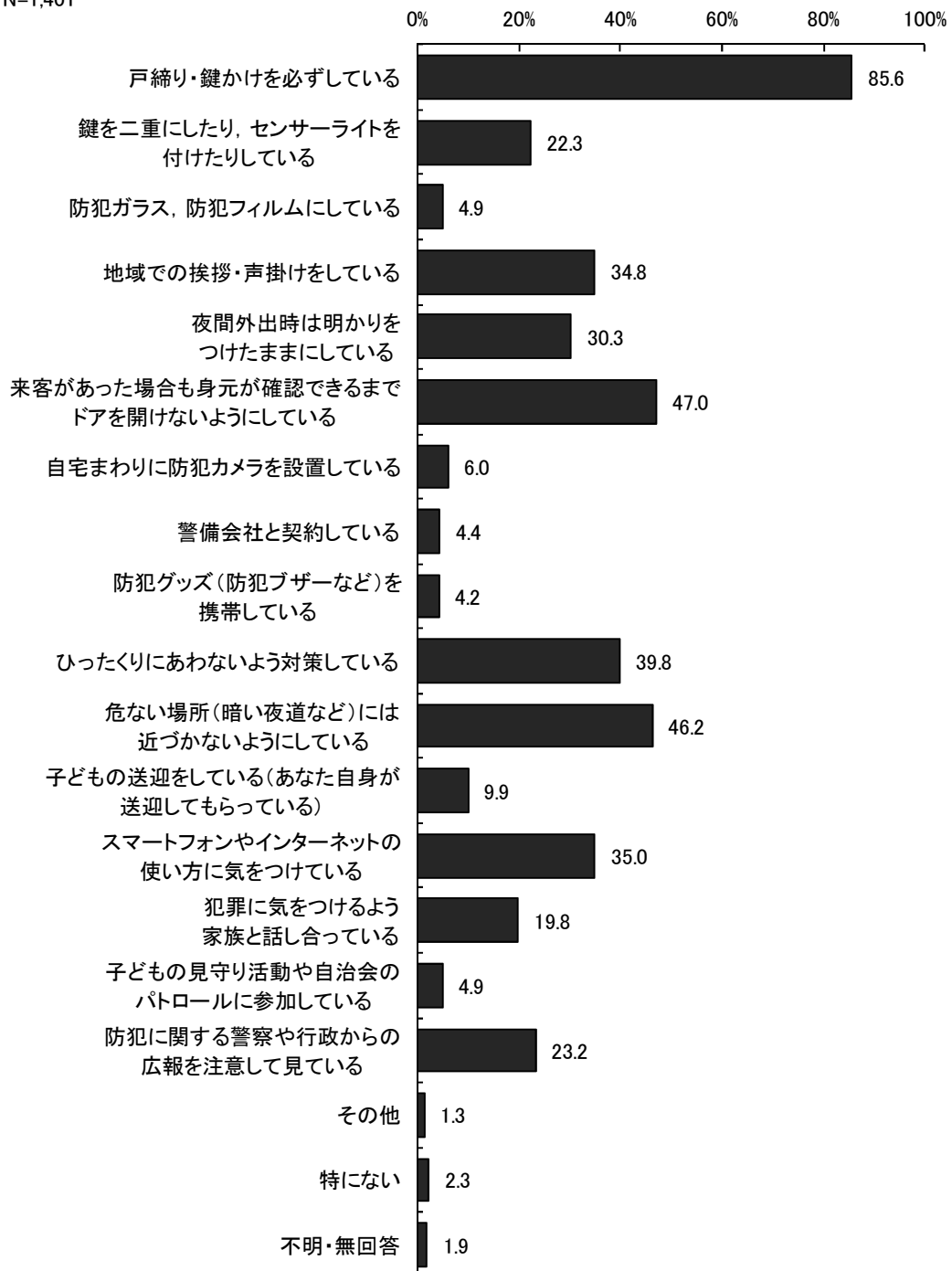
【全体傾向】

「戸締り・鍵かけを必ずしている」が85.6%と最も高い。次いで、「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている」が47.0%、「危ない場所（暗い夜道など）には近づかないようにしている」が46.2%と続いている。

平成21年と比較すると、今回と共通する項目に大きな差は見られない。

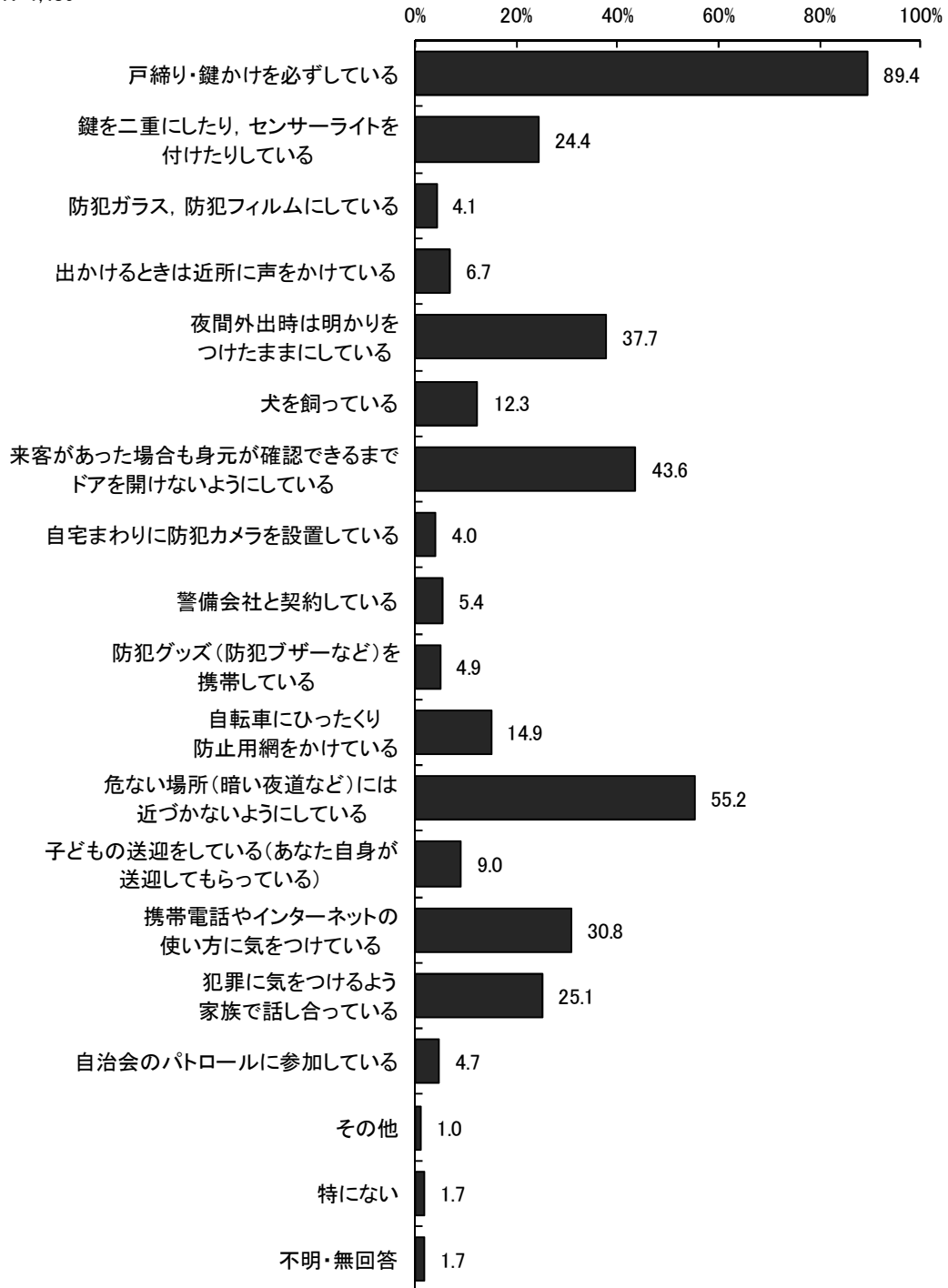
<今回>

N=1,401



<参考：平成 21 年>

N=1,489

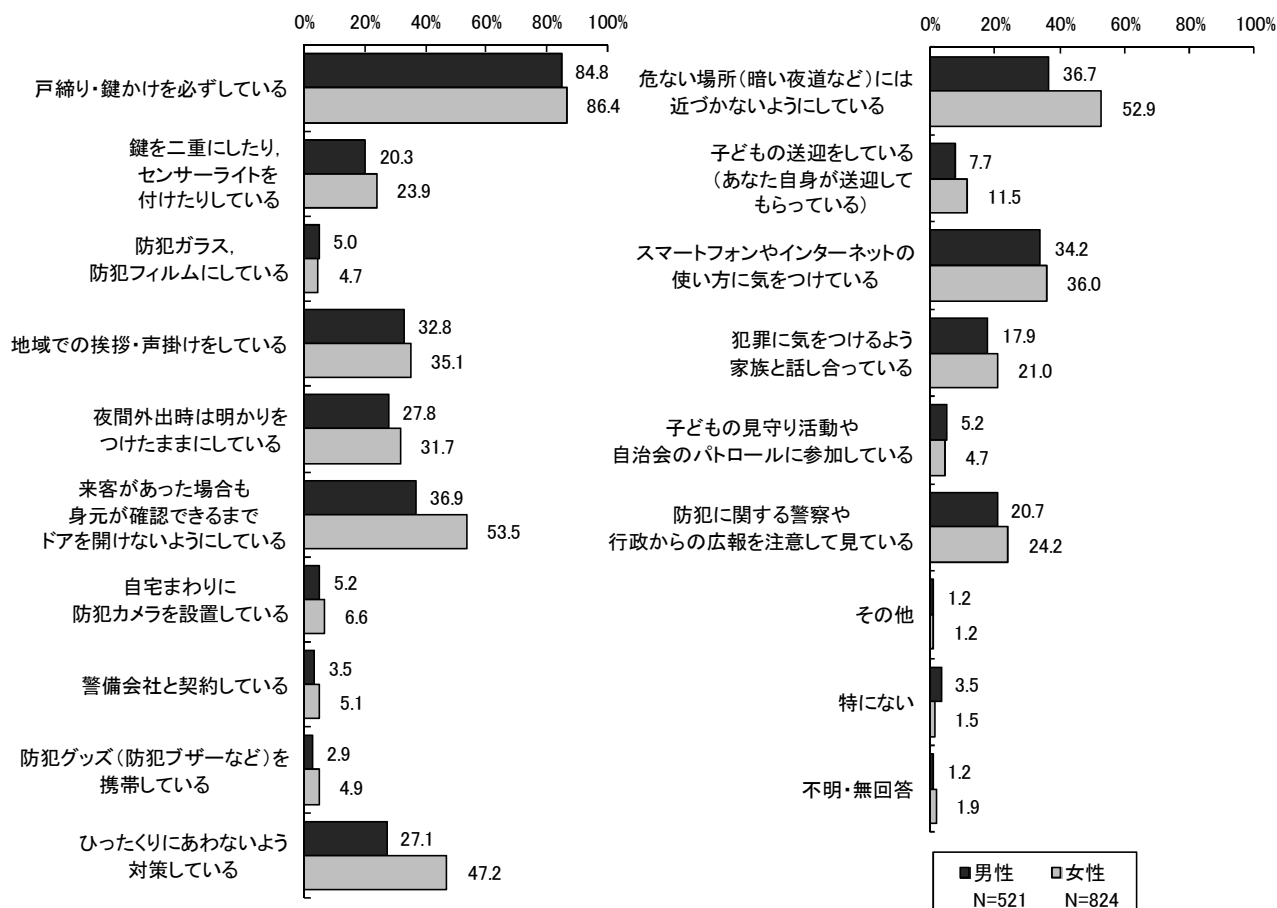


【男女別・年齢別】

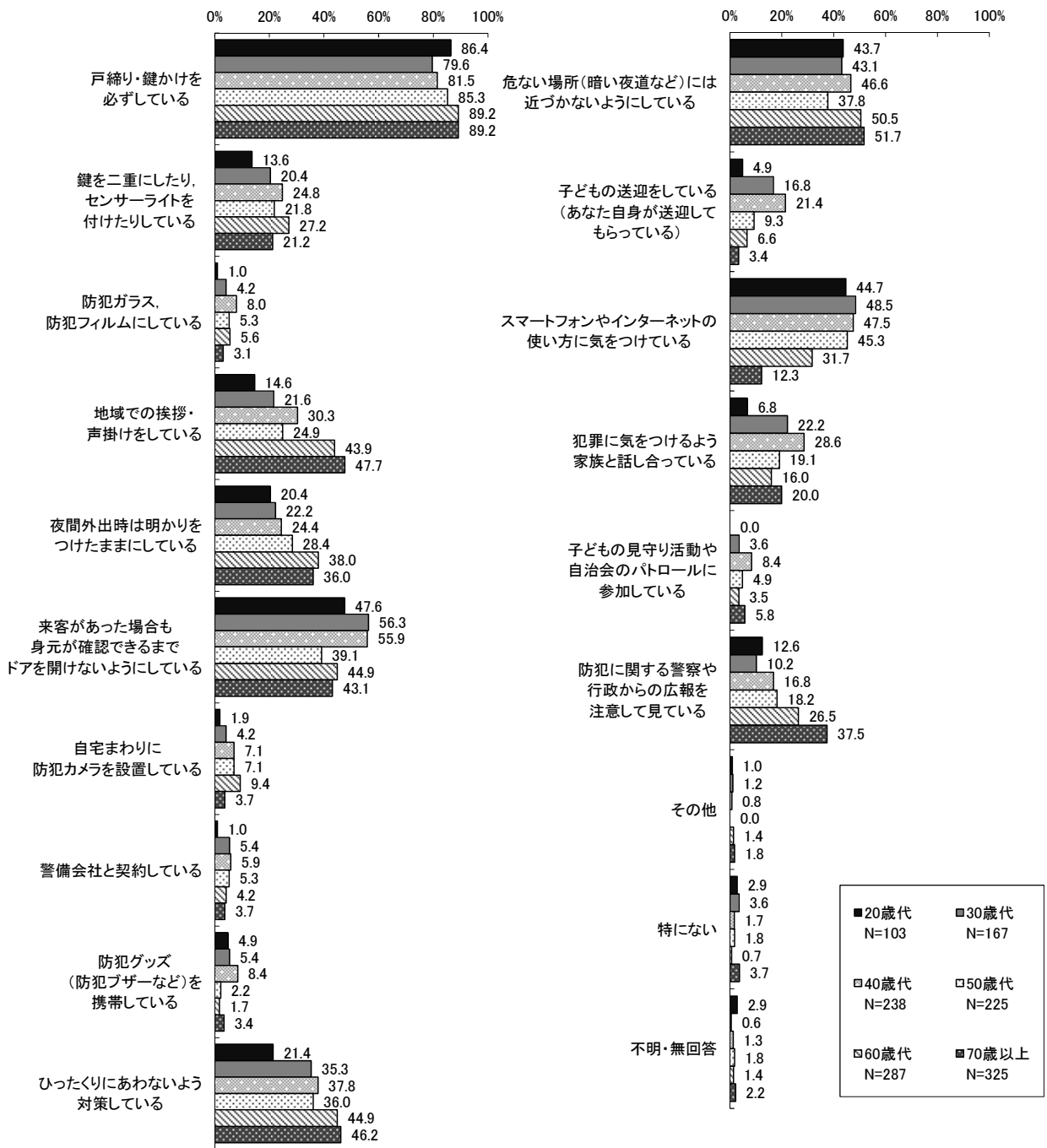
男女別では、「来客があった場合も身元が確認できるまでドアを開けないようにしている」と「危ない場所（暗い夜道など）には近づかないようにしている」は女性で高い。

年齢別では、「スマートフォンやインターネットの使い方に気をつけている」は、20歳代～50歳代で比率が上がる傾向にあり、「地域での挨拶・声掛けをしている」「防犯に関する警察や行政からの広報を注意して見ている」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。

<男女別>



<年齢別>



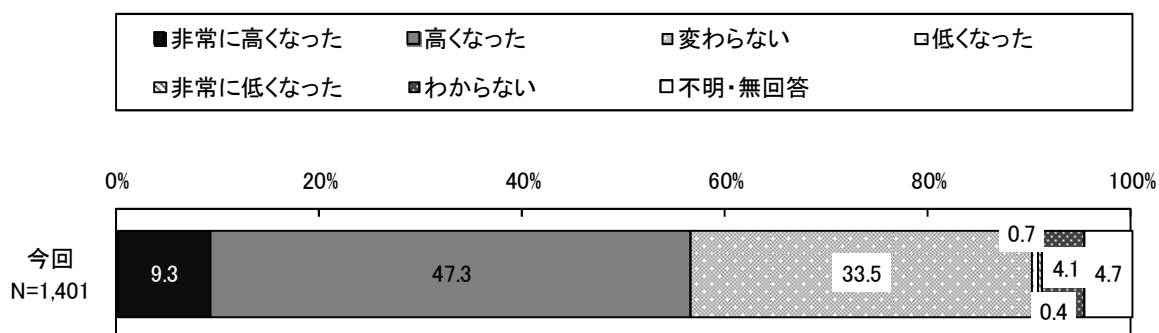
2. 事故に関する安心・安全について

問 6 交通事故についておたずねします。あなたやあなたの家族が交通事故にあう可能性について、どのようにお感じですか。(〇は1つだけ)

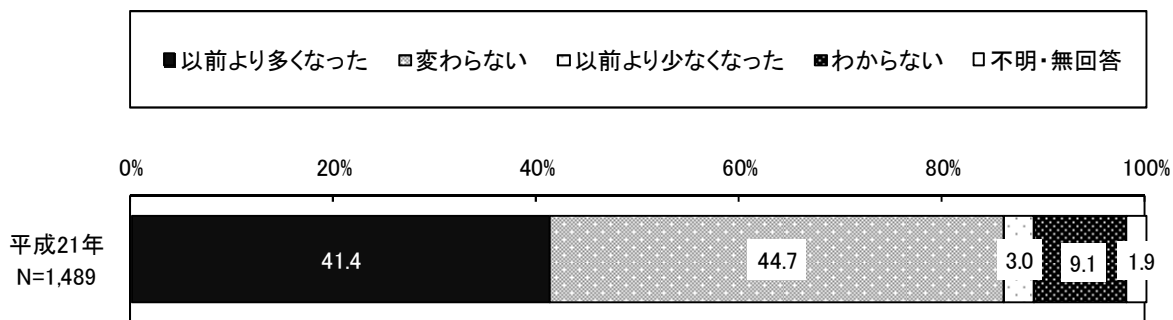
【全体傾向】

『高くなった』(「非常に高くなった」「高くなった」の計)が56.6%、「低くなった」(「低くなった」「非常に低くなった」の計)が1.1%となっており、『高くなった』が55.5ポイント高い。

平成21年と比較すると、今回は『高くなった』(平成21年は「以前より高くなった」)が15.2ポイント高い。



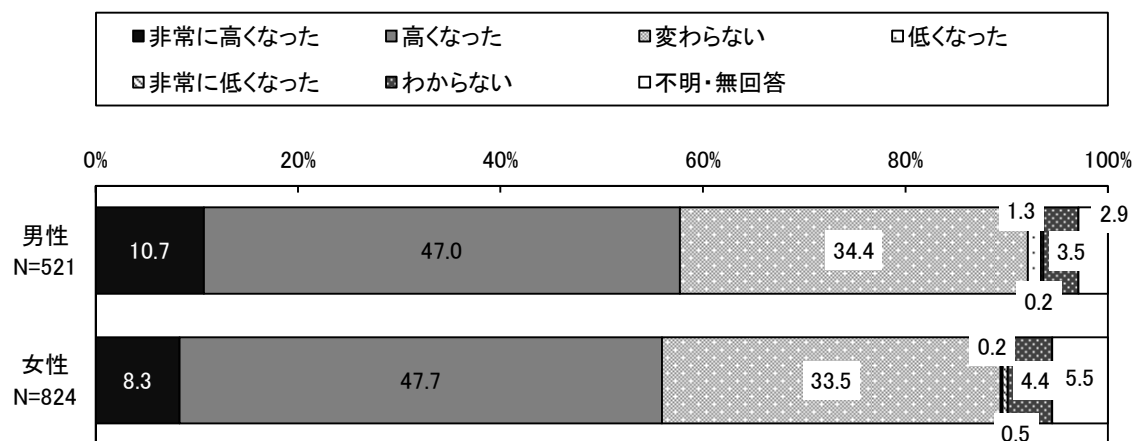
<参考：平成21年>



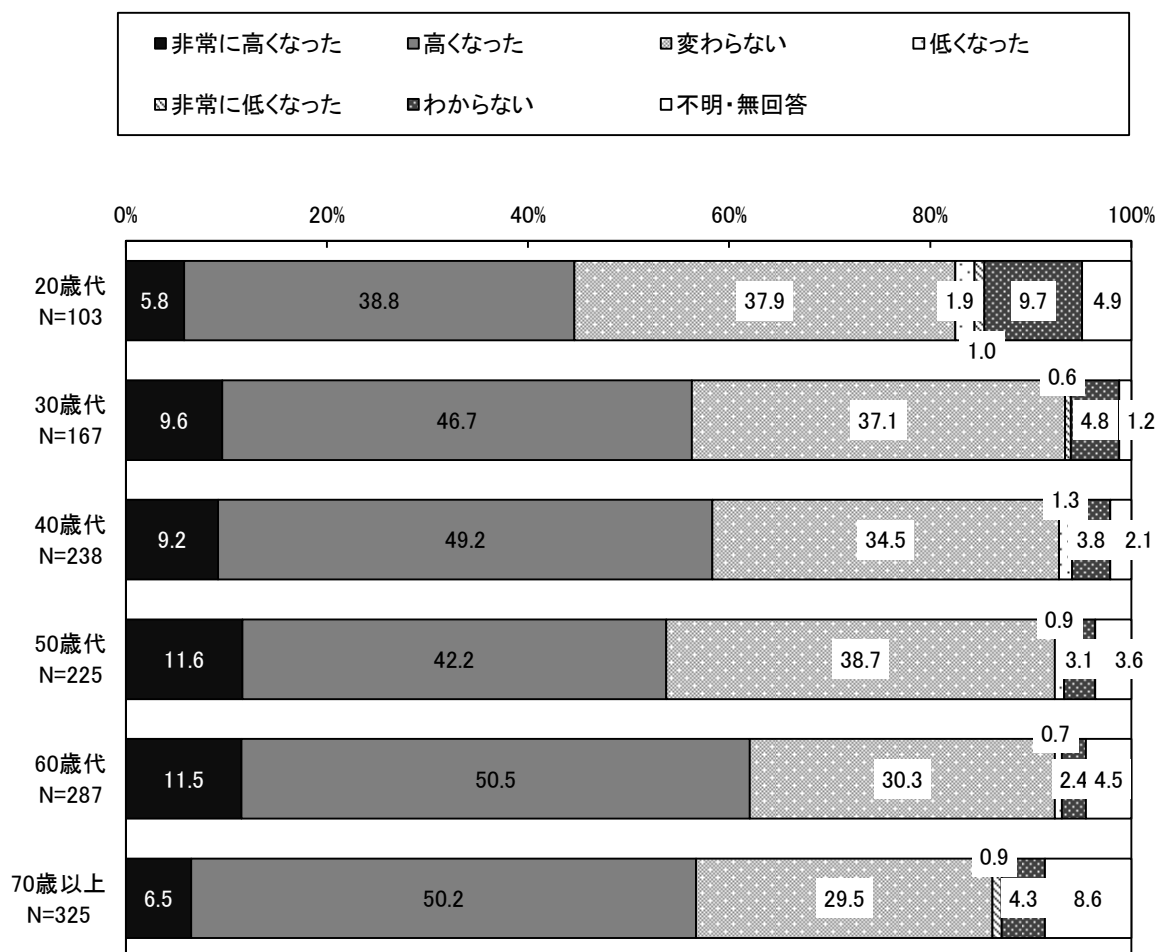
【男女別・年齢別】

男女別では、『高くなった』は男性で 57.7%，女性で 56.0% となっており，ほぼ差は見られない。
 年齢別では，他の年齢に比べて 60 歳代で、『高くなった』の比率が高い。

<男女別>



<年齢別>



問7 あなたが特に不安を感じる交通事故とは、どのようなものでしょうか。
(〇は3つだけ)

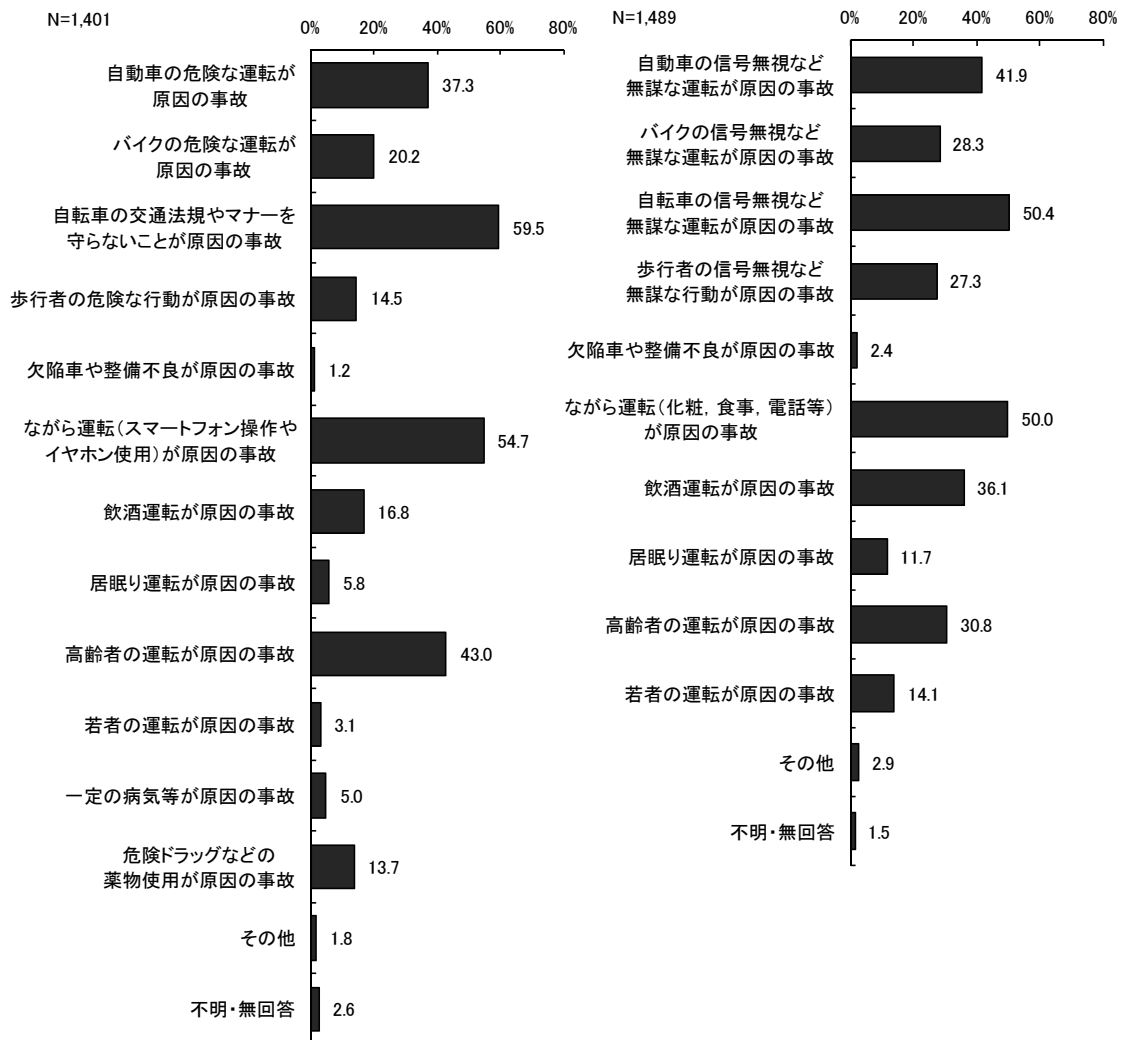
【全体傾向】

「自転車の交通法規やマナーを守らないことが原因の事故」が59.5%と最も高い。次いで、「ながら運転(スマートフォン操作やイヤホン使用)が原因の事故」が54.7%、「高齢者の運転が原因の事故」が43.0%と続いている。

平成21年と比較すると、今回は「飲酒運転が原因の事故」が19.3ポイント低く、「高齢者の運転が原因の事故」が12.2ポイント、「自転車の交通法規やマナーを守らないことが原因の事故」(平成21年は「自転車の信号無視など無謀な運転が原因の事故」)が9.1ポイント高い。

<今回>

<参考：平成21年>

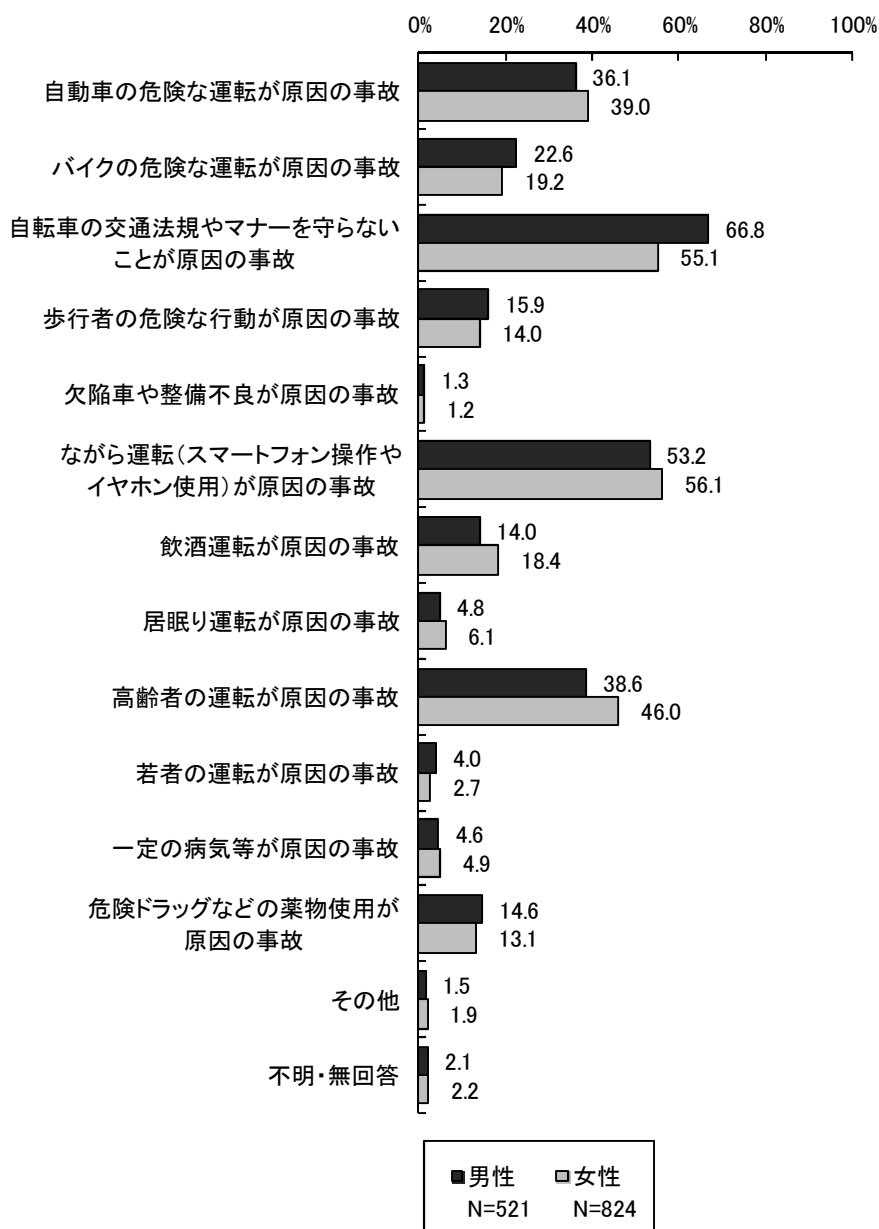


【男女別・年齢別】

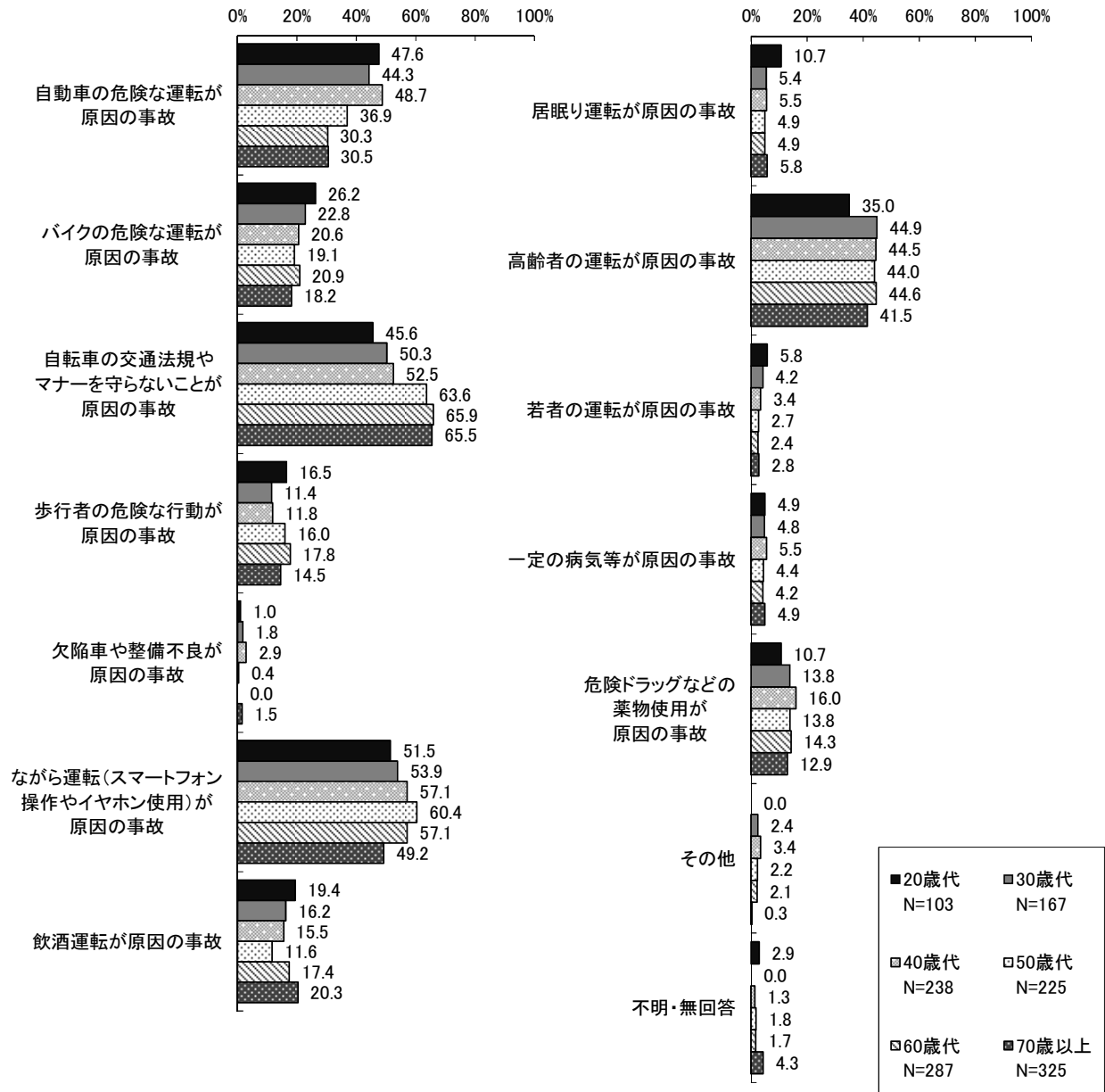
男女別では、「高齢者の運転が原因の事故」は女性で高く、「自転車の交通法規やマナーを守らないことが原因の事故」は男性で高い。

年齢別では、「自転車の交通法規やマナーを守らないことが原因の事故」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。

<男女別>



<年齢別>



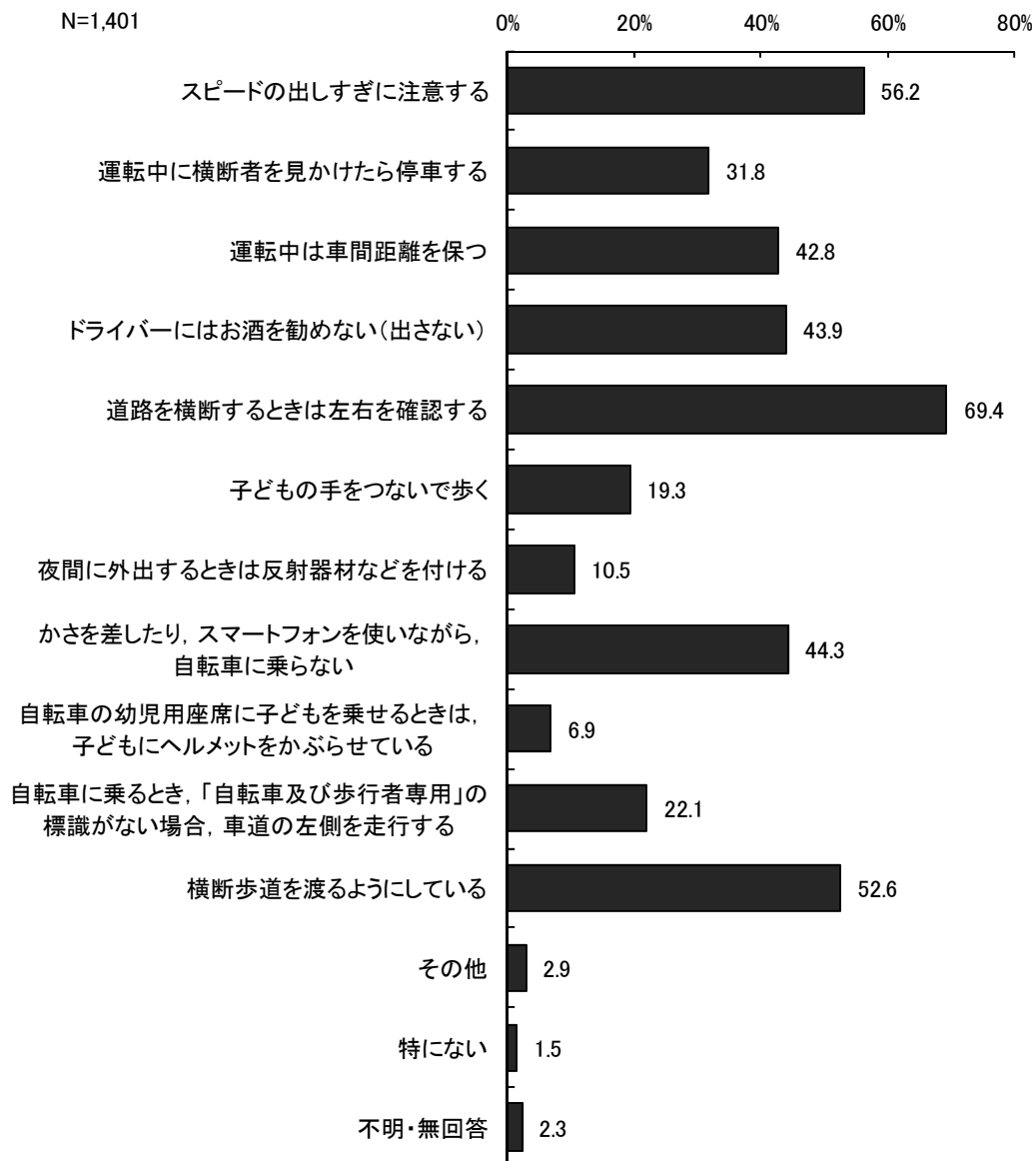
問 8 日常生活で、交通事故にあわないよう、日頃あなたが心がけていること、取り組んでいることは何でしょうか。(〇はいくつでも)

【全体傾向】

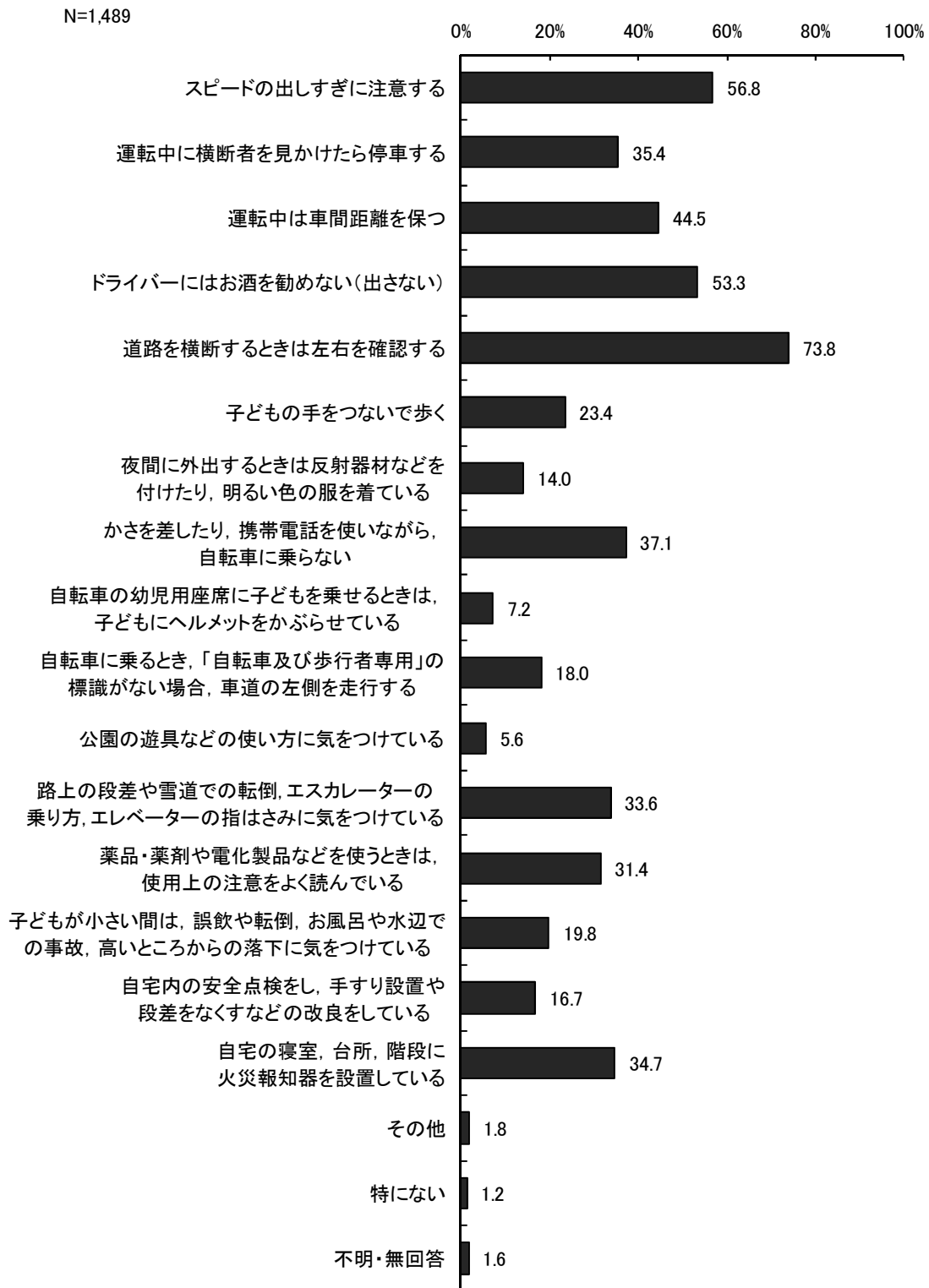
「道路を横断するときは左右を確認する」が69.4%と最も高い。次いで、「スピードの出しすぎに注意する」が56.2%、「横断歩道を渡るようにしている」が52.6%と続いている。

平成21年と比較すると、今回は「ドライバーにはお酒を勧めない(出さない)」が9.4ポイント低い。

<今回>



<参考：平成 21 年>

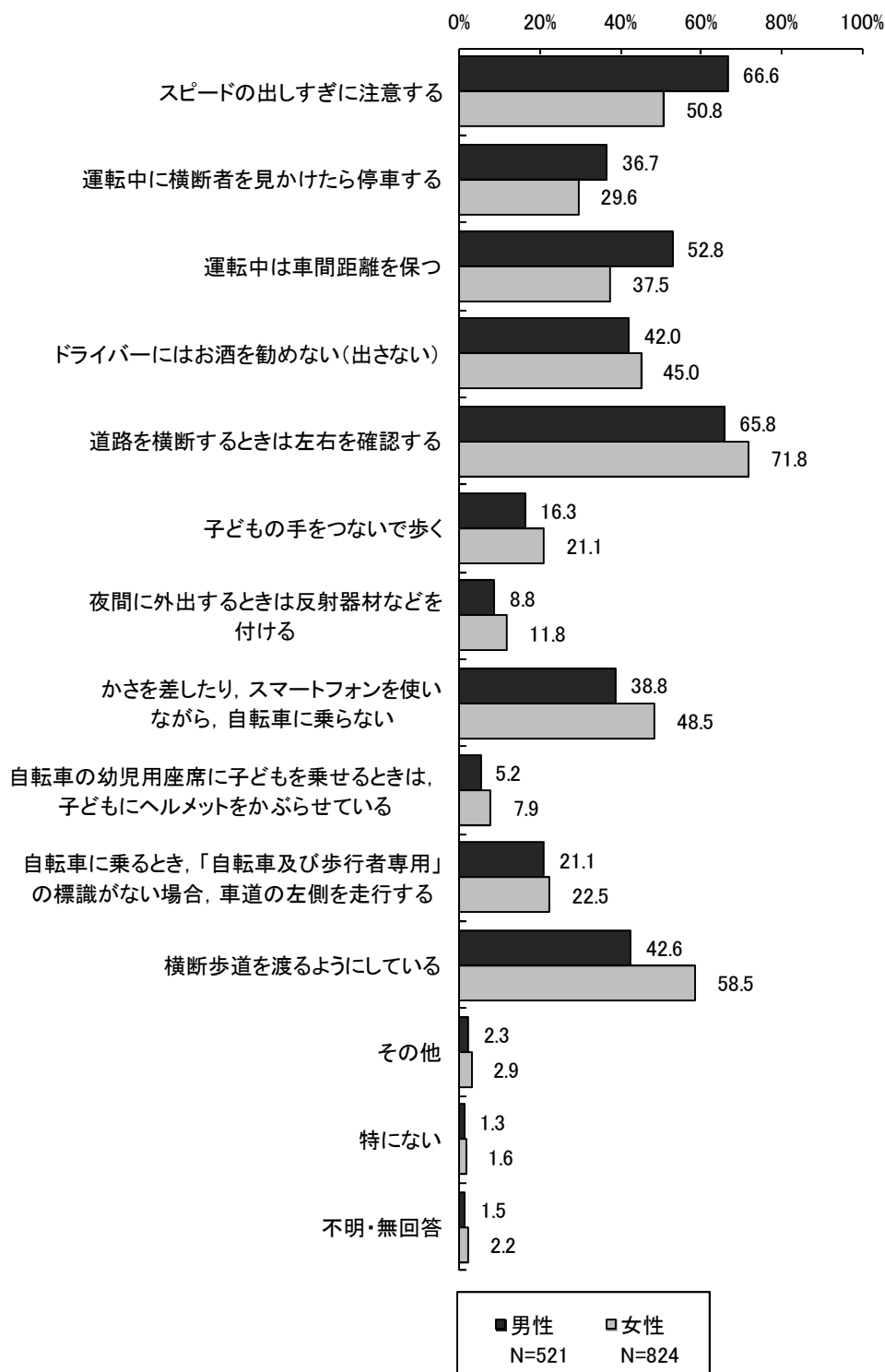


【男女別・年齢別】

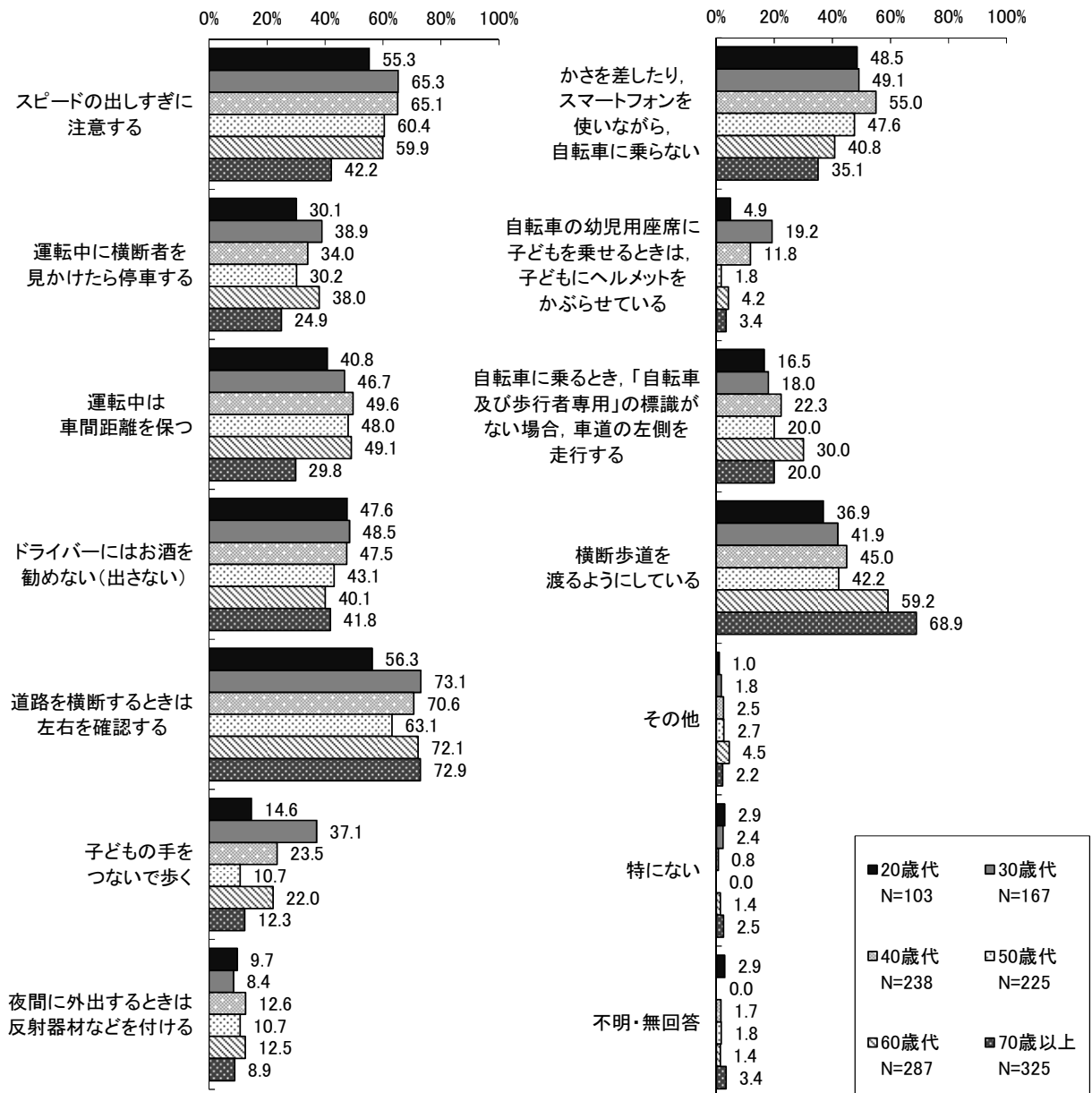
男女別では、「横断歩道を渡るようにしている」と「かさを差したり、スマートフォンを使いながら、自転車に乗らない」は女性で高く、「スピードの出しすぎに注意する」と「運転中は車間距離を保つ」は男性で高い。

年齢別では、「横断歩道を渡るようにしている」は他の年齢に比べて60歳代、70歳以上で高い。

<男女別>



<年齢別>

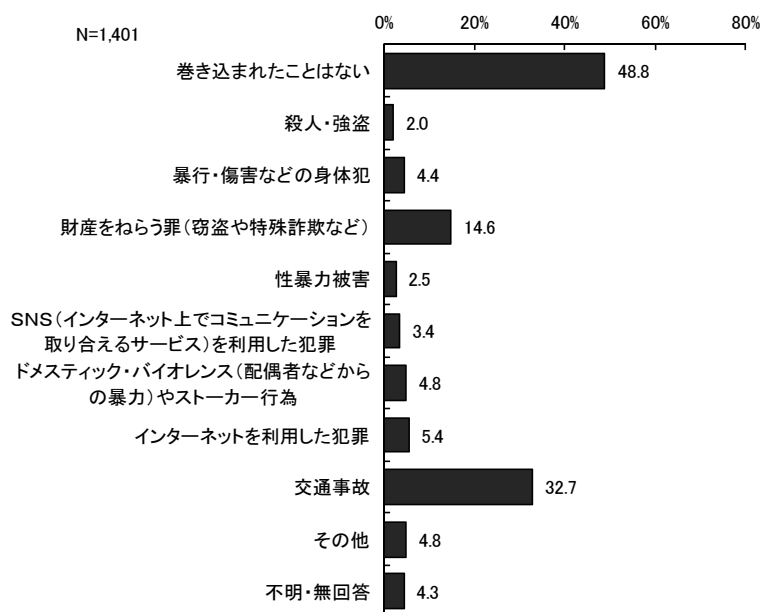


3. 犯罪・事故の被害者支援について

問 9 あなたや周りの方が巻き込まれたことのある犯罪について当てはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

【全体傾向】

「巻き込まれたことはない」の48.8%を除くと、「交通事故」が32.7%と最も高い。次いで、「財産をねらう犯罪（窃盗や特殊詐欺など）」が14.6%、「インターネットを利用した犯罪」が5.4%と続いている。

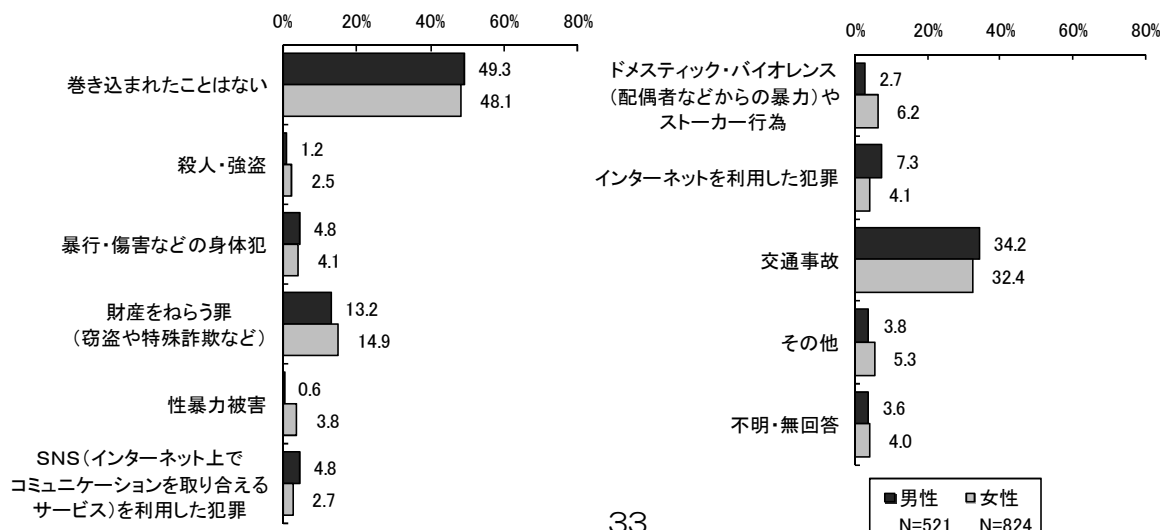


【男女別・年齢別】

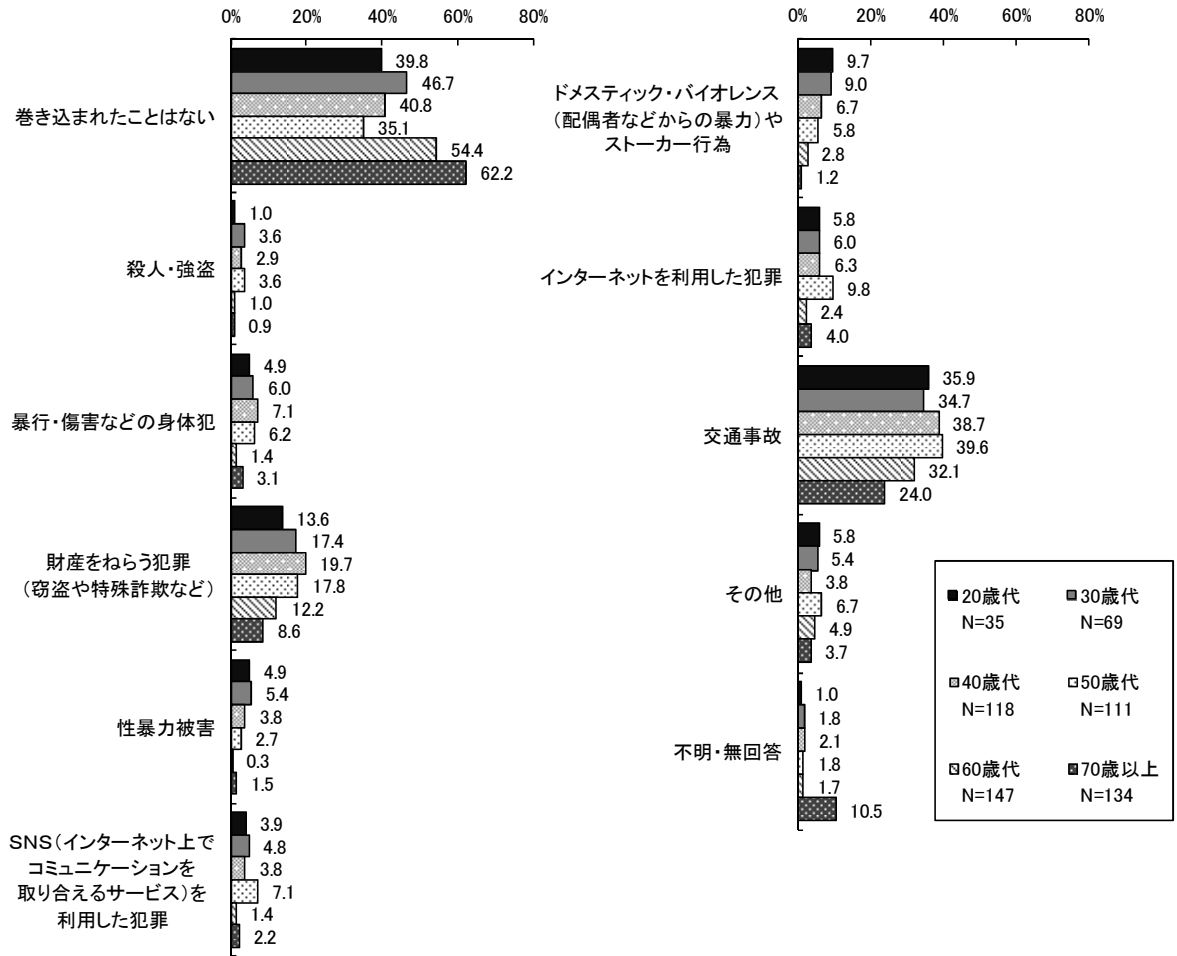
男女別では、「ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）やストーカー行為」と「性暴力被害」は女性でそれぞれ6.2%、3.8%となっている。

年齢別では、「巻き込まれたことはない」が他の年齢に比べて60歳代、70歳以上で高い。

<男女別>



<年齢別>

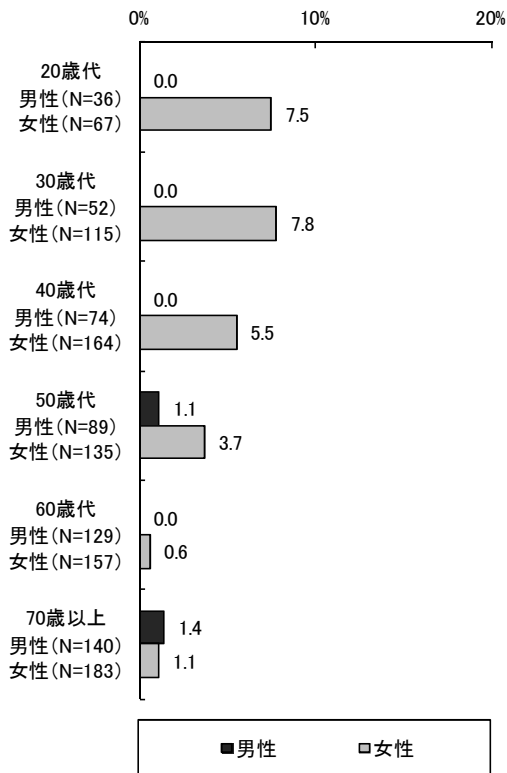


【「性暴力被害」「ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）やストーカー行為」の男女年齢別】

男女差がある「性暴力被害」「ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）やストーカー行為」を男女年齢別で見ると、「性暴力被害」が30歳代の女性で7.8%、20歳代の女性で7.5%、40歳代の女性で5.5%と続いている。

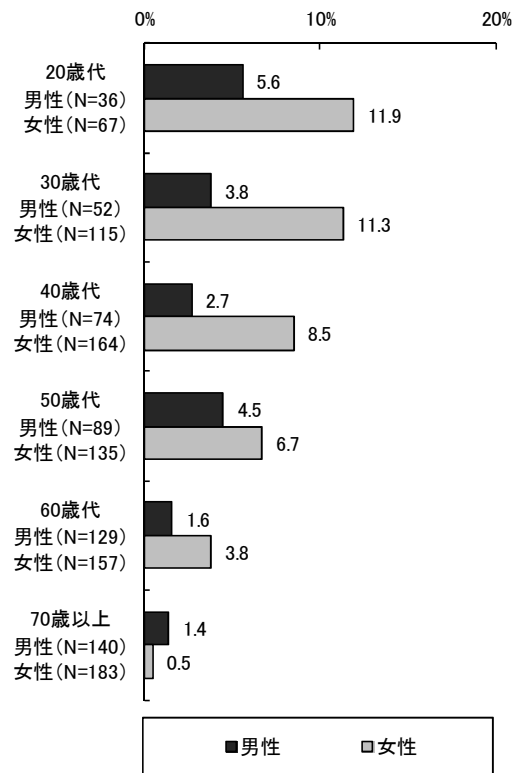
また、「ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）やストーカー行為」が20歳代、30歳代の女性で1割以上となっている。

<性暴力被害>



<ドメスティック・バイオレンス

(配偶者などからの暴力) やストーカー行為>



<「性暴力被害」「ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）やストーカー行為」の件数>

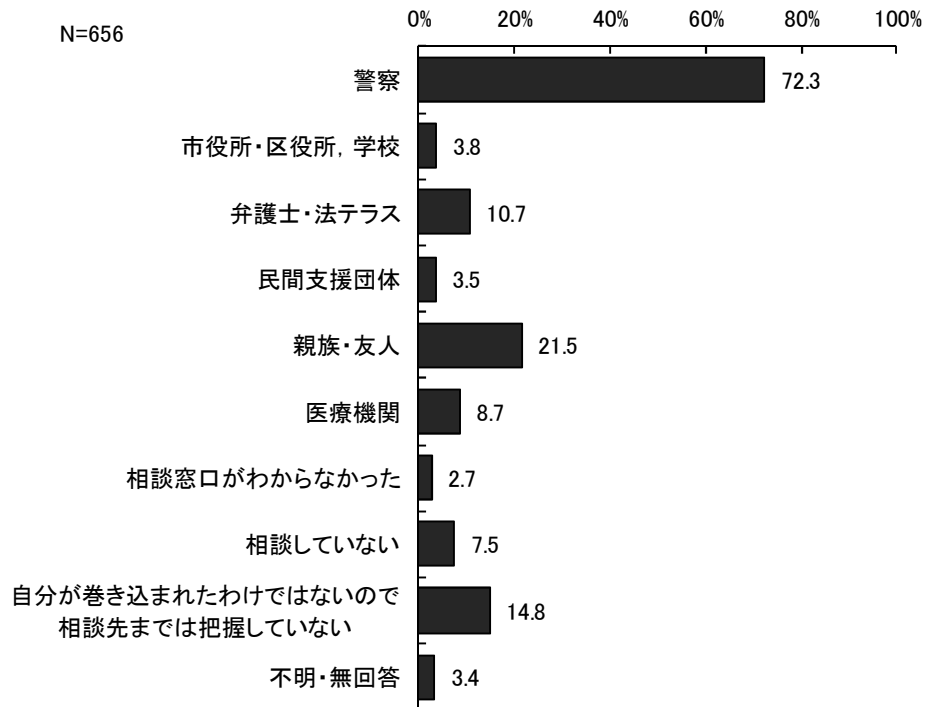
	性暴力被害		ドメスティック・バイオレンス (配偶者などからの暴力) や ストーカー行為	
	男性	女性	男性	女性
20歳代	0	5	2	8
30歳代	0	9	2	13
40歳代	0	9	2	14
50歳代	1	5	4	9
60歳代	0	1	2	6
70歳以上	2	2	2	1
計	3	31	14	51

問 10 問9で選択肢2から9に○をされた方にお聞きします。犯罪に巻き込まれたときに、どこに相談にいきましたか。(○はいくつでも)

【全体傾向】

「警察」が 72.3%と最も高い。次いで、「親族・友人」が 21.5%、「自分が巻き込まれたわけではないので相談先までは把握していない」が 14.8%と続いている。

また、「相談していない」が 7.5%、「相談窓口がわからなかった」が 2.7%となっている。

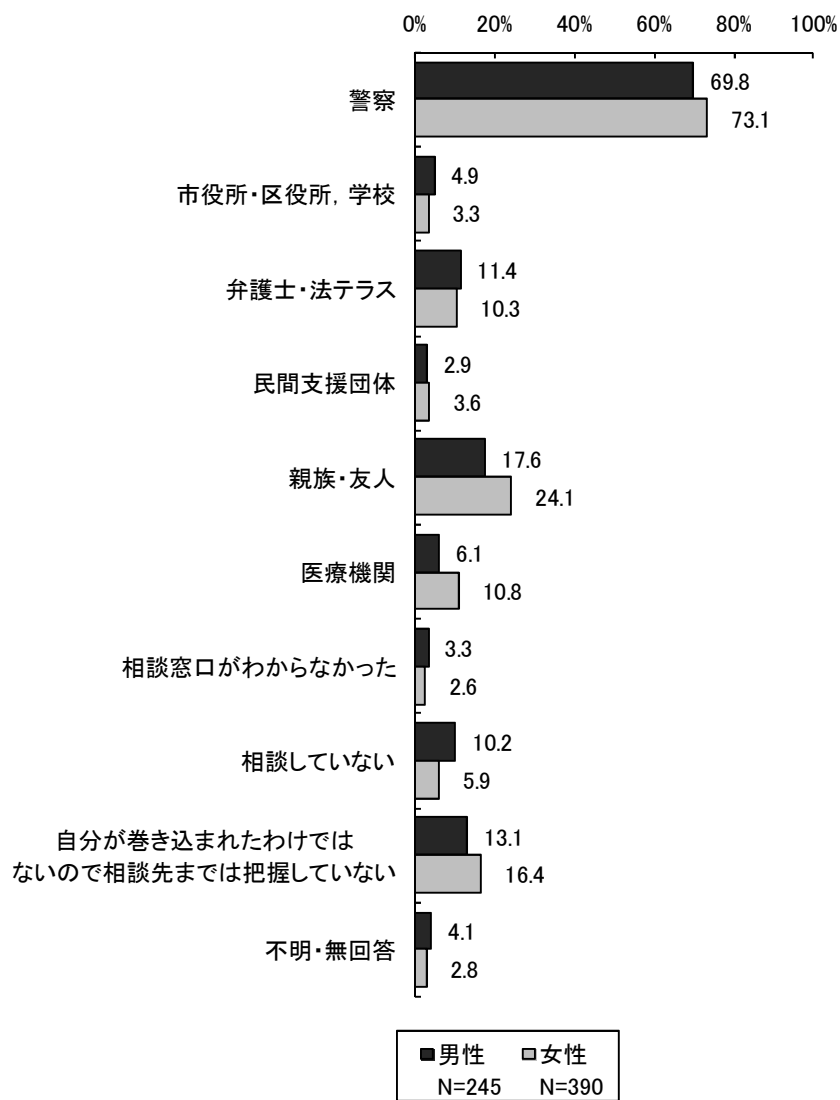


【男女別・年齢別】

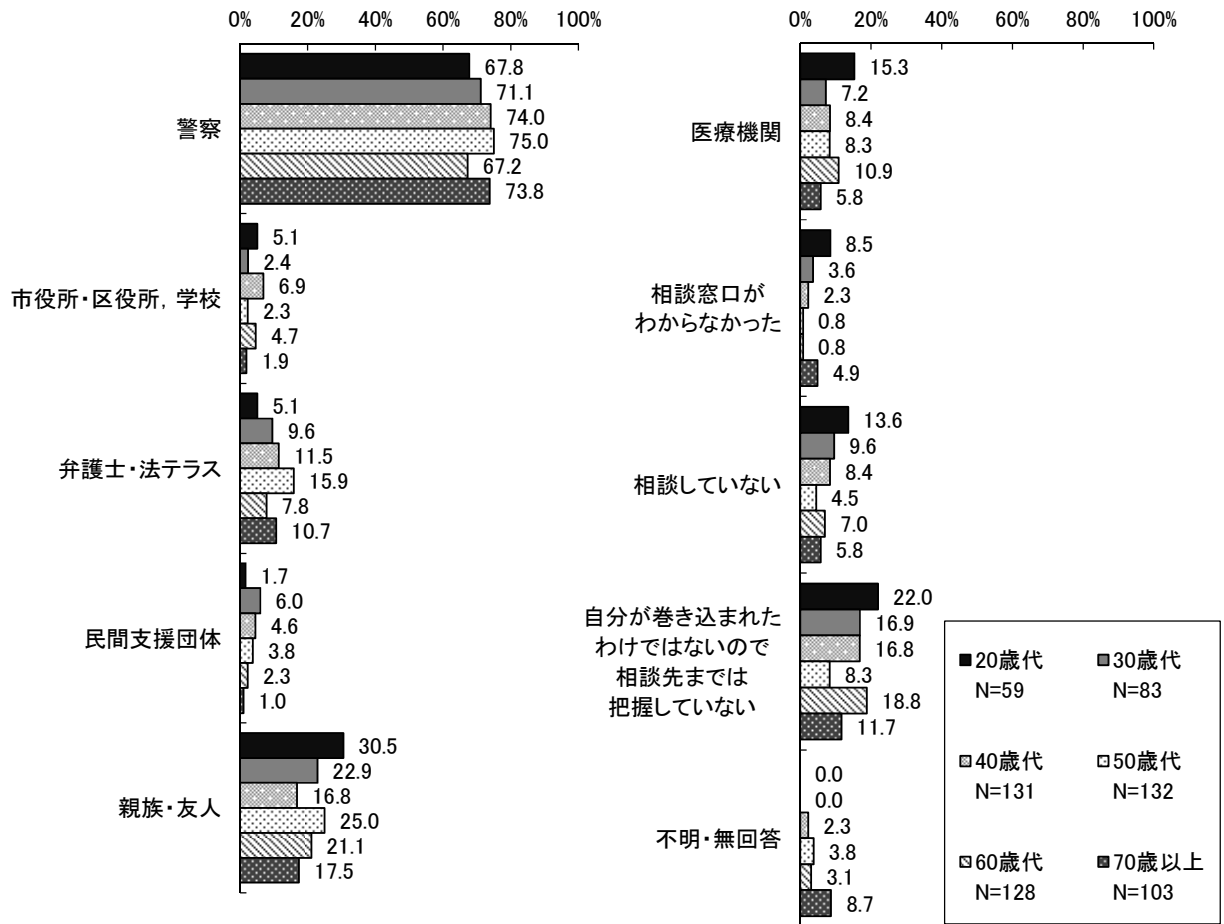
男女別では、「親族・友人」は女性、「相談していない」は男性で高いが、大きな差は見られない。

年齢別では、「親族・友人」「医療機関」は他の年齢に比べて 20 歳代で高い。また、「相談していない」「相談窓口がわからなかった」も他の年齢に比べて 20 歳代で高いが、大きな差は見られない。

<男女別>



<年齢別>



4. 地域による防犯・事故防止について

問 11 地域（自治会・町内会など）で、防犯・事故防止に限らず、特に大切だと思う分野は何でしょうか。（〇は3つだけ）

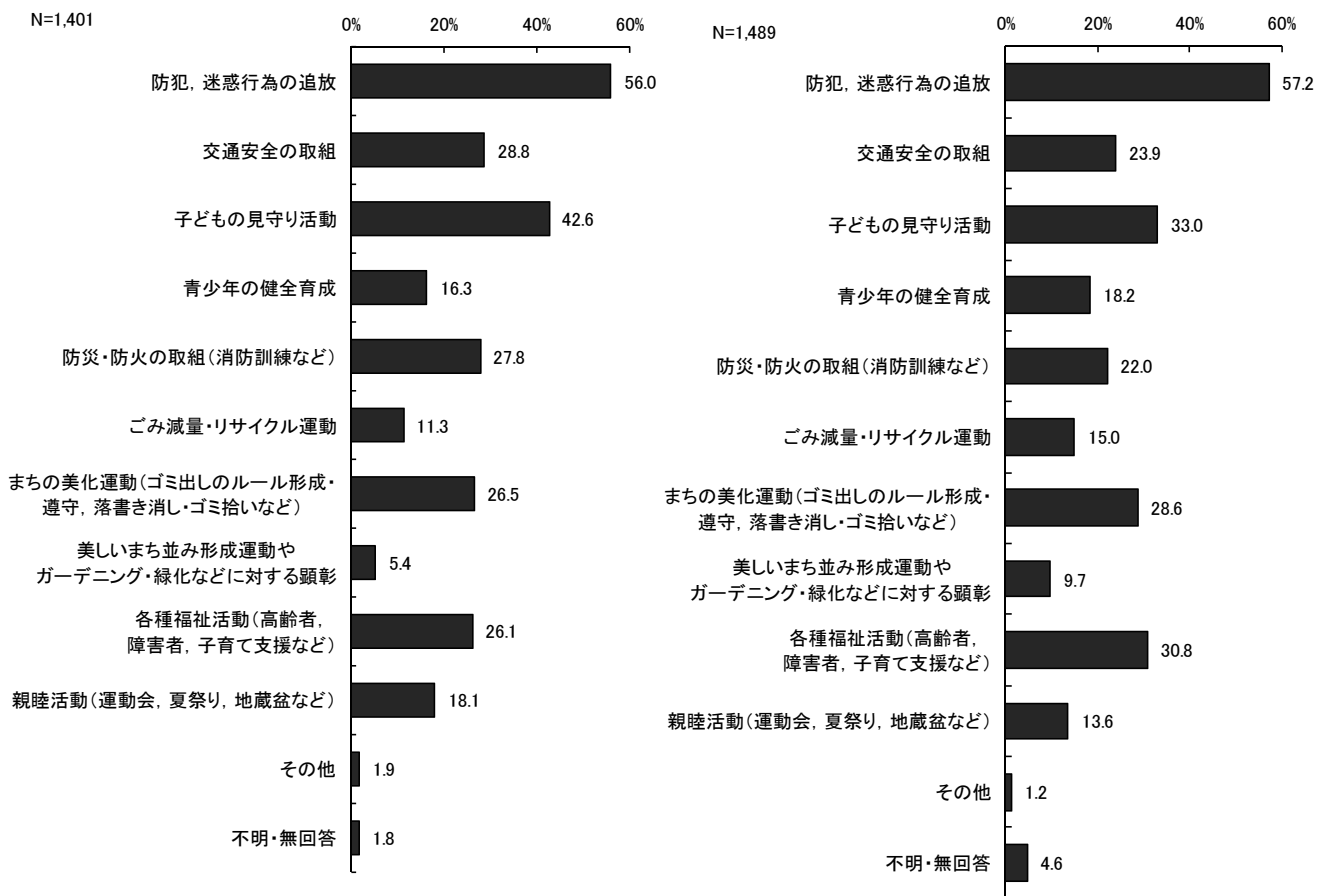
【全体傾向】

「防犯，迷惑行為の追放」が56.0%と最も高い。次いで、「子どもの見守り活動」が42.6%，「交通安全の取組」が28.8%と続いている。

平成21年と比較すると、今回は「子どもの見守り活動」が9.6ポイント高い。

<今回>

<参考：平成21年>

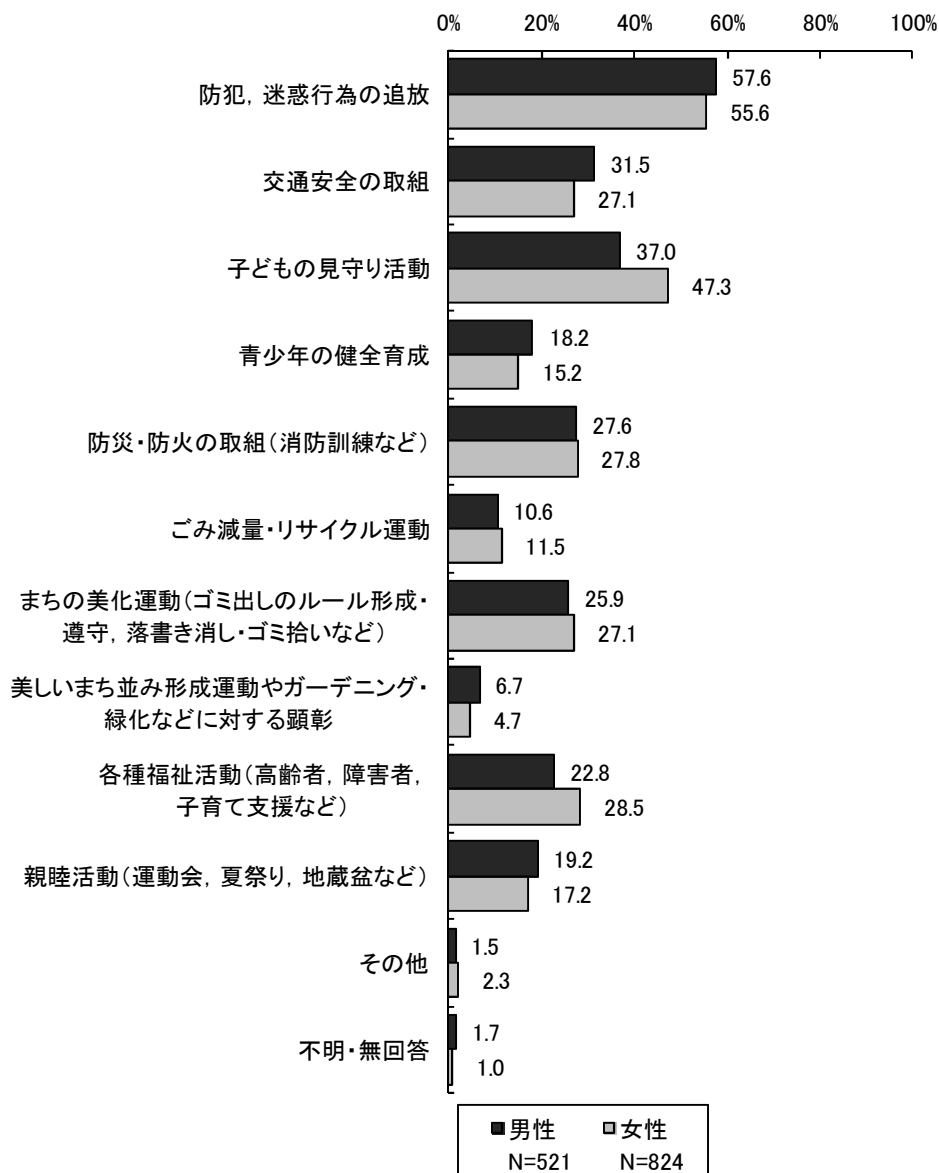


【男女別・年齢別】

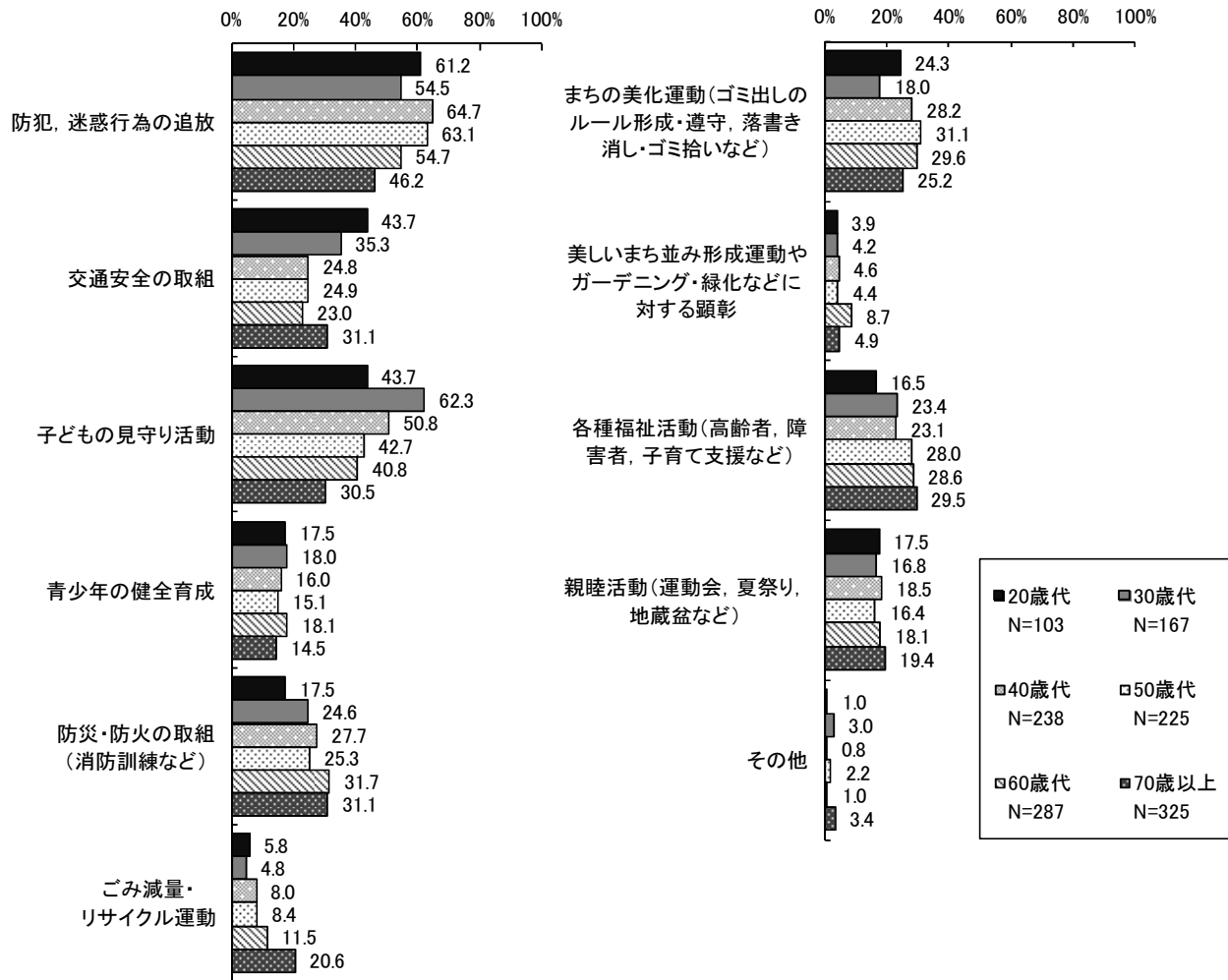
男女別では、「子どもの見守り活動」は女性で高い。

年齢別では、「子どもの見守り活動」は、他の年齢に比べて、30歳代、40歳代で高い。

<男女別>



<年齢別>

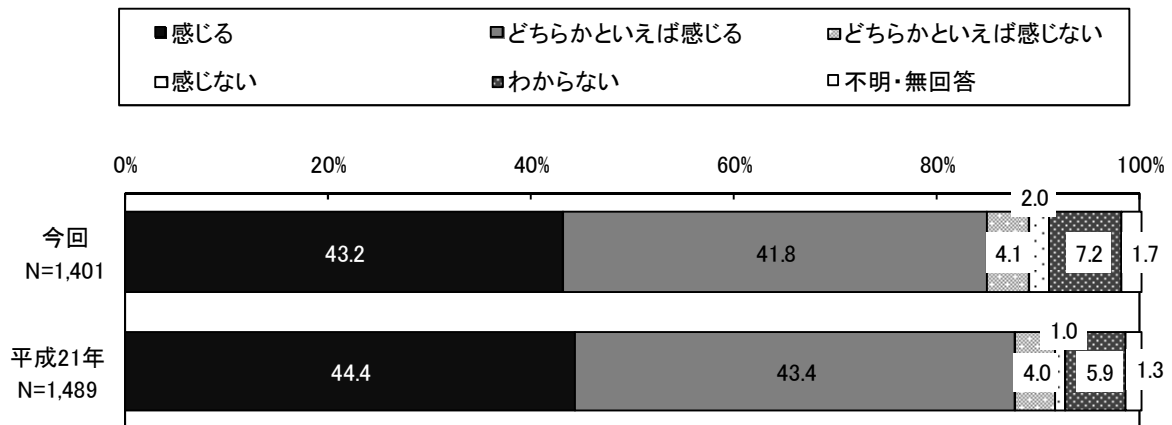


問 12 あなたは、地域（自治会・町内会など）の人々が防犯・事故防止面で協力する必要性を感じますか。（○は1つだけ）

【全体傾向】

「感じる」が 43.2%と最も高い。次いで、「どちらかといえば感じる」が 41.8%、「どちらかといえば感じない」が 4.1%と続いている。

平成 21 年と比較すると、今回とほぼ差はない。また、必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」は今回も引き続き高い。

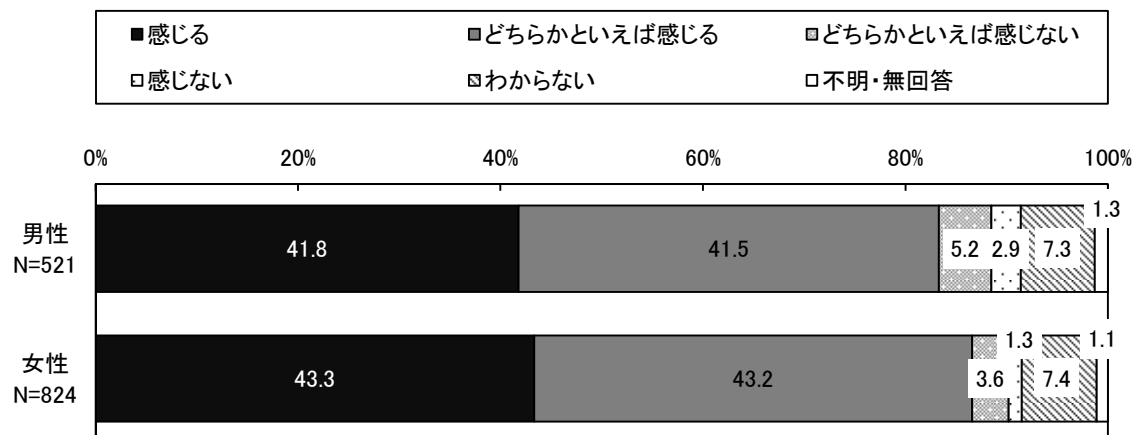


【男女別・年齢別】

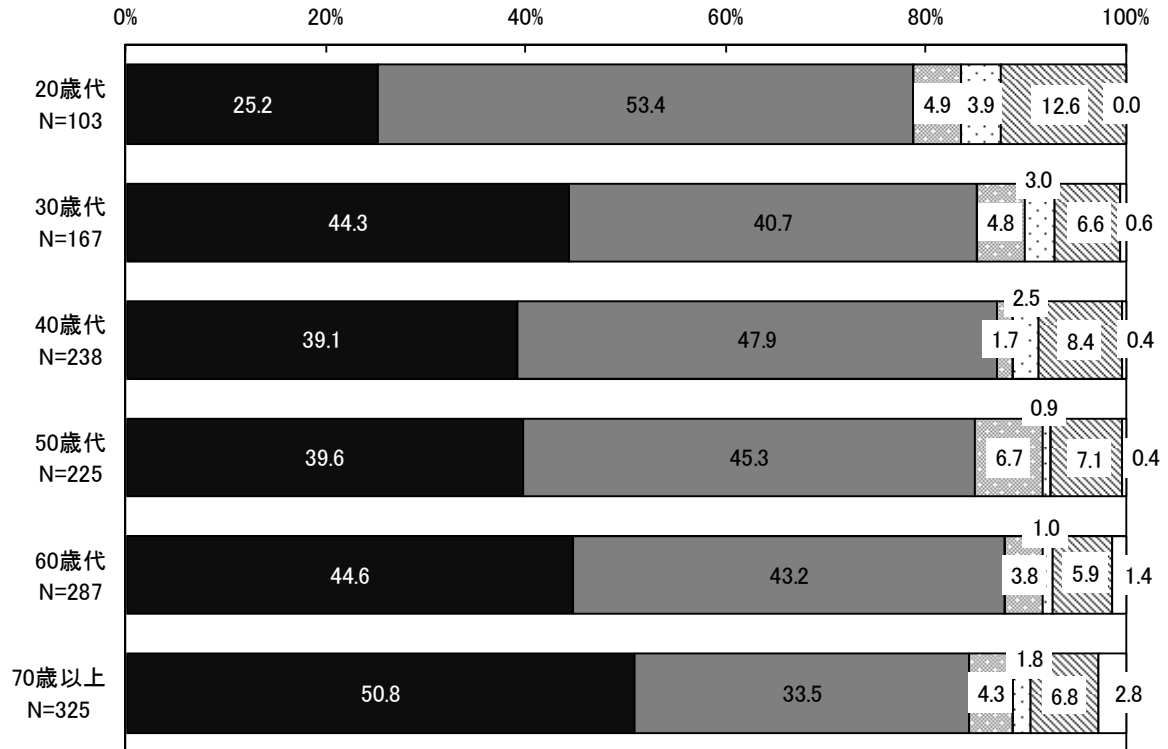
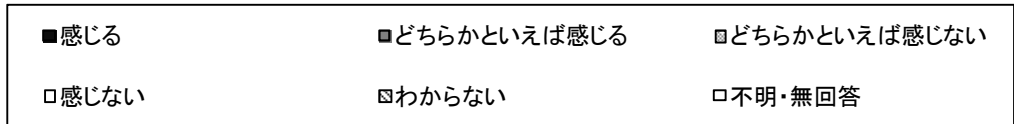
男女別では、男女ともに「感じる」「どちらかといえば感じる」の比率が高い。

年齢別では、「感じる」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。また、「わからない」は 20 歳代で 1 割以上と他の年齢に比べて高くなっている。

<男女別>



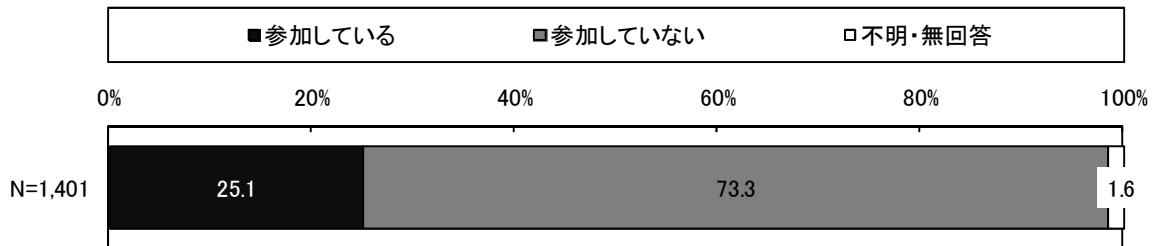
<年齢別>



問 13 あなたは、地域（自治会・町内会など）の人々による防犯・事故防止面の活動に参加していますか。（○は1つだけ）

【全体傾向】

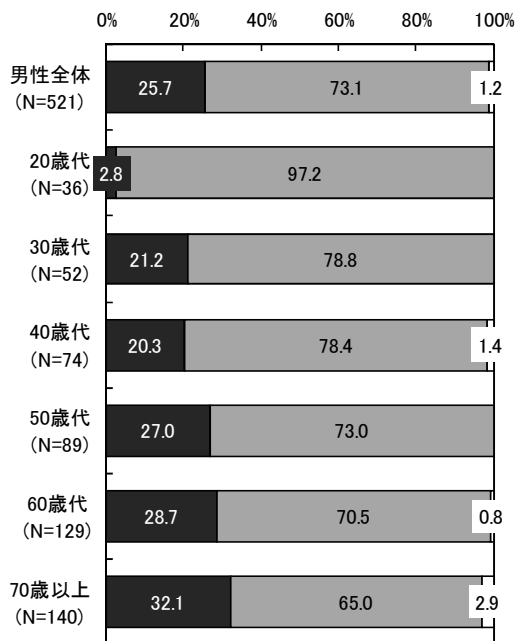
「参加していない」が73.3%、「参加している」が25.1%となっている。



【男女年齢別】

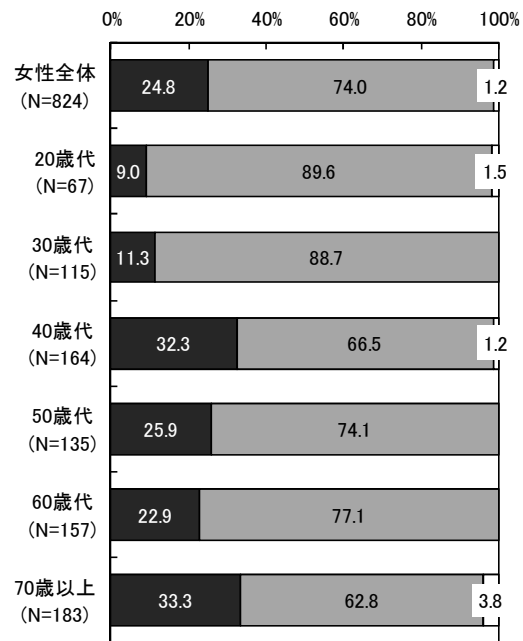
男女年齢別では、「参加している」は、男性で年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。また、女性では、40歳代、70歳以上が3割以上と他の年齢に比べて高い。

<男性>



■参加している □参加していない □不明・無回答

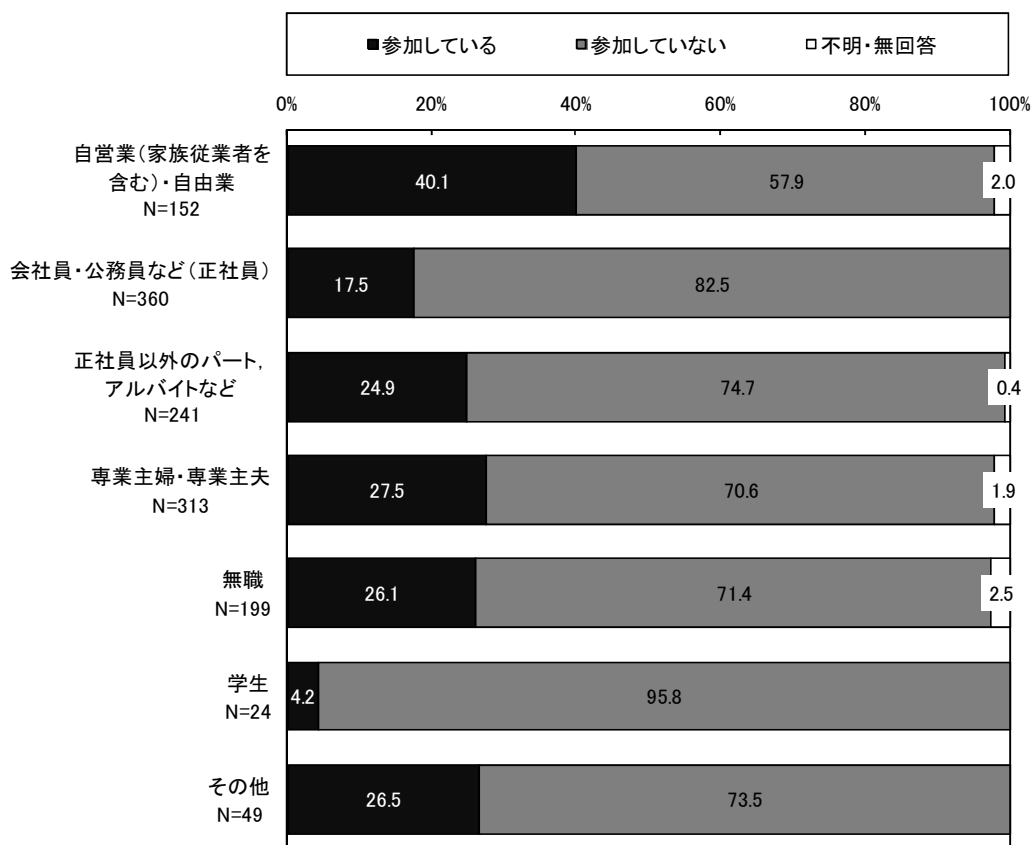
<女性>



■参加している □参加していない □不明・無回答

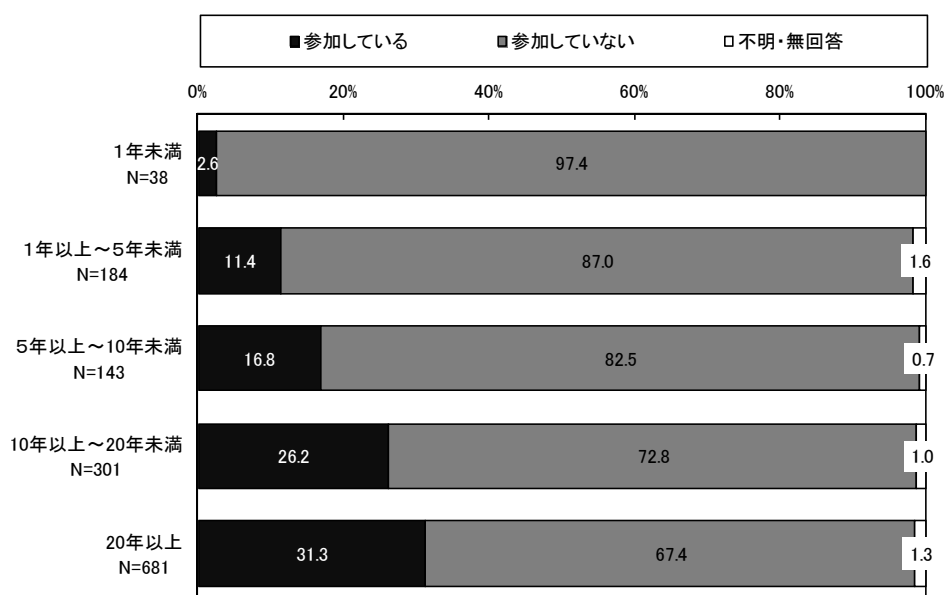
【職業別】

職業別では、「自営業（家族従事者を含む）・自由業」は「参加している」が4割と比較的高い。また、「学生」は「参加していない」が9割以上と高い。



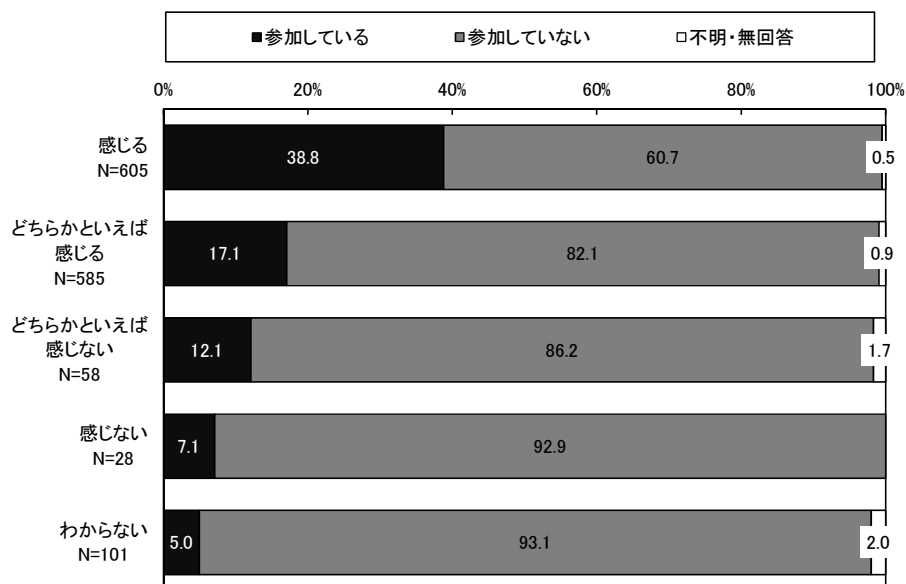
【居住年数別】

居住年数別では、居住年数が高いほど「参加している」の割合が高い。



【問 12 の回答別】

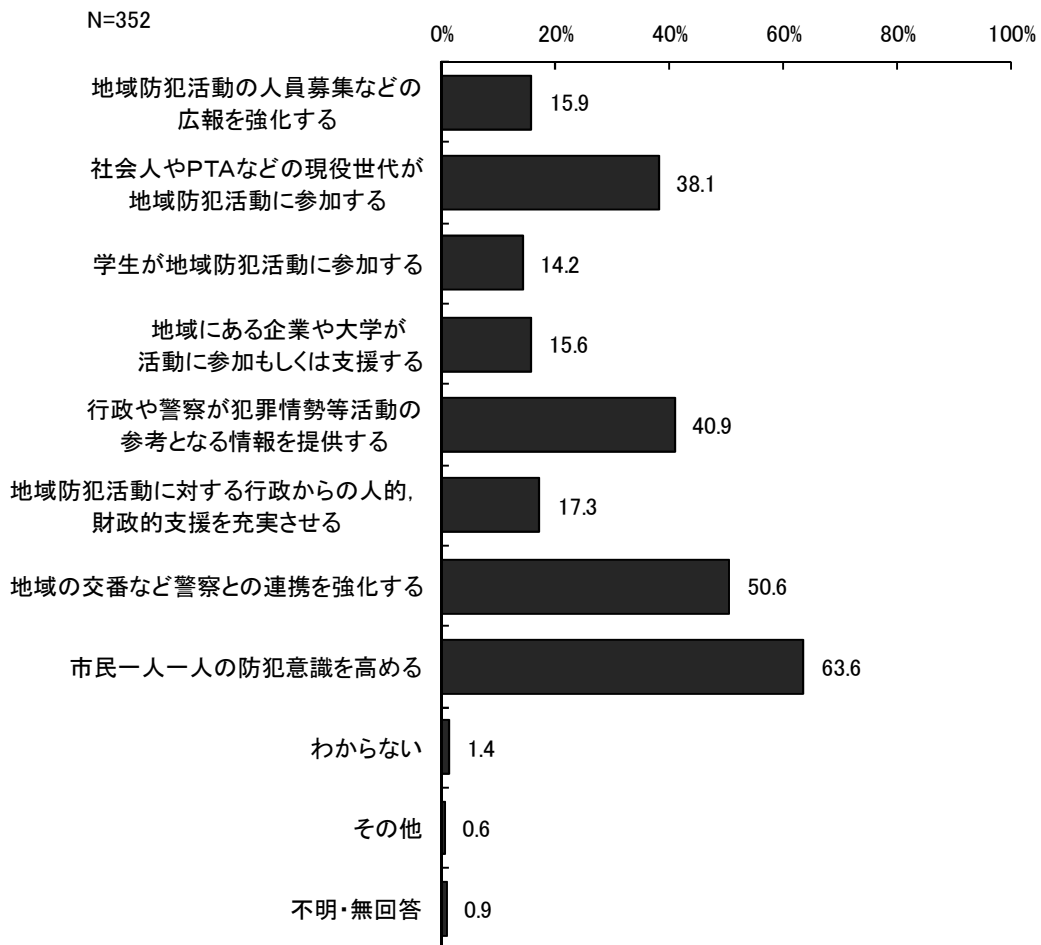
問 12「地域（自治会・町内会など）が防犯・事故防止面で協力する必要性を感じるか」の回答別では、必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」ものの、「参加していない」は約6割～約8割と高い。



問 14 問 13 で「参加している」と答えた方におたずねします。地域防犯活動をさらに強化するには、どのようなことが求められますか。(〇は3つだけ)

【全体傾向】

「市民一人一人の防犯意識を高める」が63.6%と最も高い。次いで、「地域の交番など警察との連携を強化する」が50.6%、「行政や警察が犯罪情勢等活動の参考となる情報を提供する」が40.9%と続いている。

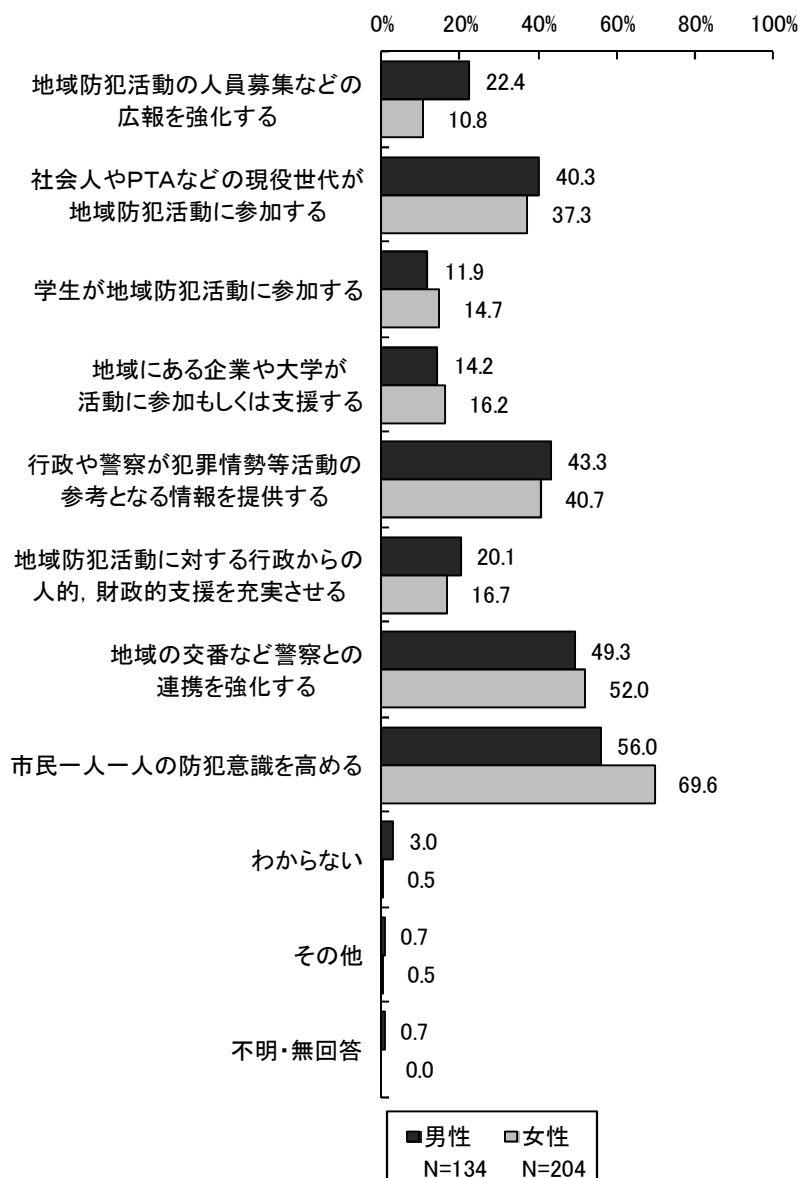


【男女別・年齢別】

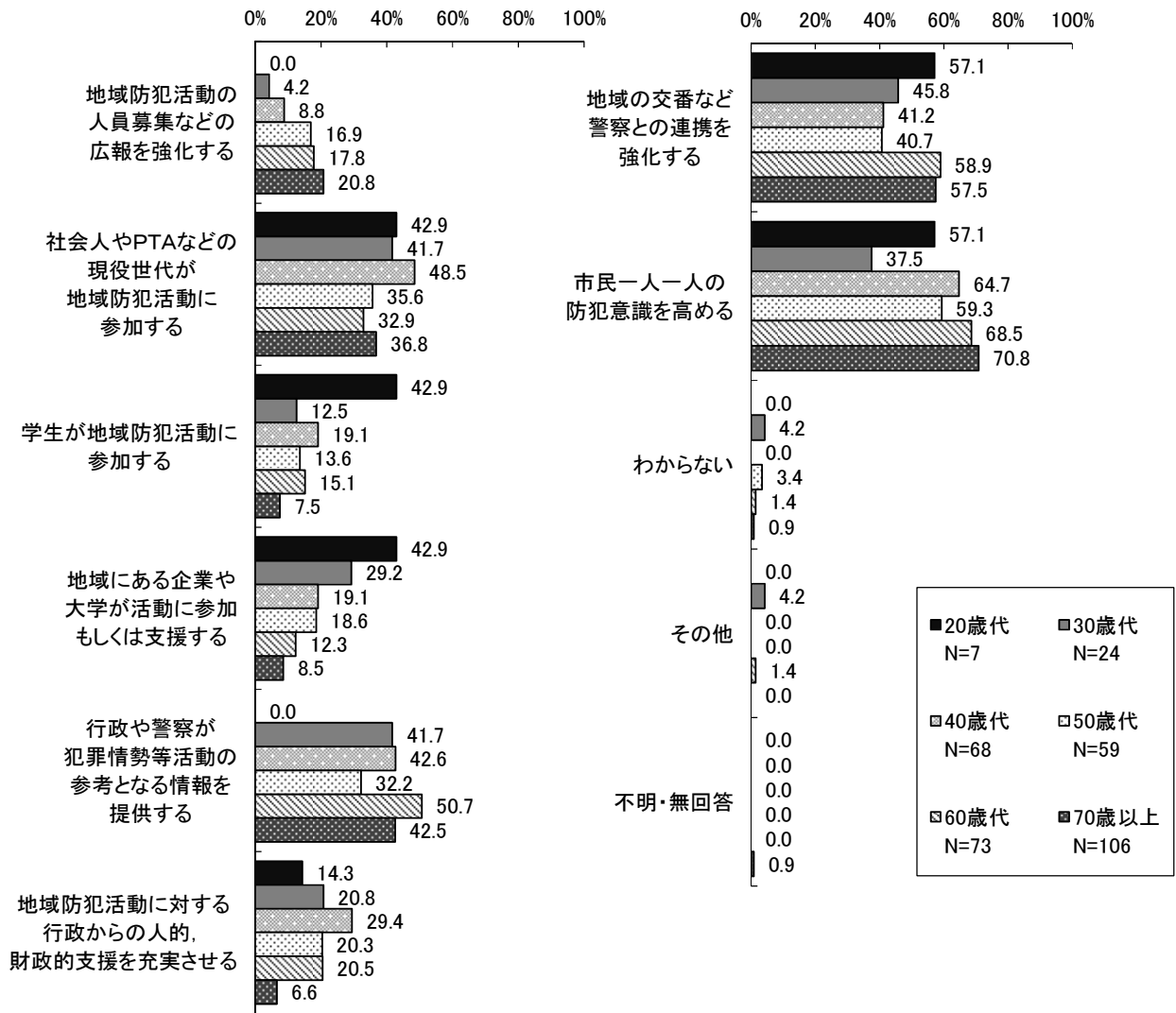
男女別では、「市民一人一人の防犯意識を高める」は女性で高く、「地域防犯活動の人員募集などの広報を強化する」は男性で高い。

年齢別では、「地域防犯活動の人員募集などの広報を強化する」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。また、「地域にある企業や大学が活動に参加もしくは支援する」は、若い年齢で比率が上がる傾向にある。

<男女別>



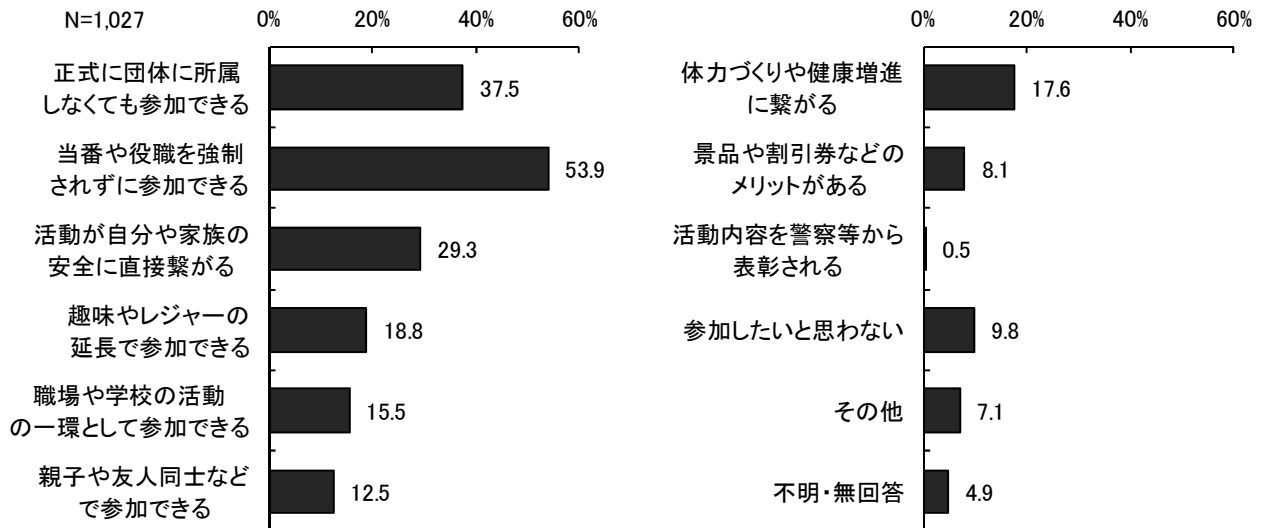
<年齢別>



問 15 問 13 で「参加していない」と答えた方におたずねします。どのような地域防犯活動であれば参加してもよいと思いますか。(〇は3つだけ)

【全体傾向】

「当番や役職を強制されずに参加できる」が53.9%と最も高い。次いで、「正式に団体に所属しなくても参加できる」が37.5%、「活動が自分や家族の安全に直接繋がる」が29.3%と続いている。

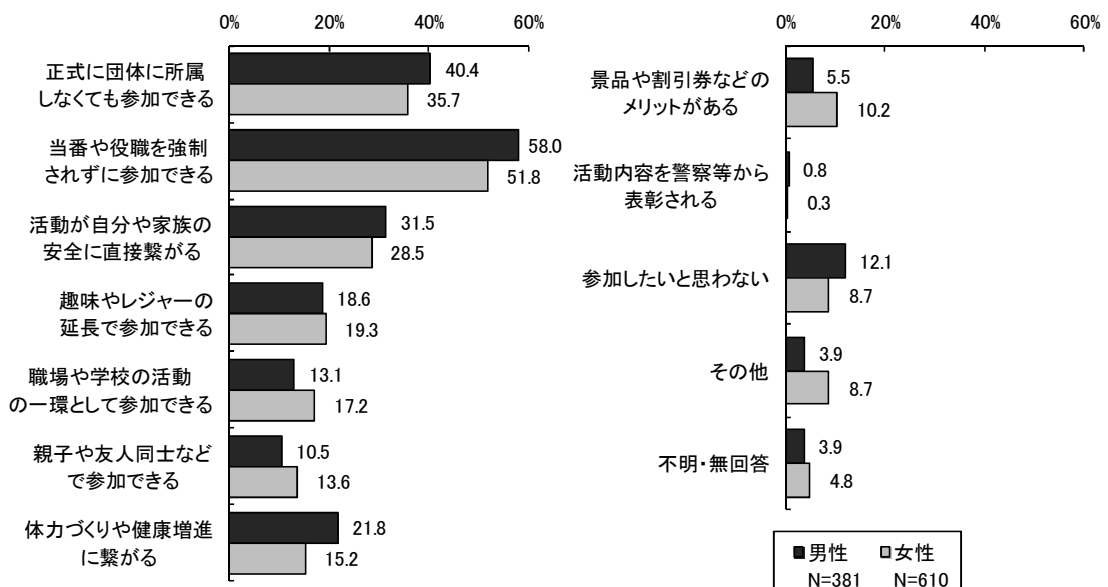


【男女別・年齢別】

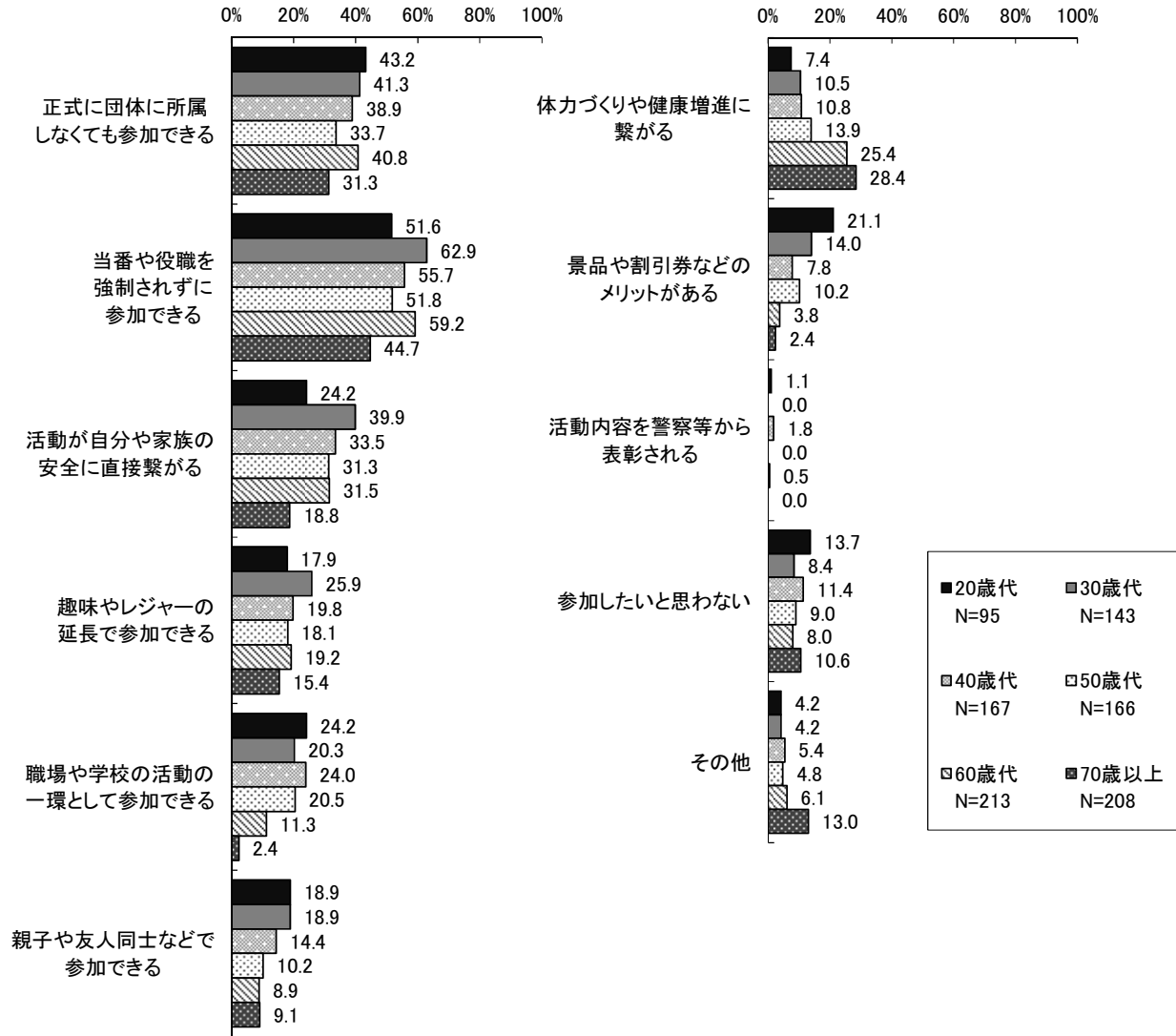
男女別では、「体力づくりや健康増進に繋がる」「当番や役職を強制されずに参加できる」は男性が女性よりも高い。

年齢別では、「正式に団体に所属しなくても参加できる」「活動が自分や家族の安全に直接繋がる」は若い年齢で比率が上がる傾向にある。また、「体力づくりや健康増進に繋がる」は、年齢が上がるほど比率が上がる傾向にある。

<男女別>

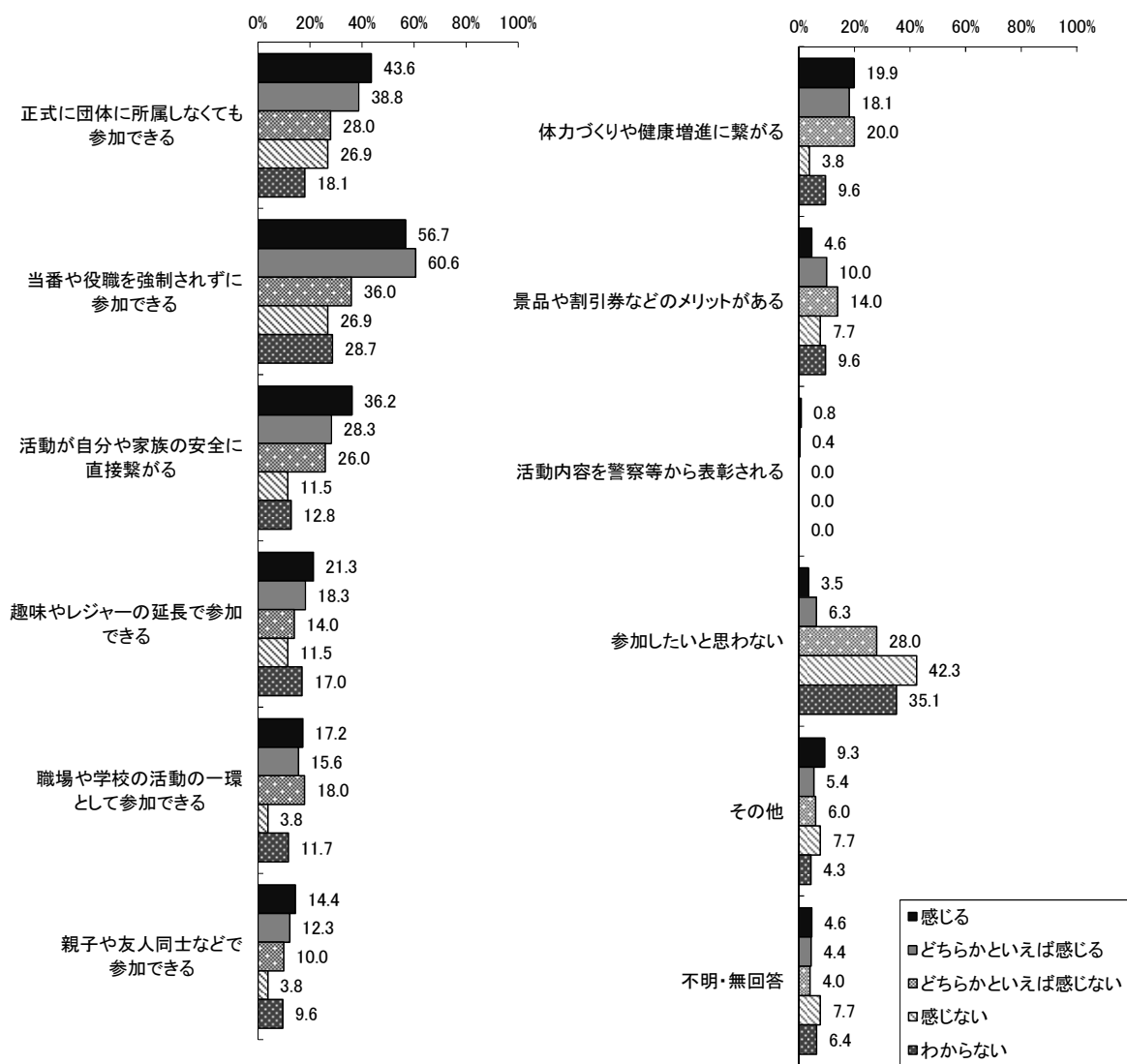


<年齢別>



【問 12 の回答別】

問 12「あなたは、地域（自治会・町内会など）が防犯・事故防止面で協力する必要性を感じますか。」の回答別では、「正式に団体に所属しなくても参加できる」「当番や役職を強制されずに参加できる」は必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」で高い。「参加したいと思わない」は必要性を「感じない」「わからない」で高い。



5. 安心・安全を実現するための総合的な取組について

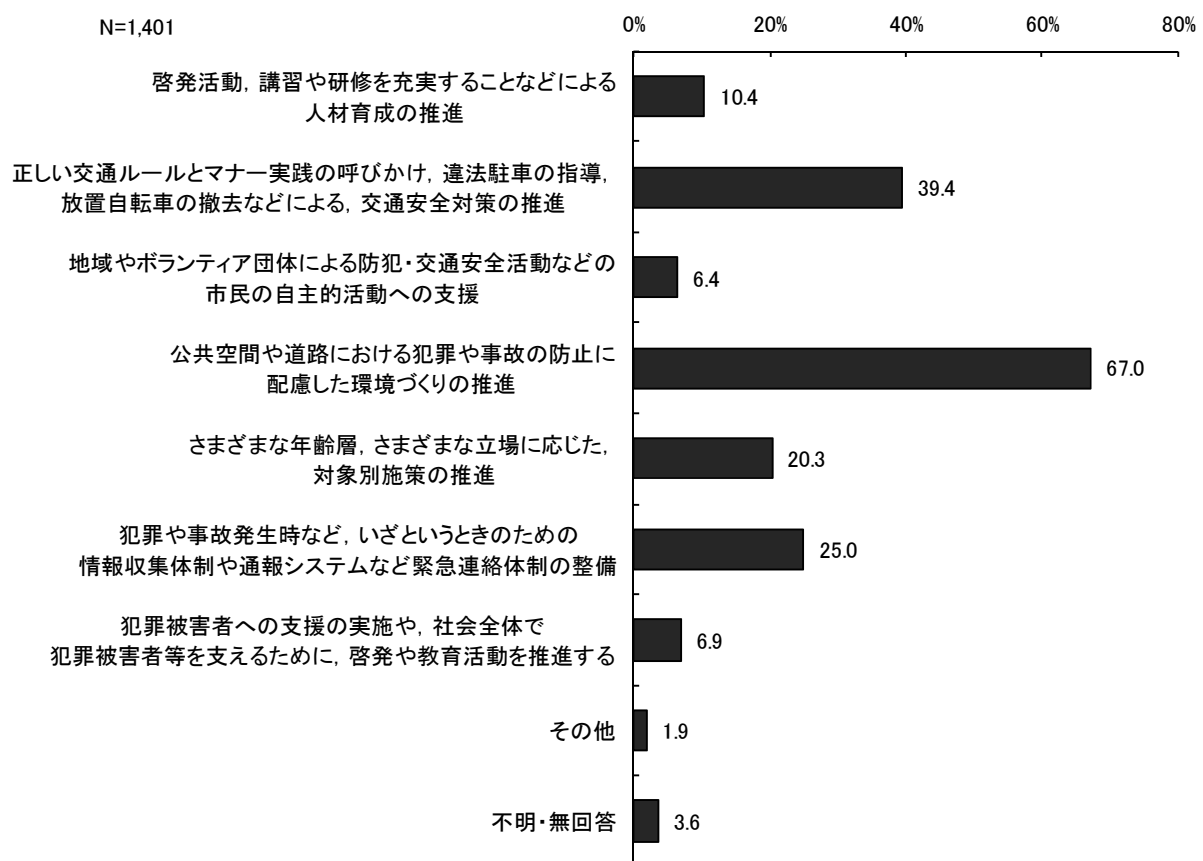
問 16 犯罪や迷惑行為、事故などの問題に関して、市に取組を強化してほしいと思うことは何でしょうか。(〇は2つだけ)

【全体傾向】

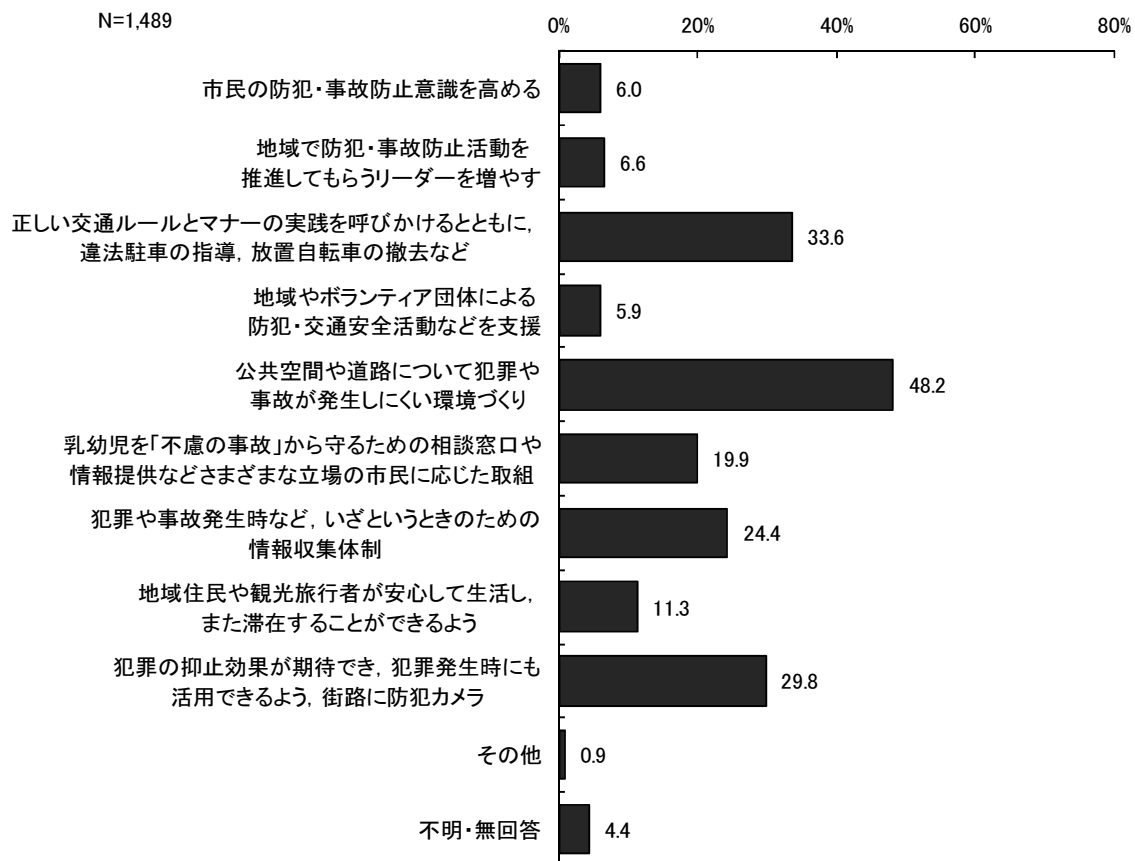
「公共空間や道路における犯罪や事故の防止に配慮した環境づくりの推進」が67.0%と最も高い。次いで、「正しい交通ルールとマナー実践の呼びかけ、違法駐車指導、放置自転車の撤去などによる、交通安全対策の推進」が39.4%、「犯罪や事故発生時など、いざというときのための情報収集体制や通報システムなど緊急連絡体制の整備」が25.0%と続いている。

平成21年と比較すると、今回は「公共空間や道路における犯罪や事故の防止に配慮した環境づくりの推進(平成21年は、「公共空間や道路について犯罪や事故が発生しにくい環境づくり)」が18.8ポイント高い。

<今回>



<参考：平成 21 年>



※問 16：選択肢全文 <今回>

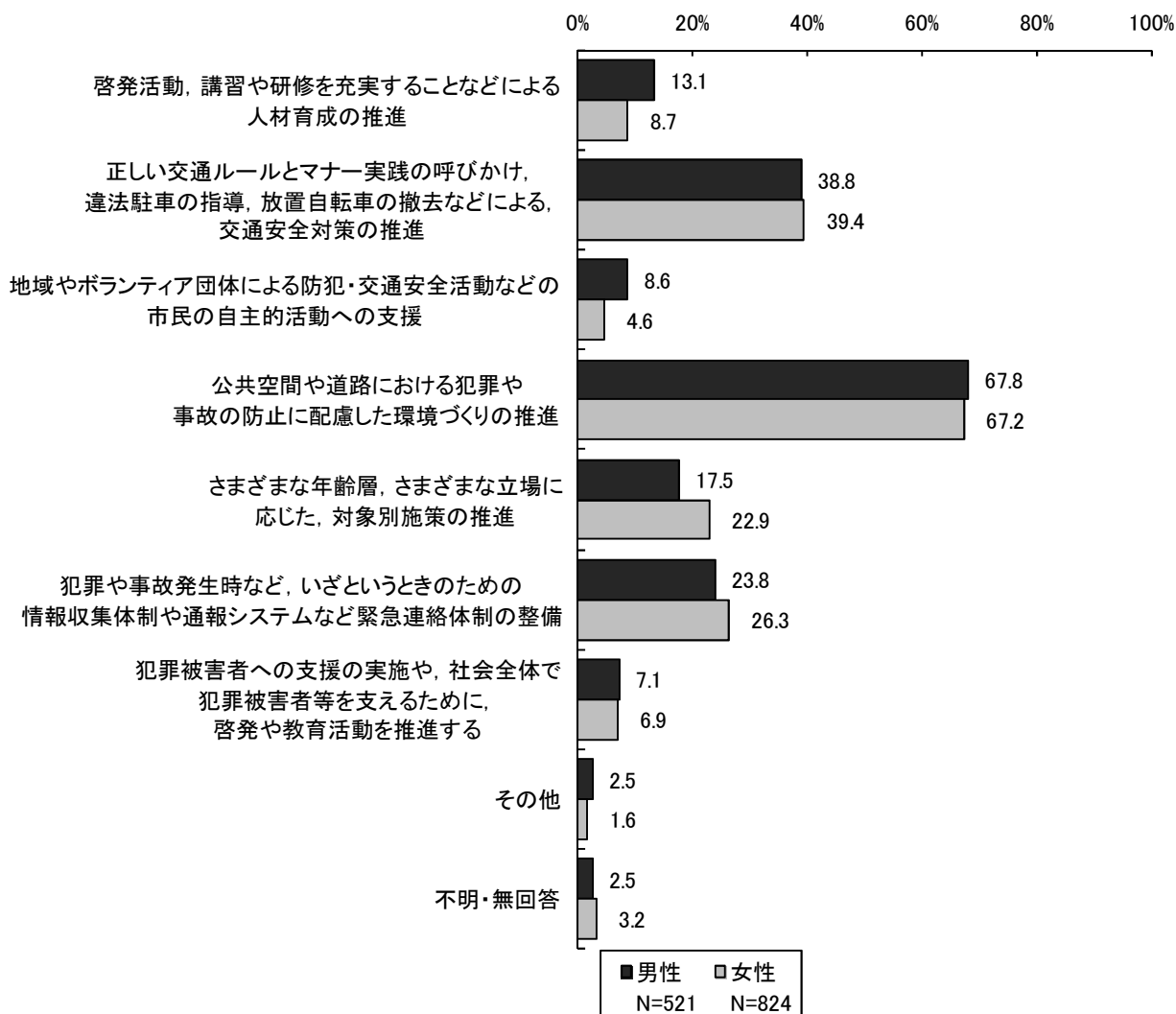
- 1 市民の防犯・事故防止意識を高めるためのパンフレットの発行及び防犯教室・交通安全教室等の充実等による啓発活動や、地域で防犯・事故防止活動を推進してもらいリーダーを増やすための講習や研修を充実することなどによる人材育成を推進する
- 2 正しい交通ルールとマナーの実践を呼びかけるとともに、違法駐車の手配、放置自転車の撤去などにより、交通安全対策を推進する
- 3 生活安全推進活動に貢献する市民や団体の功績をたたえて顕彰したり、啓発活動に必要な物品提供を充実するなど、地域やボランティア団体による防犯・交通安全活動などの市民の自主的活動を支援する
- 4 犯罪の抑止効果が期待できる防犯カメラの設置、公園の植栽の剪定、照明灯増設や公衆トイレの非常用ブザー、街路灯の設置を進めるなど、公共空間や道路について犯罪や事故の防止に配慮した環境づくりを推進する
- 5 「乳幼児、児童、生徒」「青少年」「高齢者、障害のある人」「観光旅行者」など、さまざまな年齢層、さまざまな立場に応じた、対象別の施策を推進する
- 6 犯罪や事故発生時など、いざというときのための情報収集体制や通報システムなど緊急連絡体制を整備する
- 7 犯罪被害者等が受けた被害の回復及び軽減に向けた支援を実施するとともに、社会全体で犯罪被害者等を支えるために、啓発や教育活動を推進する

【男女別・年齢別】

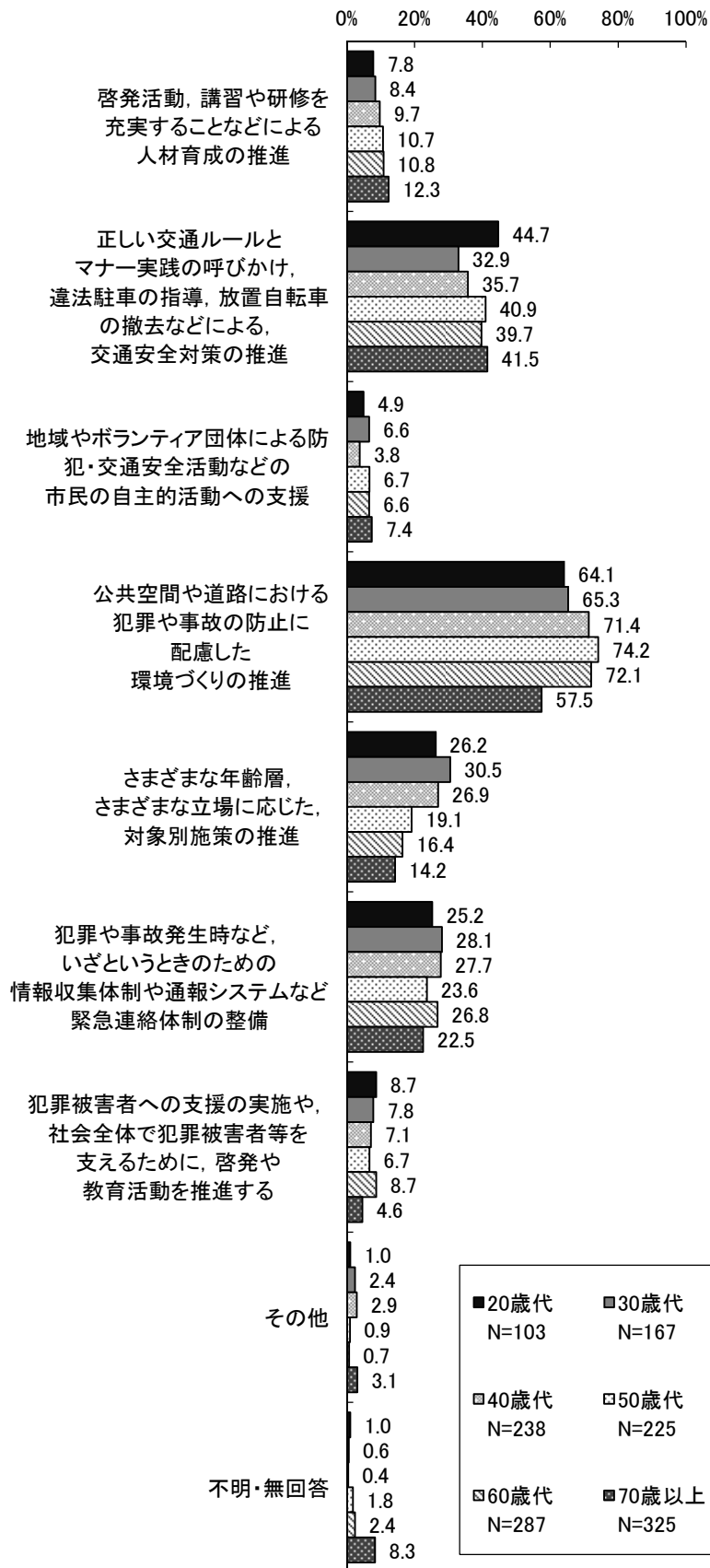
男女別では、「さまざまな年齢層、さまざまな立場に応じた、対象別施策の推進」は女性で高く、「啓発活動、講習や研修を充実することなどによる人材育成の推進」は男性で高い。

年齢別では、「公共空間や道路における犯罪や事故の防止に配慮した環境づくりの推進」は、全ての年齢において比率が高い。また、「さまざまな年齢層、さまざまな立場に応じた、対象別施策の推進」は年齢が上がるほど比率が下がる傾向にある。

<男女別>

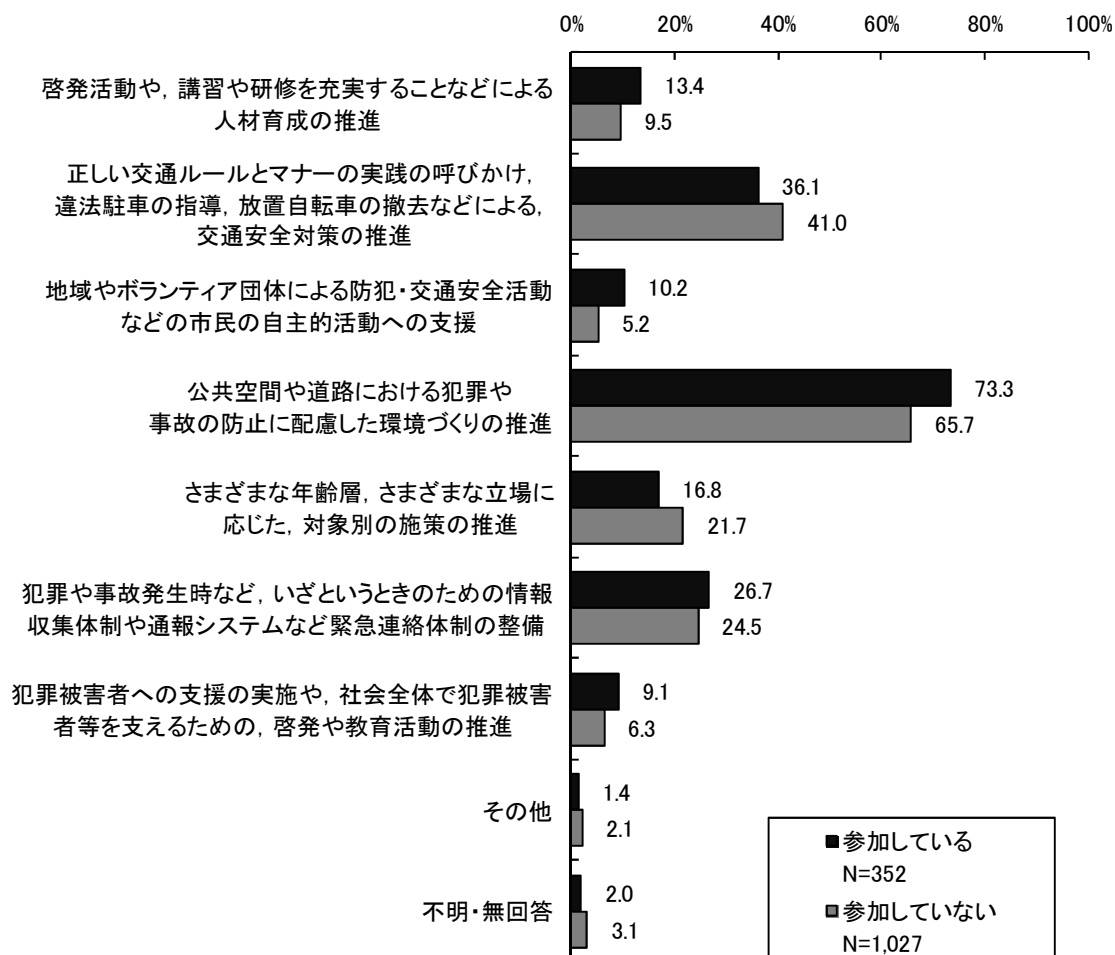


<年齢別>



【問 13 の回答別】

問 13「あなたは、地域（自治会・町内会など）の人々による防犯・事故防止面の活動に参加していますか。」の回答別では、「公共空間や道路における犯罪や事故の防止に配慮した環境づくりの推進」は「参加している」が7割以上と高い。また、「啓発活動や、講習や研修を充実することなどによる人材育成の推進」「地域やボランティア団体による防犯・交通安全活動などの市民の自主的活動への支援」は、「参加していない」に比べて「参加している」が高い。



問 17 「日常生活における防犯・事故防止」についてご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

1. 地域での協力について	件数
近隣住民同士で声掛けや挨拶をする	10
登下校時等、子どもの見守りを地域で継続して行っていく	3
清掃活動を行う	3
幅広い世代がかかわりを持つことで地域の繋がりが強くなると思う	3
子どもや女性が安全に暮らせるネットワークづくりが必要	3
地域で何か起こったときに情報を共有できるように回覧板や携帯メールで知らせるようしてほしい	3
防犯活動や地域の活動に高齢者の方に参加してもらって、健康増進と地域活性化に役立たせる	2
人まかせにせず、住民一人一人が意識を持つ	1
犯罪だけでなく自然災害についても地域での取組が必要であると思う	1
自治会のパトロールは効果が疑問。夜間等、かえって危ないし、当番制だとそれに合わせてスケジュール調整をするのが、若い世代には負担	1
強制されるのではなく、自分のできる活動に参加したい	1
自治体、学区の講習、研修、人材育成と何事においても、いつも同じメンバー・同じ役員で参加していれば活動している、ということになっている	1
2. モラルの大切さやモラルに関する教育の充実	件数
家庭でのしつけや教育が重要	8
日頃からルールやマナーを守り、周囲に迷惑を掛けないようにする	3
挨拶ができなかったりモラルの低い人が増えたように思う	2
自分自身ルールを守り、まじめに生活を送るよう毎日を頑張っている	1
世間がTV等であまりに悪い事件を放送しすぎて、真似をする子どもたちが増えないかと心配する。善悪の大切さを伝える方が大切かと思う	1
3. 市民一人一人の防犯・事故防止意識の大切さ	件数
市民一人一人が防犯意識を高めることが大切	13
夜間の外出は避ける	3
自分が加害者になってしまうことも考えられる。日頃から心の問題に目を向け、穏やかに暮らせるようにする	1
車の多く通る脇道でボール遊びをしている子どもたちを見れば注意している	1
4. 自転車の運転マナー等の向上	件数
自転車の交通ルールについて、もっと啓発と指導を行うべき	7
スマートフォンやイヤホンを使用しながらの運転が多い	5
学生の自転車の運転マナーが悪い	4
小中学校で自転車の運転マナーについて指導をしてほしい	4

4. 自転車の運転マナー等の向上	件数
スピードを出し過ぎている自転車を見かける	4
右側通行をしている人をよく見るので、左側通行を守ってほしい	4
老若男女に関わらず自転車の運転マナーが悪い人が増えた	3
自転車を運転する人の意識向上	3
夜間点灯の徹底	3
子どもを乗せている人が危険な走行をしているのを見かける	2
駐輪場を増やしてほしい	2
丸太町、今出川等は学生が多いのに駐輪場が少ない	1
自動車やバイクと同様に自転車も自賠責保険の加入を義務付けてはどうか	1
歩道の走行は危険なのでやめてほしい	1
自転車利用が多い高齢者だが、自転車マナーは十分守るように乗っている	1
5. バイク、自動車の運転マナーの向上	件数
バスやタクシーの交通マナーが悪い	3
自動車等、進路変更時のウインカーが遅かったり、つけないことを多く見かける	2
朝、夕方のバイクの危険運転の指導の強化をお願いしたい	1
大阪から転入してきたが、無理な割り込や追越が多く、自動車の運転マナーが大阪より劣っていると思う	1
ゴミ収集車の運転が荒く、改善するべき	1
観光バスが増え、あらゆるところで駐停車するため、見通しが悪くなり事故に繋がるおそれがある	1
6. 交通違反の取締強化	件数
自転車の違反運転に対する取締を厳しくするべき	15
違法駐車・放置自転車の取締強化	12
スマートフォン使用等の、ながら運転の取締をするべき	5
一旦停止無視、信号無視等の取締強化	4
スピード違反の取締強化	2
7. 通学路など歩行者のための道路環境の整備	件数
ガタガタしているところがあるので、道路の整備を進めてほしい	6
歩道が狭かったり無いところがあるので整備してほしい	5
スピードが出にくい道路にするために、スピードバンプ設置等の検討を	2
音声信号が少なく、視覚障害があるので外出時に不便を感じる	1
横断歩道を増やす	1
道路の美化を進める	1
観光客も増えてきたので、朝と夜以外は花見小路を車両禁止にしてほしい	1

8. 道路表示など自動車・バイクのための道路環境の整備	件数
道路にはみ出す植木の剪定	2
道路の白線が消えかかっている危ないので、早くなおしてほしい	1
道が狭いので電柱をなくしてほしい	1
東大路通を一車線にするのは反対	1
曲がりくねった道や狭い道が多く、車で通るのが困難なので、一方通行にしてほしい	1
交差点の歩道部分を広げる工事をしたが、事故が減る訳でもなく、渋滞が頻発しており、不便に感じている	1
9. 自転車用道路の整備	件数
自転車専用道路の整備を進めるべき	12
歩道を歩行者用と自転車用に分けてほしい	1
自転車専用道路に駐停車が多く、走行に不安を感じるため、早急な対策が必要	1
10. 交通安全その他	件数
歩行者にも交通ルールをきちんと守ってほしい。何かあったときに悪くなるのは自動車側なので	3
子どもたちに、スタントマンを活用した交通安全の勉強会を開催してほしい	1
家には小学校の子どもがいるので、子どもの交通事故についての取組をしてほしい	1
公共の乗り物（特に市バス）が右京区には少ないため、自家用車が必要であるが、歳をとってもいつまでも自動車に乗る人が多いため事故が多い	1
花園駅前交差点での歩行者障害の監視	1
地域で交通安全に関する講習を行ってほしい	1
11. 防犯カメラ等の設置（街灯、玄関灯）	件数
街灯を増やしてほしい	34
防犯カメラの設置を進める	21
各家庭に玄関灯の点灯を働きかける	5
犯罪防止と称して、繁華街等に防犯カメラを設置したり、警察がインターネットの監視を強化したりするのは、重大なプライバシー侵害や市民の肖像権の侵害なのでやめてほしい	1
12. 公園・トイレ等の環境整備	件数
フェンスの設置や遊具等の点検等、公園の安全性の確保	2
市民税等を役立てて、地域の公園のトイレ等の清掃を高齢者、生活保護の方にしてもらう	1
花があると犯罪が減るといわれているので、公園等に花壇を作ってはどうか	1
小学校の近くに公衆トイレがあるが、犯罪が起こりそうで怖いので、撤去してほしい	1
AEDや避難所の案内板の設置	1

13. 行政に関すること	件数
外国人観光客のマナーの悪さが気になるので、何か対策を取ってほしい	16
モラルに関する学校での教育が必要	8
空家対策を進めてほしい	2
町界を区切らず、高齢者や子ども、女性を守るネットワークづくりをしてほしい	1
基本は各自の意識が大切だと思うが、いざというときの対応について学校等で教えてほしい	1
他県で公用車をパトカー色にペイントしたら、犯罪が減ったという報道を見たので、京都市でも試みてほしい	1
性犯罪に対する刑の重罰化	1
マンションの自治会入会率が低く、行政からも入会の必要性を訴えてほしい	1
夜の公園が溜まり場にならないような対策をしてほしい	1
路上にモノや看板を置いたり、違法駐車を長期に渡り繰り返している事業所への指導を強化してほしい	1
市民の要望、意見を拾う機会を増やす。限られた人の意見ではなく、隅々まで声を聞く	1
防犯事故防止策として、行政及び警察による街宣活動	1
公共交通機関が災害等によりマヒして自宅に帰れない場合等、宿泊の確保や毛布の配布など細かなところをお願いしたい	1
行政で防犯やまち美化の活動をしているけど、普段の生活で伝わってこない。もっとアピールした方がよいと思う	1
今住んでいるところは、町内の飛び地のため、町内会がない。小学校区と行政町内がかい離しているため、秋のお祭りのとき等、子どもを隣の町内（学区を通じて）にお願いをし、参加させてもらっていた。市民の安心・安全を考えるならこのような行政の矛盾を解消すべきでは？まちの区割りの見直しを希望する（その地域の暮らしに根差した行政区の区割りを規定すべきだと思う。それが防犯・事故防止に繋がると思う）	1
夏期の花火（大学生が多い）の行政指導をしていただきたい	1
喫煙所をしっかりと設置してほしい	1
防犯、事故防止に力を入れたパンフレットや講習ではなく、犯罪、事故、火災等が発生した際どうするかに力を入れたものにしてほしい。救急対応のようにいつ起こるか分からない前提の対応策がいい。また危険な場所、よく目につく場所に、その場にあった標語の見直し、充実を希望する。市バスの後方の標語などはとてもいいと思う	1
現在、市が取り組んでいる防犯、事故防止への活動、施策を知りたい。ヘイトスピーチをなくしてほしい。テロ対策を期待する	1
学校や職場でのいじめ問題の取組を強化してほしい	1
14. パトロールの強化	件数
夜間や人通りの少ないところでの警察のパトロール強化	32
警察にはしっかり動いて、市民を守ってほしい	4
警察官が夜に駅付近をパトロールしていただいているのは心強い。また、自転車の点灯指導も助かる	1

15. 身近な交番の充実	件数
交番に警察官が少ないことが多いので意味がないように思う	2
駅前交番ができたことは、犯罪の抑止力に繋がり、安心感が高まった	1
砂川学区は広さの割に駐在所が目立つ所がないので、もう少し目立つように	1
交番が減ったためか、車の一方通行区間の逆走や車両通行禁止区間の走行が非常に増えた	1
稲荷交番の復活	1
16. 警察その他	件数
警察官の不祥事等が増加しているようなので、教育をきちんとしてほしい	3
暴力団等に対する対応強化	1
警察権限の強化	1
運転免許試験をもっと難しくしてほしい	1
自動車教習所のコース内に人（マネキン）や放置自転車等の設置があるとよいと思う	1
一定の年齢になったら再度試験をするなど、高齢者の運転知識や技術の向上	1
インターネットを利用した犯罪の抑制	1
17. 相談窓口や被害者支援の連携・充実	件数
以前被害にあったときに警察が動いてくれず、もっと警察と市との連携が必要だと思った	3
実際に犯罪に巻き込まれたときの対処の仕方を教えてほしい	2
18. その他迷惑行為について	件数
無言電話や非通知設定の迷惑電話	3
歩きスマホ	2
深夜のバイク等による騒音	2
ゴミ出しのマナー	2
ペットや野良猫の糞尿による悪臭	2
歩きたばこやポイ捨て	2
クラブ〇〇は早く住宅街から出て行ってほしい	1
商店街または店舗で（商品を並べている）道路を占拠している光景が多く見られる	1
ゴミが放置されるので、松尾橋付近のBBQの禁止を望む	1
19. その他	件数
自分が住んでいる地域は安全だと思う	3
税金のムダ使いをやめる	3
青少年の犯罪や非行が気になる	2
大人は勤めに行き、子どもは学校に行くと、昼間でも人通りがなくなり、防犯面に不安がある	2
難しいので答えられない	2
北区の〇〇中学校の登下校の道中は人通りがなく、危ないので子どもは通わせたくない	1

19. その他	件数
大阪府豊中市がモデルを作っているように、社会福祉支援チームのようなものをつくり、活動してほしい	1
自転車、バイクの盗難被害をよく耳にする	1
コンビニが多すぎる。便利だが、24 時間も開けておく必要はないと思う。犯罪の低下や、無駄な電力を消費せずに済む	1
登下校時の見守り隊がバイクに対して威圧的であったり、見守り隊自体が邪魔で、カーブの見通しが悪い時がある	1
事故を起こす前にと、70 歳でバイク、自転車はやめた	1
宅地開発による人口の増加が、事故、犯罪（小さな）に、繋がらないかと心配しています	1
公共交通機関を利用してもらうため、自動車（マイカー）を他府県からの入庫時にワンコイン（500 円程度）等、安心・安全社会に利用できる付加金制度を設ける	1
太秦広隆寺付近が危ない。電車と自転車が衝突しそうになっている	1
人気観光地、行きたいまち No.1 というのは大変誇らしいことである。しかし、京都に暮らす者としては住みたいまち No.1、住みやすいまち No.1 も目指していただきたい	1
インターネット、携帯を通じて、気軽に迅速に通報できるようにしてもらいたい	1
スマートフォン等ですぐ悪いことができる世の中なので、顔と顔で話すことが大切	1
私の住んでいる所は新しく来た人が増えた為か、運転マナーが良くない人が増えた気がする	1
市バス利用者のマナーが悪い。またよく混雑するので、本数を増やしてほしい	1
防犯等に関して、努力をしていただいている方々に感謝申し上げる	1
連絡網や緊急エリアメール等で、事件等発生を知るのが早くなり、対応はしやすくなったが、多種多様な犯罪やトラブルが増え不安がある。特に多国語を話す人同士でのトラブル、揉め事等は対応できず困ることがあった	1
学校や保育園、幼稚園の放課後の活用	1
何事も起こってからでないと行動しない役所や警察の人の意識の改善	1
アンケートの「ねらい」と質問事項、内容とが合致していない気がする。問 8 の 1～4 は自転車運転中の質問、5～は歩行者での質問、なぜ一緒なのか。運転免許者はもっと詳しく聞く質問があるはず	1
こんな役に立つかどうか分からないアンケートをとっている間に行動してほしい！	1
加齢のため、何も考え付かないが、教えられれば「あ、そうね」と皆様方の親切に応えるのみ。ためになること、どんどん教えてください	1

